

徳島県立博物館年報

第26号 (平成28年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 26 (for the fiscal year of 2016)

目 次

徳島県立博物館の使命	2
------------	---

I 展 示

1. 常設展	3
2. 企画展	6
3. 特別陳列	12
4. 館外での展示	16
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	17
6. 展示関係出版物	18

II 普及教育

1. 普及行事	20
2. 学校教育支援事業	24
3. 普及教育関係出版物	28

III 調査研究

1. 課題調査	30
2. 分野別（個別）調査研究	31
3. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）	34
4. 科学研究費補助金等による研究	34
5. 他機関との共同研究	34
6. 研究成果の公表	35

IV 資料の収集・保存と活用

1. 採集資料	39
2. 購入資料	39
3. 寄贈資料	39
4. 寄託資料	41
5. 資料の貸し出し	41
6. 写真・映像の提供	41
7. 資料の提供	42
8. 資料の交換	42
9. 館蔵資料数	43
10. 資料収集委員会	43
11. 文献資料の収集	43
12. 資料の保存	44

V 情報の発信と公開

1. 博物館の広報活動	46
2. テレビ・ラジオへの出演等	46
3. インターネットによる情報提供	47
4. 外部ネットワークとの連携	48
5. 情報システムの概要	48

VI 県民協働・参画

1. 博物館友の会	50
2. 博物館公募ボランティア	51
3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	52

VII シンクタンクとしての社会貢献

1. レファレンス業務	53
2. 各種委員会委員等の受諾	53
3. 講師の派遣	55
4. 大学教育への寄与	57
5. 学会・研究会等の運営への寄与	58
6. 博物館ネットワーク	59

VIII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員	61
2. 予算	61
3. 文化の森の連携事業	62
4. 防災及び危機管理	62
5. ユニバーサル化への取り組み	62
6. 博物館協議会	63
7. 各種研修会への参加	63
8. 視察等博物館関係来訪者	63

IX 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標	65
2. 28年度実績と自己評価	73

X 観覧者統計

	88
--	----

XI 施設の概要

1. 沿革	92
2. 施設の概要	93
3. 博物館各室面積	95

XII 例 規

	97
--	----

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—県民とともに活動し、成長する博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

伝

未来にまもり伝える博物館

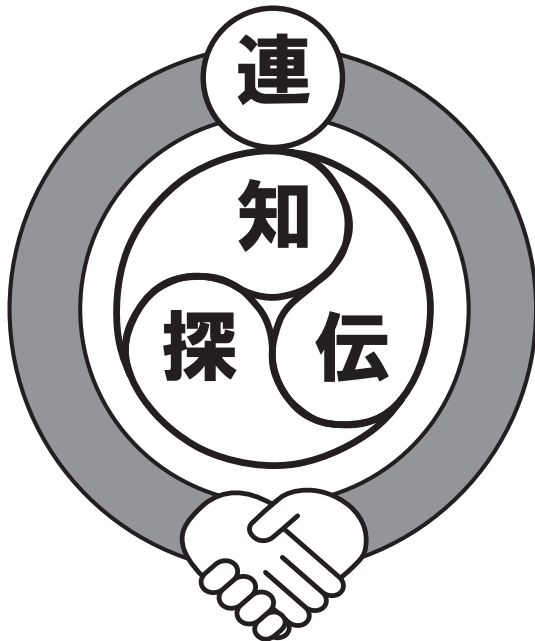
博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 県民とのつながりを大切にする博物館
 - (1) 情報の発信と公開
 - (2) 県民協働・参画
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

そのようななかで、平成26年度に文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」を実施し（年報24号参照）、その成果に基づいて、27年度には文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。こうした展示室等のユニバーサル化やグローバル化については、継続して検討している。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにしている。従来は年3回行っていたが、23年度から予算減少等の理由から2回とし、1回分を所要経費の少ない「特別陳列」に変更した。

28年度は、「トクシマ恐竜展—福井県立恐竜博物館連携企画—」を別枠事業として予算計上したことから、3回の企画展を開催した。しかしながら、年々企画展予算は削減されており、規模の大きな企画展の開催は難しくなっている。

学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、2、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得への工夫が必要となっている。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の3つで構成している。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち など
 自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピーティオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。20年度から、多様な資料の公開を図るため、自然史関係の展示も行っている。

●みんなで調べた西日本のタンポポ

27年度（3月23日（水））～5月29日（日）

展示資料数 30点（館蔵資料30点）

タンポポの種類を調べると、身近な自然環境がわかるといわれている。今回の展示では、2014年と2015年の2年間にわたり、広い範囲でタンポポを調査した「タンポポ調査・西日本2015」の結果について報告・

4 展示

紹介した。

●没後60年 笠井新也

5月31日(火)～7月31日(日)

展示資料数 108点(館蔵資料108点)

美馬市脇町出身の笠井新也(1884 - 1956)は、教職の傍ら、徳島の郷土史家として、また全国レベルの考古学・古代史研究者として活躍した。邪馬台国の所在地は大和であり、箸墓古墳(奈良県)が女王卑弥呼の墓であると最初に考えたことで著名である。この展示では、没後60年の節目に当たり、遺族から寄贈いただいた遺稿、ノート、蔵書などを通じて、笠井の業績を振り返った。

●カミキリムシ展

8月2日(火)～10月30日(日)

展示資料数 10,685点(館蔵資料10,685点)

カミキリムシのなかまは、世界に約3万5千種、日本に約800種が知られる大きなグループである。美しい種や大型の種も多いため、古くから愛好家や研究者の興味の対象となってきた。多くの人を魅了するカミキリムシの世界を、当館のコレクションから紹介した。



「カミキリムシ」の展示風景

●絵図と考古資料からみる城下町徳島

11月1日(火)～1月15日(日)

展示資料数 35点(館蔵資料24点)

天正13年(1585)、豊臣秀吉から阿波国を拝領した藩祖・蜂須賀家政は、涓津(猪山)に城を築き(後の徳島城)、周辺を城下町として整備した。城下町徳島について、主に当館が所蔵する絵図と考古資料を通して紹介した。

●これなあに?—生活の道具今昔—

1月17日(火)～29年度(4月2日(日))

展示資料数 29点(館蔵資料29点)

小学校3年社会科の学習「くらしのうつりかわり」で、昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子を調べる時期に合わせて、当館が収蔵している明治

から昭和期(1868～1989年)にかけての衣食住に関係する道具を展示紹介した。



「これなあに?」展示解説の様子

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で展示替えを行い、以下の資料を展示した。

展示資料数 4点(館蔵資料4点)

①4月1日(金)～6月26日(日)

渡辺広輝筆春秋鶉図 1点、同筆楊貴妃図 1点

②6月28日(火)～1月7日(土)

中山養福筆富士山図 1点

③1月8日(日)～29年度(4月5日(水))

渡辺広輝筆源氏物語薄雲図 1点

(4) 勝浦町産の竜脚類恐竜化石の展示

28年7月3日に勝浦町で発見された竜脚類恐竜の歯化石を、岩石から取り外す前の状態で、常設展示室にあるティタノサウルス全身骨格の前に展示した。

8月10日(水)～9月25日(日)

勝浦町産竜脚類の歯化石 1点(館蔵資料1点)

(5) トピックコーナーでの小展示

28年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●ゾルンホーフエンの化石

27年度(3月29日(火))～5月29日(日)

展示資料数 7点(館蔵資料7点)

始祖鳥も産出したドイツ南部にあるゾルンホーフエンという化石産地と、産出する化石(カプトガニ、トンボ、アンモナイトなど)について紹介した。

●新着資料紹介 戦争関係資料

5月31日(火)～8月28日(日)

展示資料数 8点(館蔵資料8点)

近年、寄贈された戦争関連資料(千人針や竹槍、書

簡、地図など)を紹介した。

●新着資料紹介 屋根裏に残された信仰の証し

8月30日(火)～10月23日(日)

展示資料数 39点(館蔵資料39点)

文化年間に建てられた旧家(上勝町生実)の屋根裏に残されていた、この家の信仰に関する紙札、掛け軸、おまもりなどを、新着資料として紹介した。

●浜辺で拾ったエビとカニ

ー漂着甲殻類を10倍楽しむ方法!ー

10月25日(火)～1月22日(日)

展示資料数 100点(館蔵資料0点)

県内の漂着物研究会である“とくしま海の観察会”の副会長として活動する西川忠行氏が、主として県内の海浜で収集してきた漂着エビ・カニコレクションの一部を分類群ごとに展示した。



「浜辺で拾ったエビとカニ」の展示風景

●高校生が調べた徳島の浜辺

ー漂着浮子についての研究からー

1月24日(火)～4月2日(日)

展示資料数 100点(館蔵資料0点)

徳島県立徳島科学技術高等学校マリナリサーチクラブの榊井厚志君を中心とした高校生部員が、1年間かけて鳴門市と牟岐町で収集・調査した漂着浮子について、季節変化や採集地などの違いを踏まえ展示した。

(6) 博物館ロビー等での小展示

28年度は常設展示入口周辺の博物館ロビーや、2階エントランス、中央ロビー(鳥居龍蔵記念博物館前)などにおいて小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、その時に適した内容があれば実施する。

●県の石

5月17日(火)～10月30日(日)



「高校生が調べた徳島の浜辺」の展示風景

展示資料数 3点(館蔵資料3点)

日本地質学会が5月10日に「県の石」を各都道府県ごとに3点ずつ認定したことに伴い、博物館ロビー(ラプラタ記念ホール入口)に小コーナーを設置して、徳島県の石(青色片岩)、徳島県の鉱物(紅簾石)、徳島県の化石(ペテロトリゴニア)を展示した。

●連携展示「阿波の道を歩く 芭蕉をめざした男・

酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治

(「阿波の街道、遍路道」のコーナー)

7月20日(水)～8月28日(日)

観覧者数 56,984人

展示資料数 15点(館蔵資料5点)

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「徳島県の文化の創造的再発見事業」(近代美術館に事務局を置く「徳島県の文化の創造的再発見事業」実行委員会による主催。実行委員会は、近代美術館とともに、当館、文書館及び外部有識者で組織した)の一環として開催した。博物館で担当した「阿波の街道、遍路道」コーナーは、2階エントランス及び中央ロビーで展開した。現代美術と歴史資料を融合した展示の試みであった。当館とともに、近代美術館、文書館を巡るスタンプラリーも行った。

●「徳島県勝浦町地域の白亜紀植物化石」の展示

9月1日(木)～2月3日(金)

展示資料数 15点(館蔵資料15点)

勝浦町の恐竜化石が発見された地層から産出する植物化石(シダ植物、裸子植物など)を2階中央ロビーで展示した。

●干支の動物「酉」の展示

1月5日(木)～29日(日)

展示資料数 7点(館蔵資料7点)

2017年の干支「酉」に因んでキジ科の鳥5種の剥製を博物館入口ロビーで展示した。

6 展示



「阿波の道を歩く」の展示風景



干支の動物「酉」の展示風景

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 平成28年4月20日(水)～6月12日(日)
(開館日数47日)
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般200円(65歳以上100円)
高校・大学生100円 小・中学生50円
- 観覧者数 9,356人
- 展示構成
 - (1) 脊椎動物：魚類タイプ標本／阿部近一鳥類コレクション
 - (2) 無脊椎動物：中川健コレクション(徳島県産甲虫・蝶など)／陸産貝類コレクション
 - (3) 岩石鉱物コレクション
 - (4) 植物：種子・果実コレクション他
 - (5) ハンズオンコーナー

●展示資料数 10,966点(館蔵資料10,695点)

●関連行事

展示解説

- 第1回：4月24日(日) 14:00～14:30
参加者 60人
- 第2回：5月1日(日) 14:00～14:30
参加者 50人
- 第3回：5月15日(日) 14:00～14:30
参加者 54人
- 第4回：5月22日(日) 14:00～14:30
参加者 36人
- 第5回：6月5日(日) 14:00～14:30
参加者 108人
- 第6回：6月12日(日) 14:00～14:30
参加者 40人

2. 企画展

平成28年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「自然だいすき！ みんなの自然コレクション」

博物館では、多くのコレクターによるコレクションを、寄贈などの形で受け入れることが、ひとつの重要な資料入手の方法となっている。この企画展では、徳島県内外のコレクターが収集してきた資料の中から、比較的身近な場所に見られる自然史資料を用いて、その“多様さ”や“面白さ”を分かりやすく紹介した。

また、低年齢者を主な対象に、ハンズオンならびに参加型展示の手法を多用して、観覧者が楽しみながら理科体験を行い、「科学する心」を芽生えさせることを目指した。



「みんなの自然コレクション」展示解説の様子

(2) 第2回企画展「トクシマ恐竜展 ー福井県立恐竜博物館連携企画ー」

今から約2億5,000万～約6,600万年前の中生代は、恐竜が大繁栄したことから恐竜時代ともいわれ、三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の3つの時代からなる。中生代は、現在から比べると非常に温暖な時代であり、陸上では裸子植物が大発展し、恐竜が隆盛を極めた時代である。一方、海では、魚竜や首長竜などの大型爬虫類が生態系の頂点に立ち、アンモナイトなどが繁栄した。また、私たち人間の先祖である原始的な哺乳類が出現した時期でもある。

この企画展では、福井県立恐竜博物館の協力のもと、幅広い世代に人気のある恐竜に焦点をあて、国内外の恐竜をはじめとする様々な化石を紹介した。なお、当館は、平成18年度より福井県立恐竜博物館と連携博物館の協定を結び、研究や教育普及、展示などで協力してきた。28年度は、連携博物館締結10周年であった。

- 主催 トクシマ恐竜展実行委員会、
徳島県教育委員会、徳島新聞社
- 後援 NHK 徳島放送局、四国放送、エフエム徳島、
徳島県文化振興財団
- 特別協力 福井県立恐竜博物館
- 期間 平成28年7月15日（金）～9月19日（月）
（開館日数59日）
- 会場 博物館企画展示室、多目的活動室、
イベントホール
- 観覧料 一般 1,200円（前売り1,000円）
高校生 800円（前売り600円）
小・中学生 600円（前売り400円）
高齢者（65歳以上） 1,000円
- 観覧者数 62,276人
- 展示構成

～プロローグ～ 恐竜とは？

～第一章～ 恐竜や哺乳類が誕生した時代「三畳紀」

～第二章～ 巨大恐竜の繁栄の時代「ジュラ紀」

～第三章～ 生物多様化の時代「白亜紀」

～第四章～ 徳島周辺の恐竜時代

～エピローグ～ 恐竜時代の終わり

●展示資料数 237点（館蔵資料180点）

●開会式

飯泉嘉門実行委員会名誉委員長（徳島県知事）、米田豊彦委員長（徳島新聞社理事長）、美馬持仁副委員長（徳島県教育長）、喜多宏思徳島県議会副議長、東洋一福井県立恐竜博物館特別館長の5人によって、開会のテープカットが行われた。

日時 7月15日（金）9：00～9：30

場所 1階エントランスホール

●関連行事

①展示解説

第1回：7月17日（日）14：00～15：00

参加者 40人

第2回：8月20日（土）14：00～15：00

参加者 60人

第3回：9月4日（日）14：00～15：00

参加者 100人

②記念講演会

講師 今井拓哉氏（福井県立恐竜博物館研究員）

演題 福井県の発掘からわかる、恐竜から鳥への進化

日時 8月28日（日）13：30～15：00

場所 博物館講座室

参加者 38人

③普及行事「恐竜の歯のレプリカをつくろう」

第1回：7月31日（日）13：30～14：30、
15：30～16：30

場所 博物館実習室

参加者 59人

第2回：9月17日（土）13：30～15：00



「トクシマ恐竜展」エントランスホールの展示風景



「トクシマ恐竜展」多目的活動室の展示風景



「トクシマ恐竜展」開会式

場 所 博物館実習室

参加者 26人

④普及行事「貝化石をクリーニングしよう」

日 時 9月11日(日) 13:30～15:00

場 所 博物館実習室

参加者 15人

●その他の関連行事

①クイズラリー

会場入口に用紙を設置、クイズは月ごとに変更して毎日行った。展示物を見ればわかる簡単なクイズに答えてもらいながら、展示に対する興味と理解を深めるようにした。

②恐竜缶バッジプレゼント企画(高校生以下対象)

クイズラリー参加者のうち、午前・午後各先着50人(毎日)にオリジナル恐竜缶バッジをプレゼント。缶バッジは全期間共通のものと毎月変わる限定版の計4種類用意した。

③化石発掘体験コーナー

実物のモササウルスの歯やアンモナイトの化石を砂の中から探して、見つけた化石を1つ持って



「トクシマ恐竜展」化石発掘体験

帰ることができる。

日 時 開催期間の毎日(9:40～16:20、10分間隔で実施)

場 所 イベントホールホワイエ

定 員 1回の定員10人

材料費 600円

④「トクシマ恐竜展」開催記念映画会

映画「ロスト・ワールド」(1925年版)の上映。二十一世紀館が主体になって実施した。

日 時 7月27日(水)、8月3日(水)、
8月10日(水)、8月17日(水)、
8月24日(水)、8月31日(水)
いずれも14:00～15:05

場 所 ミニシアター

定 員 各50人

⑤お盆企画「徳島におかえり、恐竜展にようこそ」
県外在住者限定プレゼントキャンペーン

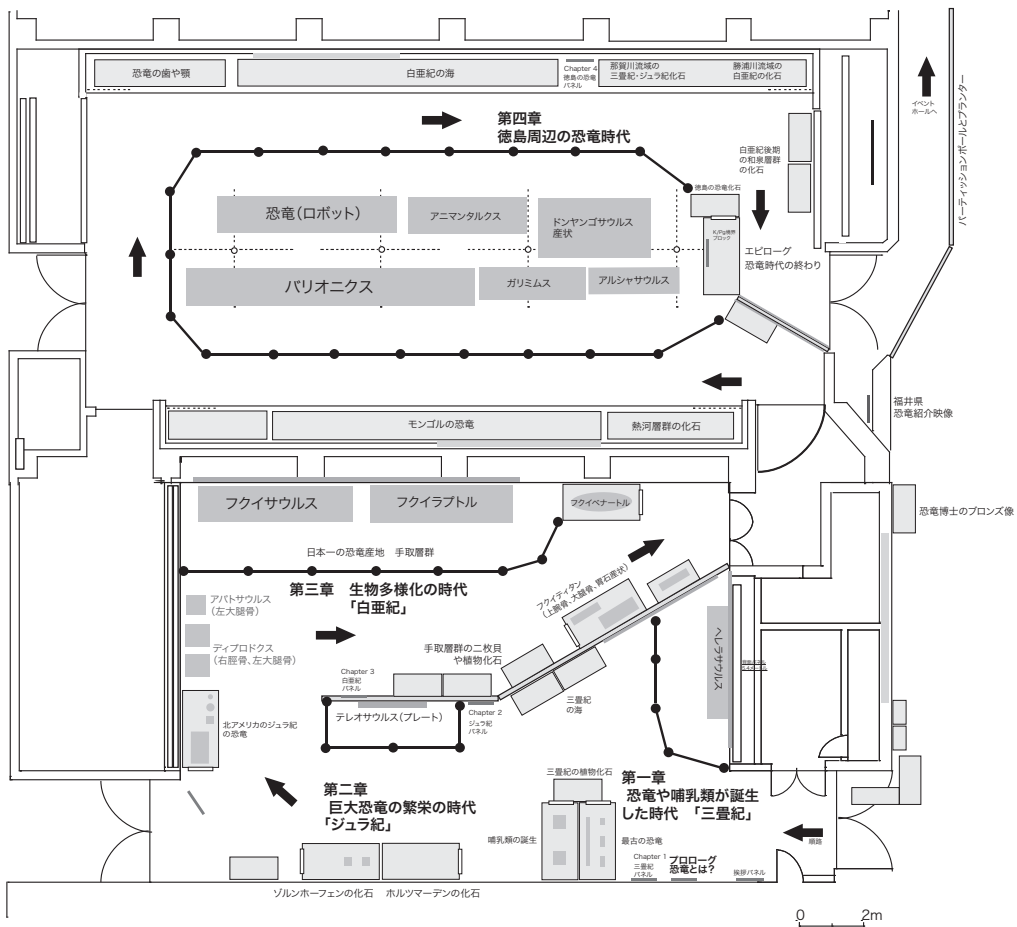
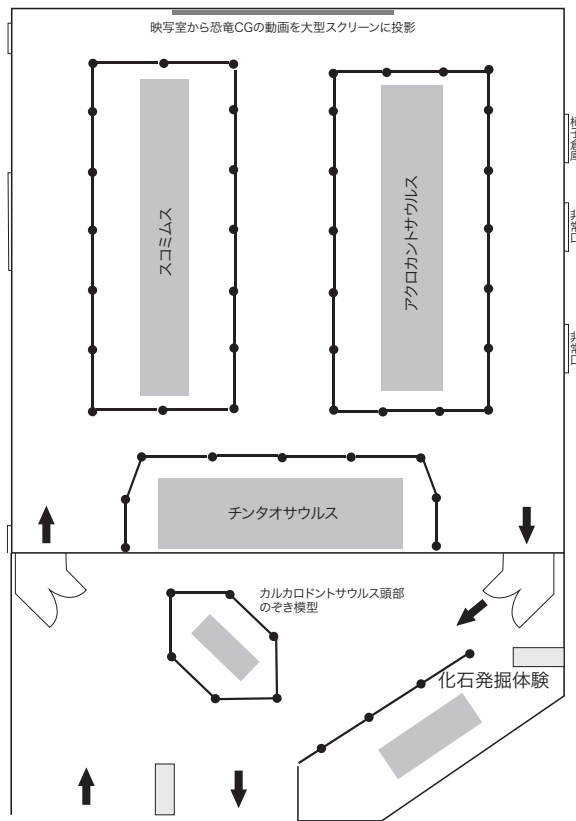
徳島に帰省、もしくは来訪している県外在住の中学生以下のうち、アンケートに回答してもらった先着100人(毎日、計700人)に、徳島県勝浦



「トクシマ恐竜展」企画展示室の展示風景



「トクシマ恐竜展」イベントホールの展示風景



「トクシマ恐竜展」の展示配置（上：イベントホール、下：企画展示室・多目的活動室）



「トクシマ恐竜展」ちらし (表)



「トクシマ恐竜展」ちらし (裏)

町内で発掘されたイグアノドン類のイラストの缶バッジをプレゼント。徳島新聞社が主体になって実施した。

日時 8月10日(木)～16日(水)

⑥ 児童養護施設の入所者招待

児童養護施設の入所者に、夏休みの思い出づくりにしてもらうため、引率者とともに無料招待。徳島新聞社が主体になって実施した。

期間 8月23日(火)～9月19日(月・祝)

参加者 6日間で5施設の入所者52人と引率者19人を招待

⑦ トクシマ恐竜展最終3連休企画

「ありがとう」キャンペーン

映画「ロスト・ワールド」(1925年版)の再上映と、身近な人に贈る「恐竜のぬり絵入りの感謝の手紙」を作るワークショップ。徳島新聞社が主体になって実施した。

日時 9月17日(土)～19日(月・祝) 終日
場所 ミニシアター及びミーティングルーム

(3) 第3回企画展「徳島藩絵師のすがお一伝えられた絵手本や写しからー」

徳島藩では、17世紀後半から19世紀半ばにかけて、いくつかの家が狩野派の画法を修得し、画の仕事に携わった。しかしその実態は、残された作品や記録が少ないため、あまり明らかにされていない。

当館は、同派の藩絵師を務めた佐々木、矢野、森崎の3家が伝えていた粉本を所蔵している。粉本とは、古画の写しや絵手本の総称で、作品を描くときに利用された。

この企画展では、3家の粉本をおもに展示し、それぞれの家の変遷を紹介した。

- 主催 徳島県立博物館
- 期間 平成28年10月22日(土)～11月20日(日) (開館日数26日)
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般200円(65歳以上100円) 高校・大学生100円 小・中学生50円
- 観覧者数 2,444人
- 展示構成
 - 1 佐々木家
 - 2 矢野家



「徳島藩絵師のすがお」の展示風景



記念講演会「絵手本が語る江戸時代の絵師の実像」の様子

3 森崎家

4 絵手本・写しさまざま —『絵本目録覚』から—

●展示資料数 91点（館蔵資料79点）

●関連行事

①展示解説

第1回：10月23日（日）14：00～15：00

参加者 26人

第2回：10月30日（日）14：00～15：00

参加者 36人

第3回：11月6日（日）15：30～16：10

参加者 20人

第4回：11月20日（日）14：00～15：00

参加者 47人

②記念講演会

講師 須藤茂樹氏（四国大学文学部准教授）

演題 絵手本が語る江戸時代の絵師の実像

日時 11月6日（日）13：30～15：00

場所 多目的活動室

参加者 80人

3. 特別陳列

(1) 古代の彩り 徳島の朱

若杉山遺跡を中心として、近年その様相が明らかにされつつある阿南市内の赤色鉱物採掘遺跡の出土資料を紹介した。さらに、水銀朱付着土器・石器が出土した徳島市矢野遺跡・名東遺跡などの集落遺跡や、水銀朱を散布した埋葬施設を有する鳴門市萩原1号墓、朱塗りの人骨が出土した徳島市鶴島山古墳・犬山天神山古墳など、若杉山遺跡の稼働時期とほぼ同時期の徳島県内の赤色顔料関連遺跡の出土資料もあわせて紹介した。

また、自然科学的手法を用いて、水銀朱・ベンガラなどの赤色顔料の分析を行うとともに、水銀朱の精製工程を復元し、その結果も紹介した。

この展示を通して、赤色顔料の生産・流通・消費の様相、自然科学的分析という多角的な視点から古代の朱に迫った。

なお、この展示は、徳島県教育委員会教育文化課による「発掘された古代の朱～魏志倭人伝に記された弥生時代の朱を探る～」事業の一環として、教育文化課・阿南市と共同で開催した。また関連事業として教育文化課による講演会、阿南市による遺跡見学会、博物館・教育文化課による阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」を開催した。

●主催 徳島県教育委員会（博物館・教育文化課）

●協力 阿南市

●期間 平成28年12月3日（土）～12月25日（日）

（開館日数20日間）

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 無料

●観覧者数 2,167人

●展示構成

Ⅰ 朱を求めた人々

1 仙界へのあこがれ

2 魏志倭人伝の世界

Ⅱ 朱とは何か～自然化学的分析から～

1 「朱」の産出

2 「朱」を見分ける

3 産地を推定する

Ⅲ 朱を産む山

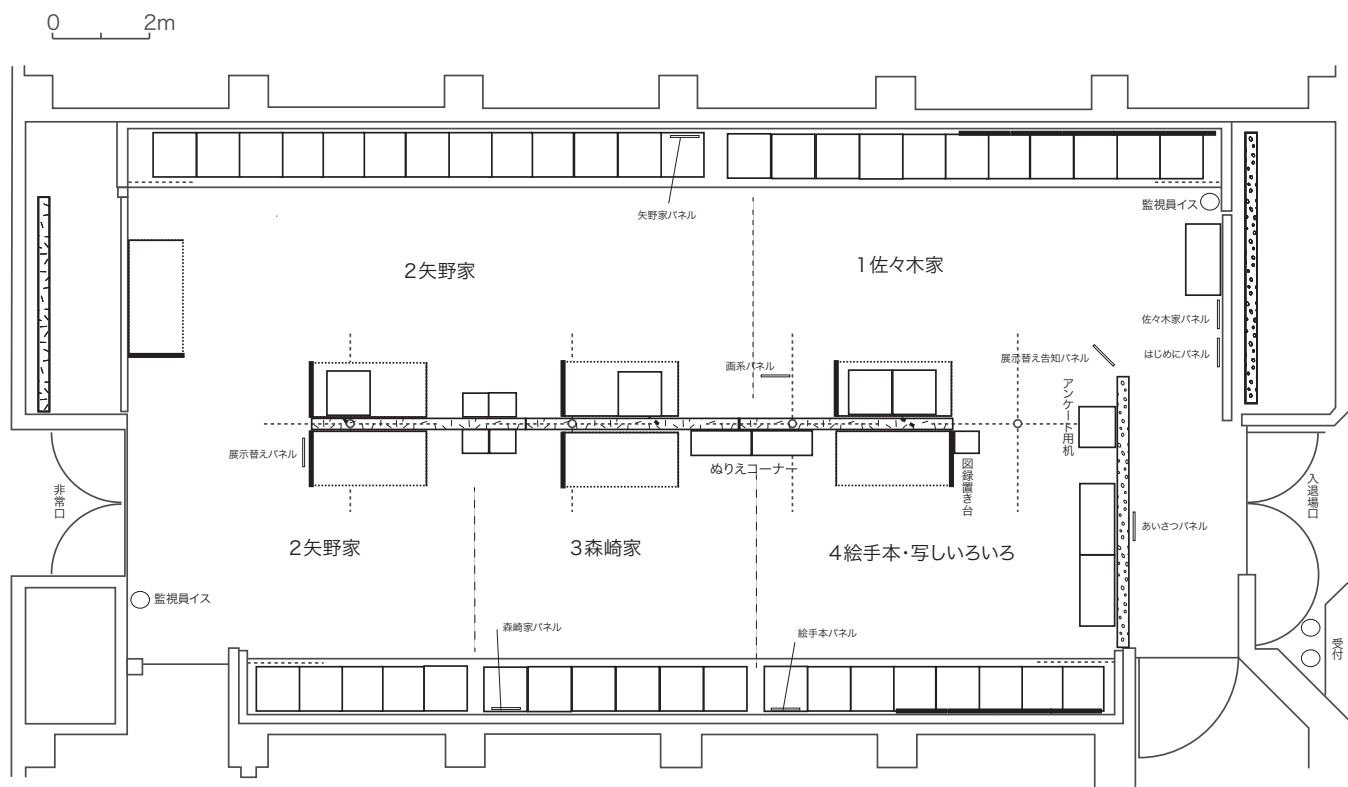
1 赤色鉱物採掘遺跡

(1) 若杉山遺跡

(2) 深瀬遺跡

(3) 若杉山遺跡以外の赤色鉱物採掘遺跡

2 水銀朱の生産工程復元



「徳島藩絵師のすがお」の展示配置

平成28年10月22日(土) 11月20日(日) 月曜日休館

徳島県立博物館 一階企画展示室

徳島藩絵師のすがお

— 伝えられた絵手本や写しから —

徳島藩 文化の森多目的活動室 入場無料

平成二十八年度企画展

徳島藩絵師のすがお

— 伝えられた絵手本や写しから —

記念講演会

演題 「絵手本が語る江戸時代の絵師の実像」

日時 11月6日(日) 13:30～15:00

場所 文化の森多目的活動室 入場無料

展示解説

日時 ①10月23日(日) ②10月30日(日) ③11月20日(日)

いざね614:00～15:00

場所 企画展示室(観覧料が必要です)

講師 博物館学芸員

「徳島藩絵師のすがお」ちらし(表)

徳島藩絵師のすがお

展示構成

一、佐々木家

- ① 定之丞・信照など
- ② 寿信・栄流など
- ③ 惟照・唯照など
- ④ 寿照

二、矢野家

- ① 常博
- ② 典博
- ③ 伊籍
- ④ 伊章と章三郎

三、森崎家

- ① 常福
- ② 春旦
- ③ 桃春
- ④ 春湖と春朝

四、絵手本・写し

さまざま「絵本目録表」から

平成二十八年度企画展

徳島藩絵師のすがお

展示構成

一、佐々木家

二、矢野家

三、森崎家

四、絵手本・写し

さまざま「絵本目録表」から

交通のご案内

●本館から、バス約25分、タクシー約15分 ●徳島の中心部から徒歩約15分

徳島県立博物館 徳島市東津島1丁目20番地2

TEL:089-666-3026 FAX:089-666-7197

美術品取扱作業お受け致します!!

梱包・輸送・展示のお手伝いを、お気軽に御相談ください。

無料で見覧・観覧させていただきます。

～お線の技は、若いチカラへと継承に受け継がれています～

日本通運株式会社徳島支店

〒770-0873 徳島市東津島1丁目20番地2

TEL:089-664-0222 FAX:089-664-8984

(担当:白木)

「徳島藩絵師のすがお」ちらし(裏)



「古代の彩り 徳島の朱」の展示風景



「古代の彩り 徳島の朱」展示解説の様子

IV 徳島を彩る朱

1 集落に持ち込まれた朱

- (1) 縄文時代の朱 —若杉山遺跡前夜—
- (2) 鮎喰川流域の弥生集落
- (3) 地域間交流の中の朱
- (4) 県西・県南の石杵・石臼

〈トピック〉 朱と銅鐸

2 墳墓を彩る朱

〈トピック〉 朱の付着した人骨

V みんなで考える「若杉山遺跡」

●展示資料数 238点（館蔵資料30点）

●関連行事

①展示解説

第1回：12月4日（日）14：00～15：00

参加者 45人

第2回：12月17日（土）13：00～13：30

参加者 40人

第3回：12月25日（日）14：00～15：00

参加者 54人

②講演会

「朱を考古学する part II

—邪馬台国時代の徳島と朱—

教育文化課が主体となり当館が関わった。

日時 12月17日（土）13：30～17：00

場所 イベントホール

参加者 210人

講演1 「若杉山遺跡から弥生時代の手工業生産と交易を考える—辰砂の採掘と精製工程をめぐる集団関係—」

大久保徹也氏（徳島文理大学教授）

講演2 「古代人が求めた朱の正体—地質学の調査研究から—」

石田啓祐氏（徳島大学大学院教授）

報告1 「阿南市に所在する赤色顔料採掘遺跡」

向井公紀氏（阿南市文化振興課）

報告2 「古代人が使い分けた様々な朱」

植地岳彦（当館）

報告3 「集落に持ち込まれた朱」

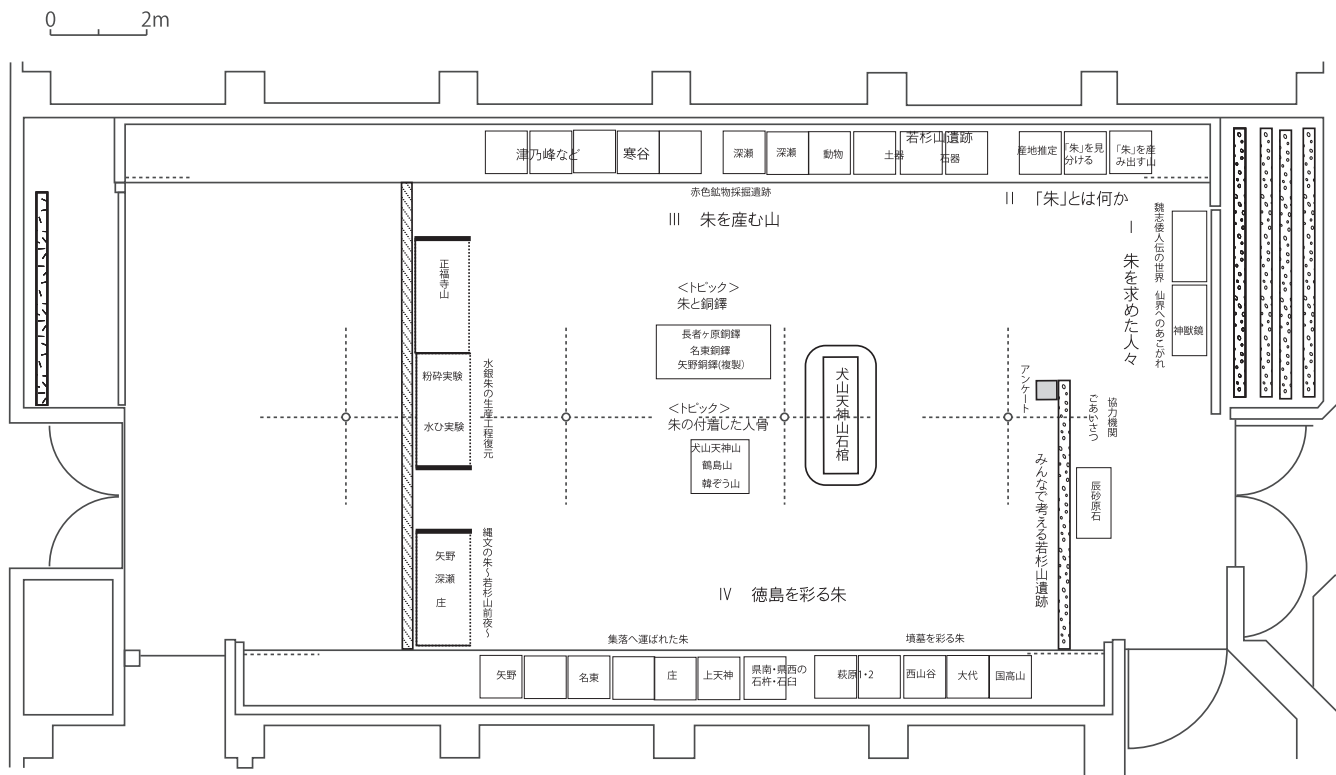
西本和哉氏（県教育委員会教育文化課）



講演会「朱を考古学するII」 大久保氏の講演



講演会「朱を考古学するII」 石田氏の講演



「古代の彩り 徳島の朱」の展示配置

特別陳列
古代の彩り
徳島の朱

観覧無料

平成 28 年
12 月 3 日 (土)
～ 12 月 25 日 (日)
会 場：徳島県立博物館 1 階 企画展示室

主催 徳島県教育委員会 (県立博物館・教育文化課)
協力 阿南市
会場 徳島県立博物館 1 階 企画展示室
開館時間 午前9時30分から午後5時00分まで
休館日 月曜日

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-8570 徳島県阿南市赤松台 TEL 089-466-3636 FAX 089-466-7197
http://www.museum.tokushima.ac.jp/

交通アクセス
徳島県庁前
バス・・・約25分
徒歩・・・約15分
文化の森前
バス・・・約35分
徒歩・・・約15分
徳島県立博物館(徳島県庁)から
徒歩・・・約35分

※無料駐車有り

〈関連行事〉
(1) 展示解説
日時 ①平成28年12月4日(日) 14:30～15:30
②平成28年12月25日(日) 14:00～15:00
会場：徳島県立博物館1階 企画展示室 ※無料・申し込み不要
(2) 講演会
「朱を考古学する part II - 邪馬台国時代の徳島と朱 -」
講演：「若杉山遺跡から弥生時代の手工業生産と交易を読み解く」
— 弥生時代の銅器と土器を中心に—
久保 徹也氏 (徳島文理大学教授)
講演2：「古代人が求めた朱の正体 - 地質学の調査研究から -」
石田 院花氏 (徳島大学大学院教授)
日時：平成28年12月17日(土) 13:30～17:30
会場：文化の森・イベントホール
対象：小学生から一般
定員：300人 ※無料・申し込み不要

「古代の彩り 徳島の朱」ポスター

発掘された
古代の朱

魏志倭人伝に記された弥生時代の朱を探る

特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」
会期：平成28年12月3日(土)から12月25日(日)まで
会場：徳島県立博物館 企画展示室

阿南市ミニ展示会
「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」
会期：平成29年1月14日(土)から2月25日(日)まで
会場：阿南市文化会館 ラウンジ

講演会
「朱を考古学する part II
～邪馬台国時代の徳島と朱～」
会期：平成28年12月17日(土) 13:30～17:00
会場：文化の森・イベントホール

若杉山遺跡現地見学会
日時：平成29年2月26日(日)
①8:30～12:00 ②13:00～16:30
会場：阿南市水井町

徳島県教育委員会 (協力) 阿南市
徳島県教育委員会教育文化課
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
Tel: 089-421-3161 Fax: 089-421-2985

「発掘された古代の朱」パンフレット (表)



若杉山遺跡現地見学会の様子

③若杉山遺跡現地見学会

阿南市が主体となり当館が関わった。

日時 29年2月26日(日)

午前 8:30～12:00

午後 13:00～16:30

場所 阿南市水井町周辺

参加者 75人(午前36人、午後39人)

④阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」
(p.17 参照)

(2) 遙かなるマチュピチュ

—鳥居龍蔵、南アメリカに行く—

1937年(昭和12)に、鳥居龍蔵は息子の龍次郎と共に、外務省の「文化使節」としてブラジル、ペルー中央日本人会からの要請を受けペルーとボリビアを訪問した。これら鳥居の南アメリカ調査での様相について関係資料をもとに紹介した。

●主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●期間 平成29年1月28日(土)～3月5日(日)
(開館日数32日)

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般 200円(65歳以上100円)
高校・大学生 100円 小・中学生 50円

●観覧者数 2,905人

●展示構成

プロローグ 鳥居龍蔵とアメリカ大陸

第1章 旅立ち以前—南方へのまなざし—

第2章 旅の途上にて

第3章 南アメリカでの軌跡

第1節 ブラジル調査

—外務省の文化使節として—

第2節 ペルー、ボリビア調査

—ペルー中央日本人会と共に—
第3節 鳥居龍蔵をめぐる人々
トピック 南アメリカの民族資料
—国立民族学博物館所蔵資料から—
エピローグ 旅の終わりに

●展示資料数 219点(館蔵資料0点)

(3) 2016年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展(識字学級生の作品を中心とする展示)を行った。

●主催 文化の森6館・徳島県教育委員会人権教育課

●期間 平成28年12月9日(金)～12月15日(木)

●会場 近代美術館ギャラリー(展示)

ミニシアター(ビデオ上映)

●観覧者数 244人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ(テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット)の貸し出しを行っている。28年度は貸し出しがなかった。

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。

●「シカとカモシカ」パネル展

平成27年度部門展示として行った「シカとカモシカ」(会期:平成28年1月19日～3月21日、年報25号参照)において使用したパネルの展示を、那賀町の温



「シカとカモシカ」の展示風景

泉施設・四季美谷温泉の依頼により当館と共同で開催することになった。那賀町は山間部に位置し、シカの食害が問題になっている。町ではシカの駆除や管理、有効利用に取り組んでおり、町民や温泉施設を訪れる観光客にシカとカモシカの違いや生態を知ってほしいとのことから、当館も積極的に協力することにした。部門展示で使用したパネルに加えて、部門展示資料の写真パネルも新たに加えた。

期 間 平成28年4月18日（月）～10月9日（日）
※当初6月23日までの予定だったが延長となった

場 所 四季美谷温泉館（ロビー、ギャラリールーム、通路ギャラリー）

観覧者数 8,012人

展示資料数 22点（パネル）

●**連携展示「阿波の道を歩く 芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」** 展 県内巡回展

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「徳島県の文化の創造的再発見事業」の一環として開催した巡回展。当館も実行委員会構成団体であることから、移動展として位置づけた。展示内容は、現代美術と、当館や文書館が所蔵する歴史資料を融合したものであった。

【つるぎ町会場】

期 間 平成28年10月1日（土）～10月30日（日）

場 所 織本屋

観覧者数 345人

展示資料数 25点（館蔵資料5点）

【鳴門市会場】

期 間 平成28年11月5日（土）～12月1日（木）

場 所 鳴門市立図書館

観覧者数 6,604人

展示資料数 25点（館蔵資料5点）

【海陽町会場】

期 間 平成28年12月10日（土）～29年1月22日（日）

場 所 海陽町立博物館

観覧者数 282人

展示資料数 30点（館蔵資料6点）

●**徳島県障がい者の集い「文化の森展示コーナー」**

主 催 徳島県障がい福祉課

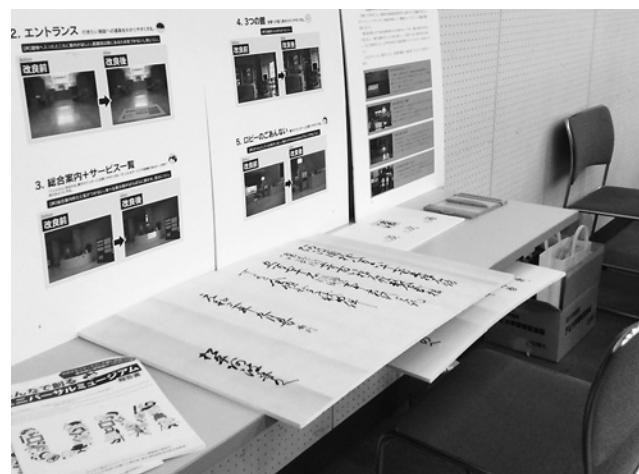
期 間 平成28年11月27日（日）

場 所 徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）5階

観覧者数 15人

展示資料数 10点（パネル含、館蔵資料10点）

●**阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」**



「徳島県障がい者の集い」での展示風景

主 催 徳島県教育委員会（博物館・教育文化課）

協 力 阿南市

期 間 平成29年1月14日（土）～2月26日（日）

場 所 阿南市文化会館ラウンジ

観覧料 無料

観覧者数 320人

展示資料数 65点（館蔵資料28点）

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」（中規模な展示更新）を行った（年報19号参照）。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行っている。大規模な展示更新が見込めないな

かで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。また、最近開館した博物館などに対する調査を継続して行っている。28年度には次の調査を行った。

・リニューアルされた常設展の視察

群馬県立歴史博物館、高知県立高知城歴史博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館

(2) 常設展示室・企画展示室の改修・修繕

展示ケースなど各種設備・備品に経年劣化や破損が見られるようになり、早期の改修や修繕が望まれていた。28年度は、総合展示室入口（1. 日本列島と四国のおいたち）のテレビを撤去し、展示ケースに改修した。また、展示ケースの修繕（扉金具や鍵の交換・設置）と人形頭展示ステージの修復を行った。

これらのほか「徳島の自然と暮らし」映像コーナーのビデオが故障したため、モニター部分に徳島の代表的景観（三嶺や那賀川）とナカガワノギクの写真パネルを展示した。一時的な処置であるため、今後の対応について検討していかなければならない。

(3) 常設展の活性化に向けての取り組み

常設展の案内表示等を部分的に改装したものの、全面更新が未だ困難な状況にあることから、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを継続している。28年度は、展示室を利用したイベントの充実や、トピックコーナーなどの更新などを行った。主な取り組みは、以下の通りである。

①部門展示（人文）における多様な展示の展開

人文、自然のテーマを織り交ぜて5回の展示を行った（詳細は p.3・4 参照）。

②阿波の近世絵画の展示替えを3回行った（詳細は p.4 参照）。

③チャレンジコーナーの促進

24年度から引き続いて、低年齢の子どもが利用しやすいよう「キッズ・コーナー」を設置している。カーペットマットと座卓を設置し、土器パズルや塗り絵など体験学習的な内容を継続している。

④トピックコーナーの更新

速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。28年度は更新を5回行った（詳細は p.4・5 参照）。

⑤展示解説等の促進

・部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」、「没後60年 笠井新也」、「カミキリムシ展」、「絵図と考古資料からみる城下町徳島」、「これなあに？

一生活の道具今昔一」で展示解説を実施した。

・20年度から引き続いて、常設展示室内数箇所で作りのセルフガイドを設置・配布している。

6. 展示関係出版

■企画展図録

●第1回企画展展示解説書「自然だいすき！みんなの自然コレクション」

編集・発行 徳島県立博物館

2016年4月20日発行、A4判4ページ、6,000部

●第2回企画展図録「トクシマ恐竜展」

編集・発行 トクシマ恐竜展実行委員会

2016年7月15日発行、A4判74ページ、3,200部

●第3回企画展図録「徳島藩絵師のすがお一伝えられた絵手本や写しからー」

編集・発行 徳島県立博物館

2016年10月22日発行、A4判84ページ、600部

友の会増刷200部

■その他の図録

●連携展示「阿波の道を歩く 芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展示解説冊子

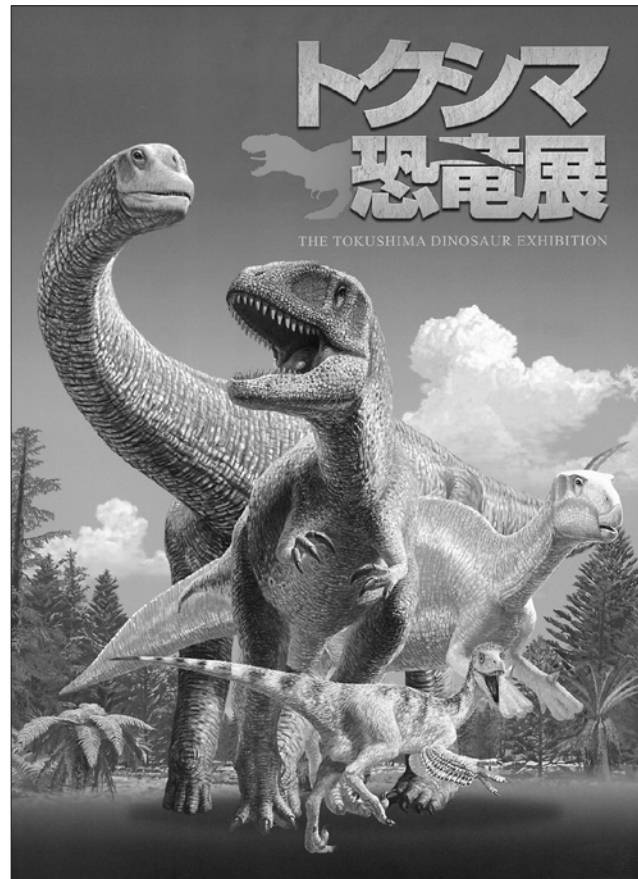
編集 徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立博物館

発行 「徳島県の文化の創造的再発見事業」実行委員会

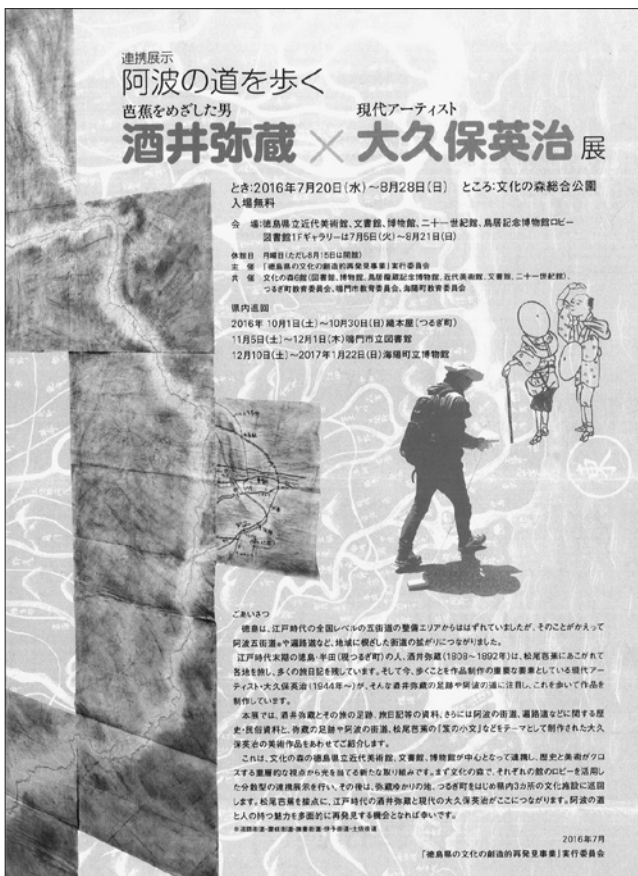
2016年7月20日発行、A4判16ページ、10,000部



展示解説書「みんなの自然コレクション」(表紙)



図録「トクシマ恐竜展」(表紙)



展示解説冊子「阿波の道歩く」(表紙)



図録「徳島藩絵師のすがお」(表紙)

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成28年度は、年間91回（中止3回）の普及行事を実施し、他にクイズラリーを23回行った。新しい内容の行事を行ったり、教員のためのイベントを開催したりして、時代に合った催し物を計画している。

普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊在住者が多いが、三好市や東みよし町、海陽町からの参加もみられる。引き続き、「歴史散歩」「野外生きものかんさつ」「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域での開催を増やすなどの工夫を行っている。

1. 普及行事

■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

5月1日（日）	ところてんをつくろう①出羽島で 採集編	21人
6月5日（日）	ところてんをつくろう②調理編	19人
7月3日（日）	さきどり自由研究～昔の道具しら べ編～	30人
8月11日（木）	勾玉をつくろう	11人
8月14日（日）	はにわクッキーをつくろう	16人



ワクワクむかし体験「ところてんをつくろう①」

■歴史散歩

県内の遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月15日（日）	徳島・美馬の遺跡見学バスツアー	32人
7月3日（日）	徳島大空襲の史跡を歩こう	18人
11月27日（日）	つるぎ町貞光を歩こう	8人
12月4日（日）	眉山周辺寺社めぐり	17人



歴史散歩「徳島・美馬の遺跡見学」

■野外自然かんさつ

野外に出かけて行う、季節に応じた動植物の観察や地質の見学を通して学ぶシリーズ。

5月15日（日）	初めての植物かんさつ（春編）	31人
5月22日（日）	磯の生きものかんさつ	71人
5月29日（日）	中級クラス植物観察会5月	7人
6月12日（日）	初めての植物かんさつ（梅雨期編）	11人
7月10日（日）	中級クラス植物観察会7月	10人
7月16日（土）	川魚かんさつ	48人
7月24日（日）	漂着物を探そう！	45人
9月18日（日）	河口の生きもの	中止
9月18日（日）	中級クラス植物観察会9月	10人
10月2日（日）	ざくろ石をさがそう！【四国中央市】	中止
10月2日（日）	初めての植物かんさつ（秋編）	11人
11月6日（日）	白亜紀の地層見学【徳島県勝浦町】	21人
1月22日（日）	中級クラス植物観察会1月	9人

- 2月5日(日) 初めての植物かんさつ(冬編) 12人
 2月19日(日) 中級クラス植物観察会2月 中止
 2月26日(日) 冬の昆虫ウォッチング 30人



野外自然かんさつ「磯の生きものかんさつ」

■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や調理を通して学ぶシリーズ。

- 7月16日(土) 夏休みの自由研究に！植物の繊維を取ろう 24人
 8月6日(土) 夏休みの自由研究に！葉っぱのスタンプとカルタ作り 36人
 10月16日(日) ドングリクッキーを作ろう 27人
 11月13日(日) パイナップルで年賀状を作ろう
 ①繊維作り 15人
 12月4日(日) リースを作ろう 25人
 12月11日(日) パイナップルで年賀状を作ろう
 ②紙漉 14人
 3月26日(日) タンポポコーヒーでティータイム 19人



みどりを楽しもう・味わおう「ドングリクッキーを作ろう」

■自然しらべ隊

昆虫や植物、化石などの調べ方、標本の作り方を学び、自然の専門家をめざすシリーズ。

- 6月26日(日) スンプでかんたん顕微鏡かんさつ 30人
 7月17日(日) 昆虫標本を作ろう(中級)① 19人
 7月24日(日) 昆虫標本を作ろう(中級)② 17人
 7月30日(土) 植物標本を作ろう①観察・採集 29人
 7月31日(日) 植物標本を作ろう②貼り付け・名前調べ 29人
 8月7日(日) 昆虫標本を作ろう(中級)③ 17人
 8月7日(日) 電子顕微鏡で植物を見よう！ 13人
 9月25日(日) バッタを調べよう 27人
 3月12日(日) 木の葉化石の発掘体験 26人



自然しらべ隊「昆虫標本を作ろう(中級)」

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話すシリーズ。

- 9月18日(日) 江戸時代の四国遍路と札所寺院 23人
 1月29日(日) 阿波公方足利氏の守札 13人
 3月5日(日) 阿波漁民の朝鮮半島近海への出漁 11人

■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。28年度は、8回セットで実施した。

- 4月23日(土) くずし字に親しむ① 31人
 5月21日(土) くずし字に親しむ② 33人
 6月18日(土) 古文書を楽しむ③ 31人
 7月16日(土) 古文書を楽しむ④ 32人
 9月17日(土) 古文書を楽しむ⑤ 26人
 10月15日(土) 古文書を楽しむ⑥ 25人

11月19日（土）	古文書を楽しむ⑦	19人
12月17日（土）	古文書を楽しむ⑧	23人



古文書で学ぶ歴史入門「くずし字に親しむ①」

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全5回のうち1回は海陽町立博物館学芸員が担当した。

5月22日（日）	鳥居龍蔵の徳島県内調査	24人
6月19日（日）	オオウナギ	37人
7月24日（日）	近世中後期徳島藩の改革	20人
8月28日（日）	御用絵師矢野家と粉本	18人
9月25日（日）	野根山二十三士事件と海部の人びと	58人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「自然だいすき！みんなの自然コレクション」関連行事

4月24日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	60人
5月1日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	50人
5月15日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	54人
5月22日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	36人
6月5日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	108人
6月12日（日）	企画展「みんなの自然コレクション」 展示解説	40人

●企画展「トクシマ恐竜展

—福井県立恐竜博物館連携企画— 関連行事		
7月17日（日）	企画展「トクシマ恐竜展」展示解説	40人
7月31日（日）	普及行事「恐竜の歯のレプリカをつくろう」	59人
8月20日（土）	企画展「トクシマ恐竜展」展示解説	60人
8月28日（日）	記念講演会「福井県の発掘からわかる、恐竜から鳥への進化」	38人
9月4日（日）	企画展「トクシマ恐竜展」展示解説	100人
9月11日（日）	普及行事「貝化石をクリーニングしよう」	15人
9月17日（土）	普及行事「恐竜の歯のレプリカをつくろう」	26人

●企画展「徳島藩絵師のすがお

—伝えられた絵手本や写しから— 関連行事		
10月23日（日）	企画展「徳島藩絵師のすがお」 展示解説	26人
10月30日（日）	企画展「徳島藩絵師のすがお」 展示解説	36人
11月6日（日）	記念講演会「絵手本が語る江戸時代の絵師の実像」	80人
11月6日（日）	企画展「徳島藩絵師のすがお」 展示解説	20人
11月20日（日）	企画展「徳島藩絵師のすがお」 展示解説	47人

●特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」関連行事

12月4日（日）	特別陳列「徳島の朱」展示解説	45人
12月17日（土）	特別陳列「徳島の朱」展示解説	40人
12月17日（土）	講演会「朱を考古学する part II」	210人
12月25日（日）	特別陳列「徳島の朱」展示解説	54人
2月26日（日）	若杉山遺跡現地見学会	75人

●部門展示関連行事

6月19日（日）	部門展示「没後60年 笠井新也」 展示解説	24人
7月10日（日）	部門展示「没後60年 笠井新也」 展示解説	9人
8月14日（日）	部門展示「カミキリムシ展」 展示解説	20人
11月12日（土）	部門展示「絵図と考古資料からみる城下町徳島」展示解説	12人

12月11日 (日)	部門展示「絵図と考古資料からみる城下町徳島」展示解説	12人
2月12日 (日)	部門展示「これなあに? (生活の道具今昔)」展示解説	17人

3月11日	75人 (未就学 40・小 34・中 1・高 0)
3月25日	115人 (未就学 63・小 42・中 7・高 3)
参加者合計	3,318人
	(未就学 1,510・小 1,654・中 84・高 71)

■クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、高校生以下を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。



クイズラリー (受付)

4月9日	109人 (未就学 36・小 64・中 5・高 4)
4月28日	142人 (未就学 54・小 78・中 7・高 3)
5月14日	143人 (未就学 58・小 76・中 6・高 3)
5月28日	137人 (未就学 52・小 83・中 1・高 1)
6月11日	144人 (未就学 54・小 89・中 0・高 1)
6月25日	172人 (未就学 74・小 73・中 4・高 21)
7月9日	128人 (未就学 53・小 63・中 5・高 7)
7月23日	210人 (未就学 110・小 97・中 0・高 3)
8月13日	383人 (未就学 175・小 195・中 12・高 1)
8月27日	301人 (未就学 158・小 139・中 3・高 1)
9月10日	219人 (未就学 110・小 104・中 2・高 3)
9月24日	139人 (未就学 56・小 74・中 6・高 3)
10月8日	124人 (未就学 43・小 71・中 6・高 4)
10月22日	126人 (未就学 61・小 57・中 5・高 3)
11月12日	78人 (未就学 40・小 37・中 1・高 0)
11月26日	82人 (未就学 43・小 38・中 0・高 1)
12月10日	75人 (未就学 30・小 40・中 4・高 1)
12月24日	94人 (未就学 45・小 44・中 4・高 1)
1月14日	122人 (未就学 61・小 54・中 4・高 3)
1月28日	98人 (未就学 42・小 52・中 1・高 3)
2月25日	102人 (未就学 52・小 49・中 0・高 1)

■その他の普及行事

- 文化の森こどもの日フェスティバル 5月5日 (木)
文化の森6館による春期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「化石のクリーニング実演」「魚釣りゲーム」「ミクロの世界」「わしの門ポップアップもけいをつくろう」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「ぬり絵とすごろくで楽しもう!」を行った。
参加者：1,972人



文化の森こどもの日フェスティバル

●教員のための博物館の日 in 徳島 2016

7月27日 (水)

教職員に、博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうことを目的としたイベント。国立科学博物館の提唱により、同館及び趣旨に賛同した各地の博物館で開催されている。当館では、25年度に初めて開催し、4回目となる。(詳細は p.28 参照)。

参加者：20人

●標本の名前を調べる会 8月20日 (土)

毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか3人の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者：41組

●文化の森サマーフェスティバル 8月21日 (日)

文化の森6館による夏期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、普段見る



標本の名前を調べる会

ことができない収蔵庫や研究施設など、博物館の裏側を見学する「博物館バックヤードツアー」を実施した。また、2階常設展示室において「古代人に変身!」「昔のあそびいろいろ」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「民族衣装を着てみよう!」をそれぞれ行った。また、1階企画展示室では、企画展「トクシマ恐竜展」来場の方に恐竜バルーンアートのプレゼントを実施した。

参加者：2,482人

●文化の森 大秋祭り!! 11月3日(木)

文化の森6館による秋期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、2階常設展示室に体験コーナーを設け、「博物館資料のプランをつくろう」「藍の押し花ではがきをつくろう」、「化石・動物の標本をさわってみよう」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「日光写真で遊ぼう」「絵あわせパズルをつくってみよう」をそれぞれ行った。

参加者：1,334人

●文化の森ウィンターフェスティバル 2月11日(土)

文化の森6館による冬期の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による「博物館Vキング～ボランティアスタッフが贈る新企画～」を実施した(詳細はp.52参照)。

参加者：670人

●科学体験フェスティバル in 徳島への出展

徳島大学で開催された第20回科学体験フェスティバル in 徳島(8月6日(土)・7日(日))に、「博物館資料のレプリカを作ろう!」をボランティアスタッフとの協働で出展した。(詳細はp.51参照)。

参加者：1,661人(6日829人、7日832人)

ボランティアスタッフ：28人(6日15人、7日13人)

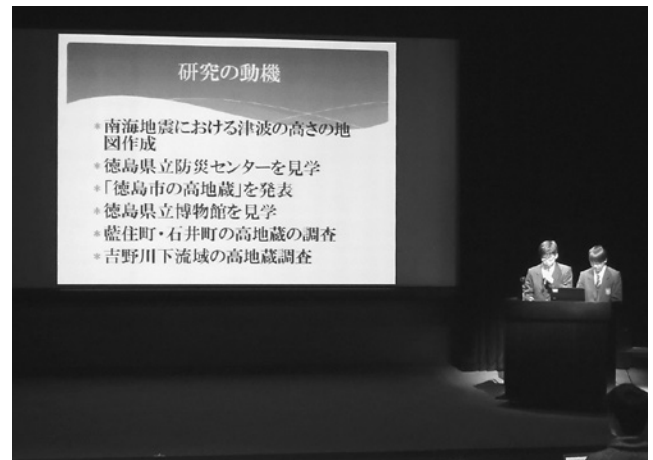
●鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2月19日(日)

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴

史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵の取り組みを踏まえ、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、28年度、試行実施することにした。研究レポート(鳥居龍蔵研究、地域研究)を公募し、フォーラム(発表会)での口頭発表をもらった上で、優れた成果を表彰した。応募は中学生3件、高校生7件で、全作品を表彰対象とした。また、天羽利夫氏(鳥居龍蔵を語る会代表)による記念講演も行った。

参加者：126人



鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって遠慮での博物館見学以外にも様々な活用ができる場でもある。また、教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」とも関連し、博物館等の社会教育機関に対して積極的な学校教育への支援が要請されるようになった。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携(博学連携)のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、利用が増えている。

25年度に四国で初めて実施した「教員のための博物館の日 in 徳島」を、その後も継続して行っている。このイベントを開催することにより、教職員に博物館

の施設や事業、資料などについての理解を深めてもらい、授業など学校における活動に博物館を活用する方法を知ってもらうことを目指した。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合的な学習の時間」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言したりするなどの支援を行った。

- ①上八万小学校（徳島市） 5月20日（金）
3年生 50人
昆虫の体のつくりと育ち（講師：山田）
- ②つるぎ高等学校（つるぎ町） 7月14日（木）
2・3年生 7人
徳島の歴史（講師：松永）
- ③徳島県立徳島視覚支援学校中学部（徳島市） 8月30日（火）
2年生 3人
動物の分類（講師：佐藤）
- ④東祖谷小学校・吾橋小学校（三好市） 10月14日（金）
3・4年生 17人
昆虫のかんさつ（講師：山田）
- ⑤不動小学校（徳島市） 11月4日（金）
3年生 16人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑥玉地小学校（三好市） 12月2日（金）
6年生 12人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑦柿原小学校（阿波市） 12月13日（火）
6年生 23人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑧太田小学校（つるぎ町） 2月21日（火）
3年生 6人
昔の道具とくらし（講師：庄武）
- ⑨板野南小学校（板野町） 3月3日（金）
1・3・5・6年生 5人
植物の種を観察しよう（講師：茨木）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①川田小学校（吉野川市） 4月27日（水）
6年生 7人

- 大昔のくらしをさぐる（講師：岡本・植地）
- ②徳島文理小学校（徳島市） 5月9日（月）
6年生 40人
大昔のくらしをさぐる（講師：岡本・植地）
- ③川島小学校（吉野川市） 5月10日（火）
6年生 45人
大昔のくらしをさぐる（講師：岡本・植地）
- ④宝田小学校（阿南市） 5月24日（火）
6年生 17人
勾玉作りに挑戦しよう（講師：岡本・植地）
- ⑤広野小学校（神山町） 5月27日（金）
5・6年生 13人
環境教育（鮎喰川の自然生物について）（講師：山田）
- ⑥一宮小学校（徳島市） 6月1日（水）
1～6年生 49人
水辺教室（水生生物観察会）（講師：山田）
- ⑦大麻中学校（鳴門市） 6月4日（土）
2年生 40人
人類と火（講師：岡本）
- ⑧神領小学校（神山町） 6月10日（金）
5年生 12人
神山の自然をマモルンジャー（講師：佐藤）
- ⑨徳島中学校（徳島市） 6月22日（水）
2年生 156人
平和学習（講師：松永）
- ⑩広野小学校（神山町） 6月23日（木）
1～6年生 33人
水生生物調査（講師：山田）
- ⑪木屋平小中学校（美馬市） 7月19日（火）
小・中学生 10人
穴吹川の水質調査（講師：山田）
- ⑫櫛生小学校（三好市） 7月24日（日）
2～6年生 46人
古代体験学習（講師：岡本・植地）
- ⑬平島児童クラブ（阿南市） 7月28日（木）
1～6年生 49人
岡川の生きもの調査（講師：佐藤）
- ⑭山城小学校（三好市） 7月29日（金）
1～6年生 70人
三好郡市サイエンスサマースクール
（講師：佐藤・小川・茨木）
- ⑮鳴門教育大学附属幼稚園（徳島市） 8月4日（木）
園児 57人
夏期保育「科学遊び・虫取り」（講師：山田）
- ⑯長原小学校（松茂町） 8月17日（水）
1～6年生 48人
海の生き物（講師：佐藤・山田）

⑰柿原小学校（阿波市）	9月7日（水）	3年生	108人		
3年生	21人			昔の道具とくらし（講師：庄武）	
昆虫のかんさつ（講師：山田）					
⑱渋野小学校（徳島市）	9月16日（金）	3年生	91人	⑳八万南小学校（徳島市）	2月3日（金）
3年生	31人			昔の道具とくらし（講師：庄武）	
いろいろな昆虫のかんさつ（講師：山田）				㉑羽ノ浦小学校（阿南市）	2月6日（月）
⑲津田小学校（徳島市）	9月21日（水）	3年生	118人	昔の道具とくらし（講師：磯本）	
3年生	107人			㉒鴨島小学校（吉野川市）	2月7日（火）
昆虫のかんさつ（講師：山田）				3年生	74人
⑳鳴門教育大学附属小学校（徳島市）	9月29日（木）	3年生	74人	昔の道具とくらし（講師：磯本）	
1年生	101人			㉓山瀬小学校（吉野川市）	2月7日（火）
しろやまたんけんたい（いきもの）（講師：山田）				3年生	42人
㉑徳島県立徳島視覚支援学校中学部（徳島市）	9月30日（金）	3年生	42人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
2年生	3人			㉔上八万小学校（徳島市）	2月7日（火）
動物の分類（講師：佐藤）				6年生	54人
㉒徳島大学あゆみ保育園（徳島市）	10月14日（金）			大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）	
園児	28人			㉕知恵島小学校（吉野川市）	2月8日（水）
河口の生きもののかんさつ（講師：佐藤・山田）				3年生	21人
㉓助任小学校（徳島市）	10月19日（水）	6年生	120人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
6年生	120人			㉖川田小学校（吉野川市）	2月10日（金）
おそいかかる空襲（講師：松永）				3年生	12人
㉔論田小学校（徳島市）	11月25日（金）	6年生	61人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
6年生	61人			㉗北島南小学校（北島町）	2月14日（火）
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）				3年生	60人
㉕吉井小学校（阿南市）	11月30日（水）	3年生	8人	昔の道具とくらし（講師：磯本）	
3年生	8人			㉘新野小学校（阿南市）	2月14日（火）
昔のくらし（講師：磯本）				3年生	18人
㉖新町小学校（徳島市）	11月30日（水）	3年生	21人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
3年生	21人			㉙見能林小学校（阿南市）	2月15日（水）
新町川たんけん（講師：佐藤）				3年生	80人
㉗岩脇小学校（阿南市）	12月9日（金）	6年生	42人	昔の道具とくらし（講師：磯本）	
6年生	42人			㉚内町小学校（徳島市）	2月15日（水）
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）				3年生	39人
㉘川内北小学校（徳島市）	12月20日（火）	6年生	127人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
6年生	127人			㉛大松小学校（徳島市）	2月17日（金）
大地のつくりと変化（講師：中尾・辻野）				3年生	60人
㉙加茂名小学校（徳島市）	1月13日（金）	3年生	75人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
3年生	75人			㉜昭和小学校（徳島市）	2月21日（火）
昔の道具とくらし（講師：庄武）				3年生	70人
㉚渋野小学校（徳島市）	1月18日（水）	3年生	30人	昔の道具とくらし（講師：磯本）	
3年生	30人			㉝里浦小学校（鳴門市）	2月22日（水）
昔の道具とくらし（講師：磯本）				3年生	26人
㉛城東小学校（徳島市）	1月24日（火）	3年生	65人	昔の道具とくらし（講師：庄武）	
3年生	65人			㉞上八万小学校（徳島市）	2月25日（土）
さぐってみよう 昔のくらし（講師：磯本）				1～6年生（保護者含む）	14人
㉜津田小学校（徳島市）	1月25日（水）			化石のレプリカづくり（講師：辻野）	

- ④牛島小学校（吉野川市） 2月28日（火）
3年生 28人
昔の道具とくらし（講師：庄武）

(3) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

- ①徳島県立徳島視覚支援学校（徳島市）
6月8日～6月30日
貸出資料：サメの歯化石 2、アンモナイト 1、三葉虫 1、ナウマンゾウ化石（レプリカ）など 計13点
使用目的：理科の授業に使用するため（授業提示用）
- ②城西中学校（徳島市） 7月4日～7月13日
貸出資料：徳島大空襲写真パネル7 計7点
使用目的：中1 徳島大空襲パネル展（戦争の実態を学び、平和の尊さを考えるため）
- ③助任小学校（徳島市） 10月10日～10月19日
貸出資料：戦争被災資料磁器片 2、焼夷弾破片 1、写真パネル 11 計14点
使用目的：小6 徳島大空襲についての理解を深めるための授業に使用
- ④海南小学校（海陽町） 11月2日～11月22日
貸出資料：アンモナイトノジュール5、アンモナイトの化石 10、三葉虫の化石 5、サメの歯化石 10、モササウルスの歯 10
計40点
使用目的：小6理科 学習の資料として使用
- ⑤八万小学校（徳島市） 2月2日～2月17日
貸出資料：羽釜 1、こて 1、炭火アイロン 1、たらい 1、わらぞうり 1、竿秤 1、箱まくら 1、置き炬燵 1 計8点
使用目的：小3社会 学習の資料として使用

(4) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①南部中学校（徳島市） 5月17日～19日
3年生 3人
- ②徳島中学校（徳島市） 6月7日～8日
3年生 3人

- ③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）
6月29日～7月1日
2年生 3人
- ④八万中学校（徳島市） 7月5日～7日
3年生 3人
- ⑤城西中学校（徳島市） 7月7日～8日
2年生 3人
- ⑥徳島市立高等学校（徳島市） 8月2日～3日
2年生 1人、3年生 2人
- ⑦川内中学校（徳島市） 10月4日～6日
2年生 3人
- ⑧城ノ内中学校（徳島市） 10月26日～27日
3年生 3人
- ⑨阿南第一中学校（阿南市） 11月1日～2日
2年生 1人
- ⑩城西高等学校（徳島市） 11月2日～3日
2年生 2人
- ⑪富岡東中学校（阿南市） 11月8日～9日
3年生 2人
- ⑫新野高等学校（阿南市） 11月9日～10日
1年生 3人
- ⑬加茂名中学校（徳島市） 2月1日～3日
3年生 3人



職場体験（植物標本の整理）

(5) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たった。

- ①教員のための博物館の日 in 徳島 2016
（大学・研究機関等研修、10年次研修）
7月27日（水） 参加者 20人
・「授業で博物館をどうやって使うの？」
（講師：真鍋）
・展示案内・解説「徳島の自然と歴史（常設展等の解説と質問）」

A：理科コース 徳島の自然(案内：自然課学芸員)

B：社会科コース 徳島の歴史

(案内：人文課学芸員)

企画展「トクシマ恐竜展」解説と質問(案内：辻野)

・見学ツアー「博物館の裏側」博物館のバックヤード見学(講師：佐藤・長谷川)

・見て触れて聞いて実感！「徳島の自然と歴史」(学芸員による貸し出し資料の紹介、講師：学芸員全員)



教員のための博物館の日 in 徳島 2016

- ②徳島県小学校教育研究会理科部会研修会
6月18日(土) 参加者 20人
・昆虫標本の作製(講師：山田)
- ③徳島県中学校教育研究会理科部会(西部ブロック)夏期研修会
8月16日(火) 参加者 10人
・水生昆虫についての講義と観察会(講師：山田)
- ④三好郡市小学校教育研究会理科部会夏期研修会
8月17日(水) 参加者 15人
・博物館の活動について(講師：真鍋)
- ⑤徳島県教育委員会初任者研修(企業等研修)
8月23日(火)～25日(木) 参加者 4人
・資料整理等(講師：学芸員ほか)
- ⑥海部郡小学校教育研究会理科部会夏季研修会
8月30日(火) 参加者 14人
・勝浦町で地層観察と化石採集(午前) トクシマ恐竜展見学(午後)(講師：辻野)

(6) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じるこ

ととしている。

3. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する"Culture Club"、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で9,000部を印刷している。

平成28年度は、次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

● No.103 (2016年6月25日発行)

表紙	プロバクトロサルルス・ゴビエンシス
Culture Club	タンポポ調査・西日本2015が終わりました
企画展	トクシマ恐竜展
館藏品紹介	刷り物「伊勢物語佚文」一屋代弘賢のお年玉一
情報ボックス	たくさんの牛玉宝印が残されていました！
Q&A	アゴヒゲアザラシはなぜ徳島へやって来たのですか？

● No.104 (2016年9月25日発行)

表紙	惟信筆唐松麒麟図写
Culture Club	中世の四国辺路と宿(しゆく)―四国八十八か所の前史をめぐる仮説―徳島藩絵師のすがお一伝えられた絵手本や写しから―
企画展	
野外博物館	身の回りの植物を調べよう！
情報ボックス	学校教育とつながる博物館～教員のための博物館の日～
Q&A	なぜ埴輪は古墳の上に飾られるようになったのですか？

● No.105 (2016年12月1日発行)

表紙	辰砂原石と辰砂採掘に用いられた道具(阿南市若杉山遺跡及びその周辺から出土)
Culture Club	海草化石とされていたコダイアマモの正体が判明！
特別陳列	古代の彩り 徳島の朱
館藏品紹介	阿波藍商 手塚家資料
情報ボックス	徳島城下町跡から出土した木製品の保存処理について
Q&A	ダンゴムシはなぜ光るのですか？

● No.106 (2017年3月25日発行)

表紙	アゴヒゲアザラシ
Culture Culb	チシャ菜のこと
特別陳列	日本のアザラシと極地の動物たち
情報ボックス	大西覚用の熊野参詣と16世紀の政治情勢
館蔵品紹介	イタコルマイト
Q & A	「太布」ってどんなものですか？ 最近文化財指定になるという話を聞いたのですが…

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判ちらし。7万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなす活動である。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長及び13人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成28年度は、次の1件の課題調査を行った。

(1) 那賀川流域の自然と暮らし

地域創生が注目を浴びているが、この課題を解決するためには、まずその地域について知ることが必要である。当館では那賀川流域の自然と暮らしを紹介する特別展示を平成30年度秋に開催する予定である。展示を通じて那賀川流域の自然と暮らしに関する知見を県民に紹介する。そのために、那賀川流域の自然と暮らしについて、人文・自然系の学芸員による総合的な調査を行い展示に反映する。

自然の視点から見た那賀川は吉野川に次いで県内では2番目に大きい川である。ただし、徳島県域だけで見ると河川の長さは一番長く、流水域は県内の面積の4分の1を占めている。自然は多様で、この流域にしかないナカガワノギクを始め、さまざまな生物が分布している。特にナカガワノギクは那賀川の増水に伴い、その厳しい環境に適応した溪流沿い植物である。那賀川にはこの他にもイワバノギクやトサシモツケなど溪流沿い植物が分布し、特徴的な植物が多い。地質も多様で、国会議事堂の石材として使われた石灰岩や県内では珍しい蛇紋岩なども産出する。さらに、最近では、貴重なアンモナイト化石も発見された。

人の暮らしに関しては、那賀川中流の若杉山遺跡は弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての辰砂採掘遺跡であり、全国的にみても辰砂を採掘する遺跡としては唯一のものである。また、那賀川上流の木頭地区～中流域では林業がさかんで、かつては主要な産業として栄えた。さらに、那賀川が運んだ肥沃な土壌を元に米などの作物栽培が下流でさかんに行われ、阿南市富岡町の吹田家にはかつての経済的繁栄をしのばせる資料が残され、当館でも収蔵している。那賀川上流の木頭地区等にはコウゾ、カジノキの樹皮から糸をとる太布織りが現在も伝承されている。

今回の調査では28年度から29年度にかけて、①溪流沿い植物の調査、②昆虫相調査、③桑野川の魚類相調査、④地質的調査、⑤考古学的調査、⑥太布織り等樹皮衣織り技術に関する民俗学的調査を行う予定であ



トサシモツケ



ハルノタムラソウ

る。28年度は主として植物関係の調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物）

●調査概要

那賀川の溪流沿い植物について、類似する地質・気候環境を持つ四万十川とその支流の、溪流沿い植物との比較調査を行った。その結果、トサシモツケやハルノタムラソウなど、四国では南東部の那賀川と南西部の四万十川に共通する種が複数存在することが明らかになった。

2. 分野別（個別）調査研究

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①徳島県淡水魚類相調査

鮎喰川等で魚類相調査を行った。

②徳島県希少野生生物生息状況調査「オヤニラミ」

当館が18年度から開始した徳島県産オヤニラミ調査は、23～25年度にかけては県希少野生生物保護検討委員会のもと集団遺伝学的な状況の把握も進めてきた。26年度からはこれまでの調査成果を活かして、「岡川オヤニラミ再生プロジェクト」（日亜化学、愛媛大学との共同プロジェクト）としても実施することとなった。28年度はこの一環として、桑野川において増殖用の親魚の採集調査を行った。

③徳島県希少野生生物生息状況調査「オオウナギ」

近年、県南地域において確認事例が続いているオオウナギの生息環境を把握する目的で、聞き取り調査及び水質調査を行った。

山田量崇（動物・無脊椎動物）

①トコジラミ上科半翅類の外傷性授精に関する研究

トコジラミ類の特異的な交尾様式について、とくに雌交尾器の機能と構造に着眼して研究を進めた。

②原始的なカメムシ亜目昆虫の交尾器に関する研究

国内外（徳島・石垣島・台湾）の野外調査によって実験及び解析のためのサンプリングを行った（当館科研費による主担研究）。

③中国ヒマラヤ地域におけるカメムシ目異翅類の系統分類と有用生物資源種の探索

広渡俊哉氏（九州大学教授）らとの共同調査により、中国四川省にてカメムシ目異翅類の調査を行った（九州大学科研費による分担研究）。

④南部インドの農業生態系における半翅類の分類と生態に関する研究

有用天敵であるハナカメムシ類を中心とした難同定分類群の同定法の確立と生態的知見の蓄積を行っ

た（インド国立農業昆虫研究所と共同）。

小川 誠（植物）

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った（木下覚氏らと共同）。

②タンポポの分布調査

「タンポポ調査2015・西日本」の結果を部門展示で展示した（27年からの継続）。徳島県のタンポポについて課題を整理し、東祖谷地区や那賀川地区など課題の残る地域を調査した。

③市民参加型調査のツールの開発

タンポポ調査など市民参加型調査で活用できるツールを開発した。特に位置情報の記録に大切な世界測地系メッシュの地図を作成し、インターネットで公開した。

④植物に興味を持ってもらうためのツールの開発

ブラックライトや草木染め、デンプンの採集など植物に興味を持ってもらうためのツールの開発を行った。「みどりのサポート隊」を試行し、県民の協力を得ることも検討した。

茨木 靖（植物）

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った（木下覚氏らと共同）。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査

（池淵正明氏、濱直大氏らと共同）

中尾賢一（地学）

①鮮新統～更新統の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県と高知県で堆積構造の観察と貝化石の採集及び二枚貝類の分類学的研究を行った。

②海産無脊椎動物の分類学的・生物地理学的研究

県内外の海岸に打ち上げられている貝類及び干潟に生息する貝類を採集し、利用の実態も含めて調査した。

③鳴門海峡海底の貝及び脊椎動物化石の調査

分類学的、年代学的検討を行った。

④活断層の研究

阿波市及び熊本県で活断層の変位や分布に関する調査を行った。

⑤勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町の竜脚類恐竜化石の発見地点や周辺地域の地質調査を実施した。（福井県立恐竜博物館と共同）。

辻野泰之（地学）

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に

関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

②古生物タイプ標本のICタグ管理及び3Dデータネットワーク構築の研究

特に白亜紀アンモナイト類のタイプ標本についてのホームページを作成した（当館科研費による主担研究）。

③勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査
勝浦町の竜脚類恐竜化石の発見地点や周辺地域の地質調査を実施した。（福井県立恐竜博物館と共同）。

④モロッコ産ゴニアタイト化石の分類学的研究と教材開発

科研費の協力者として、モロッコの現地調査に参加した。東條文治氏（名古屋芸術大学准教授）と共同）。

湯浅利彦（考古）

①徳島市城山貝塚の発掘調査復元

1922年鳥居龍蔵等によって発見・調査された当遺跡の全容を解明するため、東京大学総合研究博物館所蔵の遺物と当時調査に参加した井上達三・森敬介・前田正一の残した資料、新聞資料等を精査し整理した。

②郷土文化教育について

徳島高等女学校の校誌を調査するとともに、高等学校で授業等に活用できる教育委員会等の教材等をまとめた。

③文化財保護の歴史と体系について

文化財保護の歴史や保護体系の特色を探るとともに、国県指定文化財からみた徳島の自然と歴史の特色を考察した。

岡本治代（考古・保存科学）

①北海道における古代瓦の調査

徳島県・高知県で出土した古代瓦の調査を行った。

②若杉山遺跡を中心とする徳島県・香川県における水銀朱生産関連遺跡の確認調査

香川県上天神遺跡・下川津遺跡等の水銀朱関連資料の調査を行った。

③展示室における資料保存環境の管理・調査

魚島純一氏（奈良大学教授）と連携し、展示室におけるIPM活動、文化財害虫のトラップ調査を行った。

④鳥居龍蔵の愛知調査関連資料の調査

鳥居龍蔵が昭和4・5年にかけて行った愛知調査に関連する資料を調査した。

植地岳彦（考古・保存科学）

①若杉山遺跡を中心とする徳島県・香川県における水銀朱生産関連遺跡の確認調査

水銀朱関連資料の材質調査を行った。

②外部依頼による文化財等の調査

上勝町地域おこし協力隊の依頼を受け、棟札等の赤外線画像調査を行った。

小松島市教育委員会等の依頼を受け、出土品をはじめとする文化財の材質調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

①中世修験道史の研究

中世前期の熊野三山検校の権能について再検討を始めた。また、中世後期阿波国の都市勝瑞における顕密仏教・寺院の展開例として修験道に関する具体的な様相について検討した。

②熊野信仰の研究

和歌山県新宮市の米良家所蔵熊野信仰関係史料における阿波関係のものについて、徳島県内の史料を踏まえて検討し、国人領主大西氏との関係を想定した。

③四国遍路史の研究

四国遍路の形成に関する史料を調査した。また、12番札所焼山寺の中世文書の性格を検討した。

④鳥居龍蔵の履歴に関する調査

鳥居龍蔵記念博物館所蔵資料の整理と調査を通じ、鳥居の履歴について検討した。

⑤藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

松永友和（歴史）

①江戸幕府と徳島藩に関する調査

江戸幕府と徳島藩について、文献史料を中心に調査した。海部自然・文化セミナー「近世中後期徳島藩の改革」で一部紹介した。

②城下町徳島に関する調査

館蔵の絵図資料を中心に調査した。部門展示「絵図と考古資料からみる城下町徳島」で一部紹介した。

③四国遍路に関する調査

徳島県内の札所寺院に収蔵されている資料に検討を加えた。その成果を、「四国遍路札所寺院と徳島藩・江戸幕府」（「四国遍路と世界の巡礼」2号）としてまとめた。

④阿波藍に関する調査

館蔵の手塚家資料などを調査した。その成果を、「資料紹介 阿波藍関係文書について」（「徳島県立博物館研究報告」27号）で紹介した。

⑤「鳴門の渦潮」の往来に関する調査

「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会

の委員として往来を担当し、調査を行った。報告書「〔鳴門の渦潮〕世界遺産登録学術調査報告書～文化編～」を分担執筆した（〔鳴門の渦潮〕世界遺産登録学術調査検討委員会との共同調査）。

⑥鳥居龍蔵関連資料の調査

鳥居きみ子宛の坪井正五郎の書簡について検討を加えた。その内容を、「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告」3号で資料紹介した。

⑦藩撰地誌「阿波志」に関する調査

徳島城博物館が所蔵する当該資料の共同調査に参加し、書誌的な情報や内容等の調査を行った。

庄武憲子（民俗）

①阿波木偶箱まわしの足跡調査及び徳島県内の人形座に関する調査

芝原生活文化研究所、阿波木偶箱まわし保存会と共同で、徳島に特徴的な人形文化である三番叟まわし及び箱廻しの足跡調査、関係資料の調査を行った。また、阿波木偶箱まわし芸人と関わる徳島県内の人形座に関する調査を行った。成果の一部は「徳島県立博物館研究報告」第27号に「徳島県立図書館から移管された人形頭について」として公表した。

②民家に遺された神札の調査

徳島県内の民家に遺された神札についての資料整理、調査を行った。

③ユニバーサルミュージアムについての取り組み

ユニバーサル化推進委員会の取り組みとして、案内表示等の改善に取り組んだ。

磯本宏紀（民俗）

①近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究

徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った（当館科研費による主担研究）。

②鳴門の獅子舞に関する調査

鳴門市及び周辺地域の獅子舞について、悉皆調査を行った。報告書「鳴門市の獅子舞 調査報告書」を編集、分担執筆した（阿波学会民俗班、徳島大学文化人類学教室及び鳴門市教育委員会との共同調査）。

③武知家住宅における民具調査

武知家住宅調査委員会委員として民俗を担当し、武知家所蔵の藍作及び薬生産用具をはじめとする生産用具等の調査を行った（石井町教育委員会との共同調査）。報告書「武知家住宅調査報告書」を分担執筆した

④鳴門の渦潮に関連した漁業及び漁民に関する調査

「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会

の委員として生業（漁業）を担当し、調査を行った。報告書「〔鳴門の渦潮〕世界遺産登録学術調査報告書～文化編～」を分担執筆した（〔鳴門の渦潮〕世界遺産登録学術調査検討委員会との共同調査）。

⑤海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究

日韓の海の文化体系を比較し、海をめぐる生活文化の類似と相違及びその要因を明らかにすることを目的とする共同研究に参加している（国立歴史民俗博物館共同研究）。

⑥民俗展示の多言語化のための基礎的研究

⑤の研究と連携して、韓国等東アジアの水産資源を素材として言語と文化分類の比較研究と事典の作成を目的とする共同研究に参加している（千葉県立中央博物館科研費による研究）。

⑦戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究

昭和10年代のアチック・ミュージアムの水産史研究の実態解明に必要な資料の掘り起こしと既存資料の再評価、活動を推進した研究員やアチック同人の活動の相関関係の把握により、アチックの活動の学術史上の再検討を目的とする共同研究に参加している（国際常民文化研究機構共同研究）。

⑧鳥取県史編さん事業に関する調査の内「生業（漁業）」に関する調査（鳥取県史編さん室及び調査委員との共同）。

⑨地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

大橋俊雄（美術工芸）

①森崎家資料の整理と紹介

阿波藩の御用絵師の家々が用いた粉本類からなる館蔵の森崎家資料について、分類整理して企画展を開催した。

②塗師藤重及び蒔絵師飯塚桃葉の調査

阿波藩の京屋敷に出入りした塗師の藤重家について調査した。とくに東北大学附属図書館の秋田家史料中にある、藤重藤元の書状について口頭で紹介した。また18世紀後半に活躍した藩の御用蒔絵師飯塚桃葉について調査した。

③江戸時代における好古の潮流をめぐる調査

柴野栗山、屋代弘賢、住吉広行など徳島に係わりの深い人物を中心に、江戸後期における好古の潮流

について調査した。

3. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。平成28年度は次の通り実施した。

- 5月25日（水） 植地岳彦「発掘調査で出土した考古資料の保存について～埋文センターの状況レポート～」
- 8月30日（火） 湯浅利彦「文化財保護の歴史と体系について」
- 11月29日（火） 茨木 靖「中級クラス植物観察会の活動紹介―「連」を意識して―」
- 2月22日（水） 松永友和「大坂から阿波・徳島への往来について」

4. 科学研究費補助金等による研究

- 基盤研究（C）：原始的なカメムシ亜目昆虫の謎めいた交尾器を探る：形態進化と多様化プロセスの解明（平成28～30年度）
研究代表者：山田量崇
- 基盤研究（C）：近現代移住漁民による技術移動と都市部への定住に関する民俗学的研究（平成28～31年度）
研究代表者：磯本宏紀
- 若手研究（B）：古生物タイプ標本のICタグ管理および3Dデータネットワーク構築の研究（平成28～30年度）
研究代表者：辻野泰之
- 基盤研究（B）：中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索（平成28～30年度）
研究代表者：広渡俊哉氏（九州大学農学部教授）
当館の分担研究者：山田量崇
- 基盤研究（B）：四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較（平成25～28年度）
研究代表者：寺内 浩氏（愛媛大学法文学部教授）

当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和

- 基盤研究（B）：民俗展示の多言語化のための基礎的研究―東アジアの水産資源を素材として（平成28～31年度）
研究代表者：島立理子氏（千葉県立中央博物館主任上席研究員）
当館の連携研究者：磯本宏紀
- 平成28年度 昭和聖徳記念財団学術研究助成：トコジラミ上科における外傷性授精：メス交尾器の多様性と形態進化
研究代表者：山田量崇
- 国際常民文化研究機構共同研究（一般）：戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究（平成27～29年度）
研究代表者：加藤幸治氏（東北学院大学准教授）
当館の共同研究者：磯本宏紀
- 平成28年度 NFD one leaf fund：南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成
研究代表者：木場英久氏（桜美林大学教授）
当館の共同研究者：茨木 靖
- 平成28年度 サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成：住吉大社境内の石灯籠からみた大阪文化の伝播
研究代表者：黒田一充氏（関西大学文学部教授）
当館の共同研究者：松永友和

5. 他機関との共同研究

- タンポポ調査・西日本2015
身近な花であるタンポポの分布を調べ、環境の変化などを西日本一帯で調べる取り組み「タンポポ調査2015・西日本」を他機関と協働して行った。
28年度はその結果を展示したり、メーリングリストで参加者との意見交換を行うなど、次回の調査の環境を整えることを行った。
- 赤色顔料生産関連遺跡の調査
27年度に引き続き、県教育委員会教育文化課及び阿南市文化振興課と共同で、弥生時代の赤色顔料生産に関する調査を行った。28年度は、若杉山遺跡及び県内の弥生遺跡、さらに県外の遺跡から出土した赤色顔料付着土器の調査を行った。それに加え、若杉山遺跡等踏査時に赤色顔料の原料と推定される鉱物を採集し、材質に関する調査を行った。
調査成果は12月3日（土）から12月25日（日）まで特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」、また12月17日（土）にイベントホールで開催した講演会「朱を

考古学する part II ～邪馬台国時代の徳島と朱～」で県民に紹介した（詳細は p.12・14）。さらに、29年1月14日（土）から2月26日（日）まで阿南市文化会館夢ホールにおいて、「阿南市ミニ展示会 阿南市の赤色顔料採掘遺跡」でも展示するとともに、2月26日（日）には若杉山遺跡現地見学会を実施した。これらの調査成果をまとめた報告書である徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 土器編」の一部を執筆した。

●常設展示室における IPM の実践と有効性に関する研究

近年、多くの博物館では、害虫やカビの発生による資料への被害を防ぐ方法として、殺虫剤や防虫剤などの薬剤だけに頼るのではなく、定期的な点検や清掃などを組み合わせる「IPM（総合的有害生物管理）」とよばれる方法をとっている。当館でもこの流れを受け、文化財用の殺虫剤・防虫剤を適切に使用するとともに、収蔵庫・展示室の定期点検及び清掃を行っている。

本研究では、27年度に続き、博物館における IPM 活動の実践、並びにその効果に関するデータの蓄積を目的とし、奈良大学文学部教授の魚島純一氏及び同大学生と共同で、部門展示室の清掃、採集昆虫の同定を行った（詳細は p.44）。

6. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第 27 号の発行

2017年3月28日発行、A4判83ページ、600部

(*印：館外研究者)

調査報告・資料紹介

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新一更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(8). p.1-8.

清水孝昭*・河口拓紀*・山本貴仁*：愛媛県におけるタイワンドジョウ科魚類の記録. p.9-15.

大原賢二*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2016年). p.17-36.

庄武憲子：徳島県立図書館から移管された人形頭について. p.37-54.

松永友和：阿波藍関係文書について — 「藍方御取行之大綱」の紹介と翻刻一. p.55-70.

短報

大原賢二*・山田量崇・有田忠弘*：徳島県海陽町でアシビロヘリカメムシの発生を確認. p.71-73.

藤原寛*・山田量崇・大原賢二*：徳島市で無尾型のクロアゲハを確認. p.75-76.

白井朋子*・小部ゆり乃*・茨木靖・小川誠：ハイキ

ジムシロ *Potentilla anglica* Laichard. の徳島県への帰化. p.77-79.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆ Yamada, K., Yasunaga, T.* & Artchawakom, T.* (2016.4) The flower bug genus *Orius* Wolff (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae: Oriini) of Thailand. *Journal of Natural History*, 50: 1103-1157.

☆ Yamada, K. (2016.4) *Cardiastethus breviostris* and its close relatives from Asia, with descriptions of four new species (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae). *Entomologica Americana*, 122: 1-17.

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K., Morakote, R.*, Taekul, C.* & Duangthisan, J.* (2016.5) Transferred depository for twenty-seven holotypes of the plant bug and flower bug species recently described from Thailand (Hemiptera: Heteroptera: Miridae and Anthocoridae). *Zootaxa*, 4107: 444-446.

☆ Kobayashi, S.*, Sato, H.*, Hirano, N.*, Yamada, K. & Hirowatari, T.* (2016.6) A review of the Japanese species of the family Tischeriidae (Lepidoptera). *Zookeys*, 601: 127-151.

☆ Yasunaga, T.*, Shishido, T.* & Yamada, K. (2016.8) Two new species of the mirine plant bug genus *Adelphocorisella* (Insecta: Heteroptera: Miridae: Mirinae: Mirini) from central Thailand. *Raffles Bulletin of Zoology*, 64: 250-256.

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K., Duangthisan, J.*, & Artchawakom, T.* (2016.8) Review of the plant bug genus *Fingulus* Distant in the Indochina (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Deraeocorini), with descriptions of two new species. *Zootaxa*, 4154: 581-588.

☆ Yasunaga, T.*, Yamada, K., Soe, Z.* & Naing, S. S.* (2016.8) First records of two flower bug genera from Myanmar (Hemiptera: Heteroptera: Anthocoridae: Anthocorinae: Oriini), with description of a new species of *Bilia* Distant. *Zootaxa*, 4158: 544-556.

☆ Zhang, D.*, Zhen, Y.*, Yamada, K., Zhen, Y.*, Zheng, C.* & Bu, W.* (2016.8) Pleistocene sea level fluctuation and host plant habitat requirement influenced the historical phylogeography of the

invasive species *Amphiareus obscuriceps* (Hemiptera: Anthocoridae) in its native range. BMC Evolutionary Biology, 16: 174.

安永智秀*・穆 怡然*・長島聖大*・山田量崇・高井幹夫* (2016.10) 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ: *Manskiella cinnamomi*. *Rostria*, (60): 17-20.

山田量崇・広渡俊哉* (2016.10) カササギの巣に発生した2種のハナカメムシ. *Rostria*, (60): 43-47.

☆ Yasunaga, T.*, Duanthisan, J.*, Yamada, K. & Artchawakom, T.* (2016.11) Further records of the plant bug subfamily Isometopinae from Thailand (Heteroptera: Miridae), with descriptions of three new species. *Tijdschrift voor Entomologie*, 159: 89-96.

大原賢二*・山田量崇 (2017.3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2016年). 徳島県立博物館研究報告, (27): 17-36.

大原賢二*・山田量崇・有田忠弘* (2017.3) 徳島県海陽町でアシビロヘリカメムシの発生を確認. 徳島県立博物館研究報告, (27): 71-73.

藤原寛*・山田量崇・大原賢二* (2017.3) 徳島市で無尾型のクロアゲハを確認. 徳島県立博物館研究報告, (27): 75-76.

〈一般著述〉

佐藤陽一 (2016.6) アゴヒゲアザラシはなぜ徳島へやって来たのですか? 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (103): 7.

佐藤陽一 (2017.3) アゴヒゲアザラシ. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (106): 1.

長島聖大*・岩崎 拓*・山田量崇 (2016.12) 2015年に日本へ侵入したクスベニヒラタカスミカメ *Manskiella cinnamomi* の分布拡大状況. *昆虫と自然*, 51 (14): 26-29.

山田量崇 (2017.1) トコジラミ類で進化した交尾戦略—Traumatic insemination. *昆虫と自然*, 52 (1): 12-16.

●植物

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

白井朋子*・小部ゆり乃*・茨木靖・小川誠 (2017.3) ハイキジムシロ *Potentilla anglica* Laichard. の徳島県への帰化. 徳島県立博物館研究報告, (27): 77-79.

☆ Yasushi Ibaragi, Monthon Norsaeangri* and Kazumi Fujikawa* (2017.2) *Arthraxon microphyllum* (Poaceae), a New Record for the Flora of Myanmar. *J.Jap. Bot.*, 92 (1): 62-66.

☆ 茨木靖・伊藤隆之*・木場英久*・勝山輝男* (2017.3) ケナガムラサキタカオススキ *Erianthus rufipilus* (Steud.)

Griseb. の帰化. *植物地理・分類研究*, 64 (2): 77-80.

〈一般著述〉

茨木 靖 (2016.9) 身の回りの植物を調べよう!

徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (104): 5.

●地学

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

三本健二*・中尾賢一 (2017.3) 高知県の鮮新一更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(8). 徳島県立博物館研究報告, (27): 1-8.

☆ Kotake, N.*, Kikuchi, K.*, Ishiwata, K.*, Tsujino, Y., Nakao, K. & Furukawa, N.* (2016.7): First clear evidence that *Archaeozostera* is not an ancestor of Zosteracean sea-grass but a trace fossil. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 454 (2016): 12-19.

西山賢一*・瀬部直之*・石田啓祐*・中尾賢一・辻野泰之・橋本寿夫* (2017.3) 地形・地質から見た鳴門海峡の成立. *阿波学会紀要*, (61): 1-10.

西山賢一*・石田啓祐*・中尾賢一・辻野泰之・橋本寿夫* (2017.3) 「ドイツ橋」及び「ドイツ兵の慰霊碑」に使用された撫養石石材の産地と経歴風化. *阿波学会紀要*, (61): 177-184.

〈一般著述〉

中尾賢一・小竹信宏* (2016.12) 海草化石とされていたコダイアマモの正体が判明! 徳島県立博物館ニュース (Culture Culb), (105): 2-3.

中尾賢一 (2017.3) イタコルマイト. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (106): 6.

辻野泰之 (2016.6) プロバクトロサウルス・ゴビエンシス. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (103): 1.

辻野泰之 (2016.6) 立川溪谷(徳島県). 相場博明編著「化石ウォーキングガイド 全国版—日本各地に眠る古生物の痕跡探し 27 地点—」, 丸善出版: 132-137.

辻野泰之 (2016.7) 企画展「トクシマ恐竜展」展示図録, トクシマ恐竜展実行委員会: 1-74.

辻野泰之・ロバート・ジェンキンズ*・中島 礼* (2016.9) 「福井年会イベントの参加報告」, *化石*, (100): 137-138.

辻野泰之 (2016.9) 友の会トピック「徳島県の化石愛好家グループ」, *化石*, (100): 143-145.

●考古・保存科学

〈学術的著述〉

湯浅利彦 (2017.3) 徳島市城山貝塚発掘調査の復元的研究(上)—鳥居龍蔵等による1922(大正11)年発掘調査の出土遺物の様相—, 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 1-47.

岡本治代 (2016.5) 童学寺所蔵の石井廃寺跡出土瓦。青藍, (11): 51-61.

岡本治代 (2017.3) 鳥居龍蔵の愛知調査関連資料. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 83-97.

植地岳彦 (2017.03) 朱の材質調査. 徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 土器編」, 徳島県教育委員会: 36-40.

植地岳彦 (2017.03) 赤色顔料採掘技術の実験と復元(2) 一辰砂採掘における水簸作業の有効性の検証一. 徳島県教育委員会編「赤色顔料生産遺跡及び関連遺跡の調査 採掘遺跡 土器編」, 徳島県教育委員会: 41-44.

〈一般著述〉

湯浅利彦 (2016.6) 笠井新也と鳥居龍蔵. 徳島県立博物館友の会会報アワーミュージアム, (58): 6-7.

湯浅利彦 (2017.3) 郷土文化教育の素描(下) 一地歴学会アンケートをもとにして一. 高校地歴(徳島県高等学校教育研究会地歴学会編), (53): 70-77.

岡本治代 (2016.12) 辰砂原石と辰砂採掘に用いられた道具. 徳島県立博物館ニュース(表紙), (105): 1.

植地岳彦 (2016.6) 保存科学の仕事. 徳島県立博物館友の会会報アワーミュージアム, (58): 7-8.

植地岳彦 (2016.12) 徳島城下町跡から出土した木製品の保存処理について. 徳島県立博物館ニュース(情報ボックス), (105): 6.

●歴史

〈学術的著述〉

長谷川賢二 (2017.2) 勝瑞と修験道一戦国期阿波国における顕密仏教・寺院をめぐる一視点一. 石井伸夫・仁木宏編「守護所・戦国城下町の構造と社会一阿波国勝瑞」, 思文閣出版: 227-249.

長谷川賢二 (2017.3) 鳥居龍蔵の小学校在学歴に関する資料と検討一履歴書・回顧文・卒業証書一. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 99-107.

松永友和 (2017.3) 四国遍路札所寺院と徳島藩・江戸幕府一元禄期の本末争論を通して一. 四国遍路と世界の巡礼, (2): 37-45.

松永友和 (2017.3) 資料紹介 阿波藍関係文書について一「藍方御取行之大綱」の紹介と翻刻一. 徳島県立博物館研究報告, (27): 55-70.

松永友和 (2017.3) 大坂から阿波・徳島への往来について一渡海の手続きと「鳴門」見物の旅を中心に一. 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会編「「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書～文化編～」, 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会: 381-403.

松永友和 (2017.3) 資料紹介 鳥居きみ子宛坪井正五

郎書簡. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (3): 79-88.

〈一般著述〉

長谷川賢二 (2016.6) 【解説】「かも道」の丁石をめぐる. 徳島県立博物館友の会会報アワーミュージアム, (58): 1-2.

長谷川賢二 (2016.9) 中世の四国辺路と宿一四国八十八か所の前提をめぐる仮説一. 徳島県立博物館ニュース (Culture Culb), (104): 2-3.

長谷川賢二 (2017.2) 修験道と仏教. 佛教史学会編「仏教史研究ハンドブック」, 法蔵館: 242-243.

長谷川賢二 (2017.3) 大西覚用の熊野参詣と16世紀の政治情勢. 徳島県立博物館ニュース(情報ボックス), (106): 5.

松永友和 (2016.10) 安政の地震一商人が書き残した日記. 徳島県立文書館編「知ろう学ぼう 記録資料に見る南海地震」: 10.

松永友和 (2016.12) 阿波藍商 手塚家資料. 徳島県立博物館ニュース(館蔵品紹介), (105): 5.

松永友和 (2017.1) 解題(Ⅱ大塩事件). 酒井一「日本の近世社会と大塩事件」, 和泉書院: 345-348.

松永友和 (2017.3) 解説. 徳島県南海地震史料調査委員会編「徳島県南海地震史料集」, 徳島県南海地震史料調査委員会(事務局 徳島県立文書館): 104-, 107-, 110-, 113-, 117-, 119.

松永友和 (2017.3) 酒井一先生の論文集の刊行に関わって. 大塩研究, (76): 74.

●民俗

〈学術的著述〉

庄武憲子 (2017.3) 徳島県立図書館から移管された人形頭について. 徳島県立博物館研究報告, (27): 37-54.

庄武憲子 (2017.3) 「三番叟まわし」用具について. 徳島地域文化研究, (15): 119-121.

磯本宏紀 (2016.11) からさおの分布地図と地域差の要因分析一徳島県域での分布図から一. 日本民俗学, (288): 19-40.

磯本宏紀 (2016.12) 武知家の民俗資料. 石井町教育委員会編「武知家住宅調査報告書 石井町文化財調査報告第5集」, 石井町教育委員会: 63-79.

磯本宏紀 (2017.3) 鳴門海峡における漁業と鳴門の漁民. 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会編「「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書～文化編～」, 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会: 137-162.

磯本宏紀 (2017.3) 徳島民俗学会(磯本)編「鳴門市の獅子舞調査報告書 鳴門市教育委員会文化財調査

報告書9]. 鳴門市教育委員会：160p.

高橋晋一*・天羽祥仁*・磯本宏紀・棧敷真由美*・関眞由子* (2017.3) 鳴門市における獅子舞伝承の現状と課題—伝承者を対象としたアンケート調査より一. 阿波学会紀要, (61)：137-148.

磯本宏紀 (2017.3) 阿南市伊島の潜水器漁業と朝鮮海出漁をめぐる石碑と碑文. 徳島地域文化研究, (15)：109-114.

〈一般著述〉

庄武憲子 (2016.6) たくさんの牛玉宝印が残されていました. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (103)：6.

庄武憲子 (2017.3) チシャ菜のこと. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (106)：2-3.

庄武憲子 (2017.3) 書評・新刊紹介 桑野ふるさと研究会編「わたしの町の昔の暮らし」. 徳島地域文化研究 (15)：122-123

庄武憲子 (2017.3) 書評・新刊紹介 かみかつ里山倶楽部編「山で生きるとのこと〜かみかつ山の聞き書き2014」. 徳島地域文化研究会：124-125.

磯本宏紀 (2016.8) 書籍紹介 「もっと博物館が好きっ！—みんなと歩む学芸員—」. 民具マンスリー, 49 (5)：24.

磯本宏紀 (2017.3) 「太布」ってどんなものですか？最近文化財指定になるという話を聞いたのですが…」. 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (106)：7.

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄 (2016.6) 刷り物「伊勢物語佚文」一屋代弘賢のお年玉一. 徳島県立博物館ニュース (館蔵品紹介), (103)：5.

大橋俊雄 (2016.9) 惟信筆唐松麒麟図写. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (104)：1.

大橋俊雄 (2016.10) 日本画家守住貫魚と瀬戸内海の風景. 瀬戸内海, (72)：40-44.

(3) 学会・研究会等での発表

(* 印：館外研究者)

●植物

小川 誠 (2016.9) ワタヨモギについて. 四国植物研究会 (愛媛).

藤川和美*・茨木靖・Monthorn Norsaeangri・Aung Zaw Moe. (2017.3) ミャンマーナマタン国立公園の植物多様性研究の新知見 (2). 日本植物分類学会第16回大会 (京都).

●歴史

長谷川賢二 (2016.6) 修験道史研究の総括のために.

修験道史談話会 (大阪).

松永友和 (2016.4) 鳴門市所蔵板野郡大代村岡家文書について. 阿波学会総合学術調査中間発表 (鳴門).

松永友和 (2016.7) 四国遍路札所寺院と徳島藩・江戸幕府一元禄期の本末争論をめぐって一. 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター第3回公開研究会 (松山).

●民俗

庄武憲子 (2016.6) 徳島県の無形民俗文化財—変遷から見る現状と課題—. 四国民俗学会 (愛媛).

磯本宏紀 (2016.5) 徳島の民俗学研究の現状—近年の動向を中心に—. 徳島地方史研究会 (徳島).

磯本宏紀 (2016.6) 阿讃国境地域の生業と信仰をめぐる交流. 徳島地域文化研究会 (徳島).

磯本宏紀 (2016.7) 山口和雄の水産史研究とアチック・ミュージアム時代の活動. 国際常民文化研究機構共同研究「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」の研究会 (横浜).

磯本宏紀 (2016.9) 以西底曳網漁業と漁民移住. 日本村落研究学会中国・四国地区研究会 (岡山).

磯本宏紀 (2016.10) 瀬戸内漁民の朝鮮海出漁と技術移動—潜水器漁民の事例を中心にして—. 国立歴史民俗博物館国際研究集会「近代における日本人の朝鮮出漁とその文化的影響」(佐倉).

●美術工芸

大橋俊雄 (2016.11) 秋田家史料 (東北大学附属図書館蔵) にみられる塗師藤重の書状について. 漆工史学会第40回総会 (東京).

IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、最近では、県民や官公庁からの資料の寄贈も増えてきている。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

平成28年度は3人（人文1、自然2）の文化推進員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

コジュケイ	1点
ミシシippアカミミガメ	1点
岡川産魚類	1式
鮎喰川産魚類	1式
長原海岸産魚類	1式
ネコ頭骨	1点
タカチホヘビ	1点

●動物（無脊椎動物）

カブトエビ	30点
-------	-----

●動物（昆虫）

キイロスズメバチ	1点
アシビロヘリカメムシ	11点
徳島県産半翅類	多数
日本産水生・半水生半翅類	多数

●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

●地学

唐ノ浜層群産化石	20点
北有馬層産化石	200点

2. 購入資料

●地学

竜脚類恐竜ディプロドクス前脚（実物化石）	1点
購入資料合計	1点



ディプロドクス前脚（実物化石）

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

アオダイショウ脱皮片	1点	炭谷保子氏
アオゲラ	1点	四季美谷温泉
阿南安芸自動車道環境調査標本（魚類）	1式	
国土交通省徳島河川国道事務所・ウエスコ		
阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査成果データ（HD）	1式	徳島県都市計画課

オオウナギ幼魚標本	1点	海陽町教育委員会	メンガタスズメ	1点	丸山直生氏
H27年度四国横断自動車道吉野川渡河部環境調査標本(魚類)	一式		徳島県産鱗翅類標本	1,560点	樋口博美氏
西日本高速道路徳島工事事務所・いであ			ヒラズゲンセイ	1点	大原賢二氏
ミシシippiaアカミミガメ	1点		ヒラズゲンセイ	1点	高島芳弘氏
徳島県南部総合県民局保健福祉部			ヨツモンカメノコハムシ	9点	大原賢二氏
普及行事「磯の生きもの」DVD			ルリクワガタ類	10点	羽生順一郎氏
	1点	佐尾山和夫氏	外国産カミキリムシ標本	2,209点	村上構三氏
那賀川水系水辺の国勢調査魚類標本(H13、18、21年度)	1式		イエバエ科タイプ標本ほか	65点	篠永 哲氏
国土交通省那賀川河川事務所・四電技術コンサルタント			平成28年度阿南安芸自動車道環境調査標本(昆虫)		
H27年度母川オオウナギ生息環境調査標本	1式		一式 国土交通省徳島河川国道事務所・ウエスコ		
海陽町・ネイチャーインサイト			昆虫・植物写真(DVD)	1点	樋口博美氏
那賀川環境調査魚類標本(3件)	1式		●植物		
国土交通省那賀川河川事務所・建設環境研究所			徳島県産さく葉標本	1点	小部ゆり乃氏
吉野川産魚類	1式	古川 学氏	徳島県産さく葉標本	多数	佐賀康男氏
グルクマ	1点	小浜聖子氏	徳島県産さく葉標本	1点	仙田憲一氏
シロマダラ	1点		香川県産さく葉標本	62点	久米 修氏
			愛媛県産さく葉標本	1点	兵頭正治氏
			長崎県産さく葉標本	2点	中西弘樹氏
			沖縄県産イネ科植物標本	60点	木場英久氏
			高知県産さく葉標本	8点	
					高知県立牧野植物園(MBK)
カミツキガメ	1点		イネ科さく葉標本	2点	藤井伸二氏(人間環境大学)
			イネ科さく葉標本	32点	西岡秀樹氏
			ミャンマー産さく葉標本	21点	山本裕史氏
ザトウクジラ髭板	1点	長崎大学	徳島県産さく葉標本	2点	小川英則氏
ウシ胎児標本	3点		ベネズエラ産さく葉標本	1点	Nozawa Shingo氏
			●地学		
			和泉層群産の化石を含むノジュール		
				4点	井内昌樹氏
			淡路島福良産アンモナイトなど	8点	平島 昭氏
			トウキョウホタテほか鳴門海峡海底産化石		
				15点	八木忠弘氏
			二酸化マンガン鉱	1点	阿部 肇氏
			岡山県山宝鉾山産ほか鉾物標本	8点	阿部 肇氏
			トウキョウホタテほか鳴門海峡海底産化石		
				4点	八木忠弘氏
●動物(無脊椎動物)			四国産鉾物・岩石標本	16点	阿部 肇氏
吉野川河口ベントス(定生生物)標本	一式		徳島県勝浦町産の竜脚類恐竜の歯化石	1点	
西日本高速道路四国支社・いであ					田上浩久氏・田上竜熙氏
ウオノエ科の一種	1点	山口 正氏	エクロジャイト	1点	阿部 肇氏
イモガイ類・オウムガイ	多数	高島芳弘氏	北海道・蝦夷層群産化石など	9点	平島 昭氏
●動物(昆虫)			愛媛県加茂川産角閃石	4点	阿部 肇氏
ヒメハルゼミ	2点	丸山璃空氏	広島県福山市産鉾物	4点	阿部 肇氏
ウミミズカメムシ(幼虫)	5点	和田太一氏	愛媛県西条市市ノ川谷(市ノ川鉾山)鉾物		
マルゲンバイ	2点	山本亜生氏		2点	阿部 肇氏
ウマノオバチ	1点	丸山直生氏			

関川産岩石・鉱物	5点	阿部 肇氏
恐竜及び鳥類化石レプリカ	2点	日本学術振興会
穴内層産ヒザラガイ、ハナゴウナ類化石	22点	三本健二氏
「太古の生命・化石を求めて」掲載化石	108点	鎌田誠一氏
岡山県産方解石	1点	阿部 肇氏
二酸化マンガン鉱	1点	阿部 肇氏
鳴門海峡海底産化石	5点	八木忠弘氏

●考古

徳島県内出土銅鐸	実測 図青焼	6点	石原淑子氏
----------	--------	----	-------

●歴史

住友家資料	139点	住友秀丞氏
写真集ほか	12点	徳島市国府小学校
ポルトメーターほか	4点	田上 昭氏

●民俗

昭和 62・63 年度徳島県民謡緊急調査保存用テープ	ほか 514点	徳島県教育委員会教育文化課
阿波木偶	八重垣姫ほか 19点	琴平バス株式会社
藍菜生産用具ほか	9点	岡田 清氏
岩朝哲男氏撮影写真資料	63点	岩朝紀代子氏
鯉漁船船主関連資料	20点	田中幸寿氏
版木・印判・入子	9点	佐藤康之氏
サシ(棒状運搬具)	1点	鈴木延一氏
だんじり装飾・稚児衣装ほか	122点	四宮剛次氏
竿巻(ワカメ採取用)	1点	福山 徳氏

●美術工芸

蜂須賀茂韶書ほか	2点	大住清治氏
----------	----	-------

4. 寄託資料

平成 28 年度末現在で寄託されている資料は 69 件あり、28 年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

●歴史

古文書(田所眉東氏蒐集分)	2点	西野武明氏
---------------	----	-------

5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した(詳細は p.27 参照)。

●動物

カマヒレマツゲハゼ	2点	片渕弘志氏
-----------	----	-------

タイワンドジョウ、ムمامツ	2点	清水孝昭氏
ヘラクレスオオカブト拡大模型	1点	ミュージアムパーク茨城県自然博物館

●地学

香川県東かがわ市黒川産アンモナイト	1点	黒田武志氏(資料寄贈者)
噴砂、断層ガウジほか	4点	愛媛県総合科学博物館
パラプゾシア化石レプリカほか	16点	ミュージアムパーク茨城県自然博物館

●考古

長谷古墳出土鉄剣ほか	2点	徳島市立考古資料館
郡里廃寺出土遺物ほか	171点	美馬市教育委員会
廿枝遺跡出土石器	5点	阿南市
田村谷銅鐸(複製)ほか	10件	海陽町立博物館
小松島市根井出土古銭ほか	21点	牟岐町教育委員会

●歴史

錦の御旗	1点	徳島市立徳島城博物館
鉄兜	1点	徳島市立考古資料館
徳島大空襲関係資料	2点	徳島県立文書館
兵庫北関入船納帳(複製)ほか	5点	八尾市立歴史民俗資料館
徳島大空襲関係資料	2点	徳島県立文書館
阿波国大瀧寺所領注進状ほか	7点	徳島県教育委員会教育文化課

徳島大空襲関係資料	2点	徳島県立文書館
-----------	----	---------

●民俗

ウォークマン	1点	徳島県立図書館
--------	----	---------

●美術工芸

鈴木其一筆 月に芋図	1点	サントリー美術館・姫路市立美術館・細見美術館
------------	----	------------------------

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

オヤニラミ生態写真	1点	徳島県環境首都課
タビラクチ標本データ	22件	村瀬敦宣氏
イチョウハクジラ、スナメリ・イラスト	2点	徳島県環境首都課
クビアカツヤカミキリ関連画像	10点	伊丹市昆虫館

●地学

アンモナイト・パラプゾシア写真 1点
 テレビ東京（開運なんでも鑑定団）
 宍喰の蓮痕化石層の写真 1点
 誠文堂新光社（S.K. プロ）
 メガテリウム、アラウカリア写真 1点
 河出書房新社（株式会社ネイチャー & サイエンス）
 徳島県勝浦町産の植物食恐竜（竜脚類）の歯の化石
 の写真 1点 誠文堂新光社
 竜脚類ティタノサウルス形類の歯化石ほかの写真
 3点 NHK 徳島放送局
 噴砂、断層ほかの写真 10点
 愛媛県総合科学博物館
 アンモナイト・パラプゾシアほかの写真 3点
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

●考古

忌部山2号墳羨道写真 1点
 徳島県教育委員会教育文化課
 若杉山遺跡出土石器写真 1点 日本考古学協会

●歴史

細川澄元書状写真 1点 馬部隆弘氏
 四国徧礼霊場記 卷二（白峯寺図）写真
 1点 株式会社文芸社
 七十一番職人歌合写真（大原女、鍛冶、番匠）
 3点 学校法人河合塾
 四国徧礼道指南増補大成写真 6点
 株式会社テレビマンユニオン
 七十一番職人歌合写真（麴売り）
 1点 株式会社ワード
 三好長慶錦絵写真 1点 株式会社碧水社
 徳島城復元模型写真 1点 株式会社碧水社
 阿州御城下絵図写真 1点 岡本和之氏
 七十一番職人歌合写真（大原女）
 1点 学校法人河合塾
 徳島御城下絵図写真 1点
 株式会社東京サウンド・プロダクション
 徳島御城下絵図写真 1点 西本辰年男氏
 吹田家資料写真 8点 井村佳子氏
 七十一番職人歌合写真（麴売り） 1点
 株式会社朝日新聞出版
 三好長慶錦絵写真 1点 株式会社新風書房
 四国徧礼絵図写真 1点
 株式会社 TBS ビジョン
 七十一番職人歌合写真（大原女、鍛冶、番匠）
 3点 学校法人河合塾
 「解放令」布達文書写真 1点
 徳島県中学校人権教育研究会

「戦時関係写真」のうち「阿波名物板東の獅子舞」
 1点 鳴門市教育委員会
 三好長慶錦絵写真 1点 大東市

●民俗

「三番叟まわし」用具一式ほか画像
 2点 佐藤義見氏
 人形芝居図写真 1点
 株式会社コスモ・ピーアール
 船霊様写真 1点
 (株)エヌ・アンド・エス企画
 絵はがき 徳島の盆踊りほか写真
 3点 テレビ朝日株式会社
 岩朝哲男氏撮影写真資料 2点 株式会社大塚製菓

●美術工芸

守住家資料「俗人物」写真 1点
 阿波木偶箱まわし保存会
 渡辺広輝筆 祖谷山絵巻映像 1点 四国放送
 関ヶ原合戦絵巻粉本写真 1点
 須藤茂樹氏（四国大学文学部）
 白糸威二枚胴具足ほか写真 3点 須藤茂樹氏

●その他

徳島県の湿地環境写真 5点
 日本国際湿地保全連合

7. 資料の提供

●動物

普及行事「磯の生きもの」テキスト（映像撮影）
 1点 佐尾山和夫氏

●地学

ナウマンゾウ化石（年代測定用） 2点
 石田啓祐氏（徳島大学大学院理工学研究部）

8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている（「3. 寄贈資料」及び「7. 資料の提供」参照）。

●分野別収蔵資料数（平成29年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物(脊椎)	25,077	25,003	55	13	6
（無脊椎）	39,304	39,238	0	58	8
（昆虫）	206,900	205,567	0	7	1,326
植 物	194,727	194,376	282	61	8
地 学	9,767	9,650	115	2	0
考 古	7,310	7,159	73	19	59
歴 史	12,950	12,162	26	4	758
民 俗	18,075	18,065	5	5	0
美術工芸	9,838	9,829	0	4	5
合 計	523,948	521,049	556	173	2,170

9. 館蔵資料数

平成29年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を教育長が委嘱する。

28年度は、29年2月28日に第19回委員会を開催し、竜脚類恐竜ディプロドクス前脚（実物化石）1件の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（任期：平成29年2月28日）

氏 名	分 野	所 属・役 職
小笠原 憲四郎	地学 (古生物学・ 地質学)	筑波大学名誉教授 阿南市文化財 保護審議会委員
石 田 啓 祐	地学 (地質学・ 古生物学)	徳島大学大学院 理工学研究部教授
足 立 奈津子	地学 (地球生物学)	鳴門教育大学大学院 学校教育研究科准教授

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

●図書冊数（データベース登録数による）

13,941冊（うち平成28年度分 寄贈図書42冊、
購入図書93冊）

●購入雑誌

自然史系（8タイトル）：生物科学、科学、海洋
と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、
地学雑誌

人文系（24タイトル）：美術研究、美術史、佛教
芸術、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学
ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、
季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学
研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学
研究、歴史評論、歴史と地理、史林、史学雑誌、民
具研究、人文地理

博物館学（2タイトル）：博物館研究、ミュゼ

●当館刊行物の定期発送先（平成29年3月末現在）

博物館ニュース	1,181ヶ所
博物館年報	324ヶ所
研究報告（国内）	437ヶ所
（国外）	73ヶ所
展示解説	97ヶ所

企画展図録（自然）	168ヶ所
（人文）	245ヶ所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

①減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れの都度、減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、縦130cm×横120cm×奥行140cm(約2.3m³)である。平成17年1月からは酸化エチレン製剤を使用することとしている。28年度は行わなかった。

②常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫(24時間温湿度管理)に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m(約60m³)であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

28年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を3回行った。

③収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなるとともに、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

(2) 常設展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

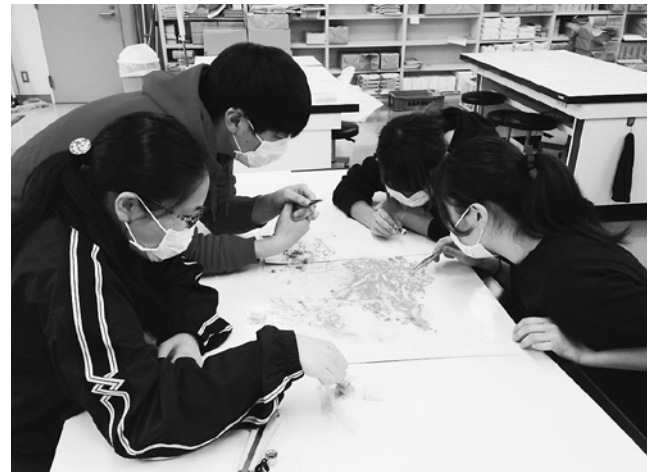
このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、第3期中期活動目標(26～30年度)では、常設展示室

の定期点検を行うことを目標として定めており、26～27年度に、文化財害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施している。

また27年度に続き28年度も、他機関との共同研究の一環として、奈良大学文学部教授の魚島純一氏及び保存科学を専攻する同大の学生とともに、部門展示室におけるIPM(総合的有害生物管理)活動を行った(p.35参照)。



部門展示室の清掃



採収昆虫の同定

(3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見するだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。当館では、25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、28年度も継続して実施した。

また、24年度から収蔵庫の耐震化について検討を進め、26～28年度には歴史民俗収蔵庫・地学収蔵庫・考古収蔵庫の一部の棚に資料落下防止のための耐震ベルトを設置した。

(4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から25年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。空調機器に関しても同様に、資料保存に適した温湿度に調整できなければ、資料の変形やカビの発生等を引き起こす可能性がある。

そこで、28年度は、専門業者による常圧燻蒸庫及び燻蒸設備の保守点検作業を1回行った。また、空調機器に関しては、展示室・収蔵庫・一時保管庫・書庫の空調自動制御機器の修繕を実施した。さらに、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計、アナログ温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。



アスマン式通風乾湿計による温湿度計測

V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	185ヶ所
中学校	86
高等学校・その他学校	61
学会・研究所・同好会等	60
県及び県教育委員会各課・機関	48
市町村教育委員会	24
公民館・隣保館	220
市町村及び大学図書館	36
博物館施設等	313
宿泊施設等	39
報道関係機関等	67

●催し物案内の電子メールサービス

登録者319名（平成29年3月末現在）

●報道機関への資料提供

平成28年度は、次のような資料提供を行った（※月間催し物案内を除く）。

- 5月20日 「博物館で一緒に活動しませんか？」博物館イベントボランティアの募集について
- 5月26日 部門展示（人文）「没後60年 笠井新也」の開催について
- 5月30日 トピックコーナー「新着資料紹介 戦争関係資料」の開催について
- 6月21日 連携展示「阿波の道を歩く 芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展の開催について

- 7月22日 海草化石が実はトイレの化石と判明！
- 7月26日 部門展示「カミキリムシ展」の開催について
- 8月6日 徳島県勝浦町から発見された恐竜化石について（博物館講座で報道関係者への事前説明会を開催した。）
- 10月5日 平成28年度企画展「徳島藩絵師のすがお ― 伝えられた絵手本や写しから ―」の開催について
- 10月14日 トピックコーナー「浜辺で拾ったエビとカニ ― 漂着甲殻類を10倍楽しむ方法！ ―」の開催について
- 10月28日 部門展示「絵図と考古資料からみる城下町徳島」の開催について
- 12月12日 阿南第一中学校での勝浦町産竜脚類恐竜の歯化石の展示について
- 12月15日 勝浦町産竜脚類恐竜化石の寄贈者への感謝状授与式及び恐竜化石の展示について
- 1月11日 部門展示「これなあに？ ― 生活の道具今昔 ―」の開催について
- 1月13日 鎌田誠一氏（徳島化石研究会長）の化石コレクションの博物館への寄贈について
- 1月18日 トピックコーナー「高校生が調べた徳島の浜辺 ― 漂着浮子についての研究から ―」の開催について
- 2月3日 博物館Vキング～ボランティアスタッフが贈る新企画～
- 3月24日 平成29年度部門展示「弥生時代の暮らしを伝える木製品」の開催について
- 3月31日 平成29年度特別陳列「日本のアザラシと極地の動物たち」
- 3月31日 トピックコーナー「高校生がつくった徳島藩家老の屋敷門」の開催について

2. テレビ・ラジオへの出演等

博物館事業の広報を目的としたテレビ・ラジオへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 7月14日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とく6 徳島」(企画展「トクシマ恐竜展」について)

- 7月26日 辻野泰之 テレビトクシマ「朝ごはん食べた？」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 7月28日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とくしま i」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 8月9日 辻野泰之 エフエムびざん「B-STEP TALKING」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 8月10日 辻野泰之 エフエムびざん「B*B Cafe」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 8月24日 辻野泰之 テレビトクシマ「らぶ!らぶ!徳島」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 9月7日 辻野泰之 四国放送「ゴジカル」(企画展「トクシマ恐竜展」について)
- 9月10日 辻野泰之 文化放送「玉川美沙ハピリー「たますべ」」(化石や古生物について)
- 10月7日 山田量崇 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(鳴く虫について)
- 11月5日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「おはよう四国「四国プラス」」(徳島の恐竜について)
- 12月4日 岡本治代 毎日放送(特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」について)

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)
- ・関連活動紹介(友の会、博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー(子ども向けメニュー、映像コーナー等)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。28年度の主な追加事項は下記の通りである。

- ・28年度博物館ボランティアの活動内容について
- ・各種催し物、企画展等の案内

B. アクセスについて

28年度1年間で、ホームページへの総アクセス数が、約1,075万件あった。ホームページへの総訪問回数は約40万件あった。

3. インターネットによる情報提供

(1) 電子メール

博物館の月間催し物案内を、事前に登録申請をした希望者に電子メール(以下メールと記す)で送っている(平成29年3月末現在の登録者354名)。

また、ホームページ等を見た人からの質問もメールで寄せられており、各担当より回答を行っている。

(2) ホームページ

A. 概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。18年3月からは、ネットワーク回線が徳島県教育情報ネットワークに移管されたため、ホームページは <http://www.museum.tokushima-ed.jp/> に変更された。26年8月には、ホームページの全面的なリニューアルを行い、トップページのメニューボタンの設置など、閲覧者が利用しやすいよう工夫している。

ホームページの内容は下記の通りである。

(3) Facebook (フェイスブック) ページの運用

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス(以下SNS)の普及とともに、博物館をはじめとする社会教育機関においてもSNS等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式Facebookページを新設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebookページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。28年度は、113件の記事を新たに掲載した。前年度は運用1年目で期間も短かったた

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	総訪問者数	総アクセス数
2016年4月	32,246	697,983
2016年5月	33,986	858,292
2016年6月	32,943	946,469
2016年7月	47,052	1,571,762
2016年8月	55,629	1,852,413
2016年9月	34,912	1,000,761
2016年10月	35,047	727,598
2016年11月	30,937	648,849
2016年12月	25,315	585,491
2017年1月	25,145	653,334
2017年2月	25,145	611,556
2017年3月	24,237	597,731
合計	403,255	10,752,239

めに4件の更新であったが、今年度は大幅に記事が増えた。内容は企画展の準備や注目する展示の紹介、職場体験や遠足など、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。ホームページではみられなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活発に活用されている。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160

館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度は、当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及びGBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

平成23年度に文化の森のシステム更新(第5期システム更新)が行われ、27年度はその運用開始5年目であった。27年度中に行われた主な改善内容は、次の点である。

- ・サポート期限切れとなったアプリケーションの更新、削除等を行った。

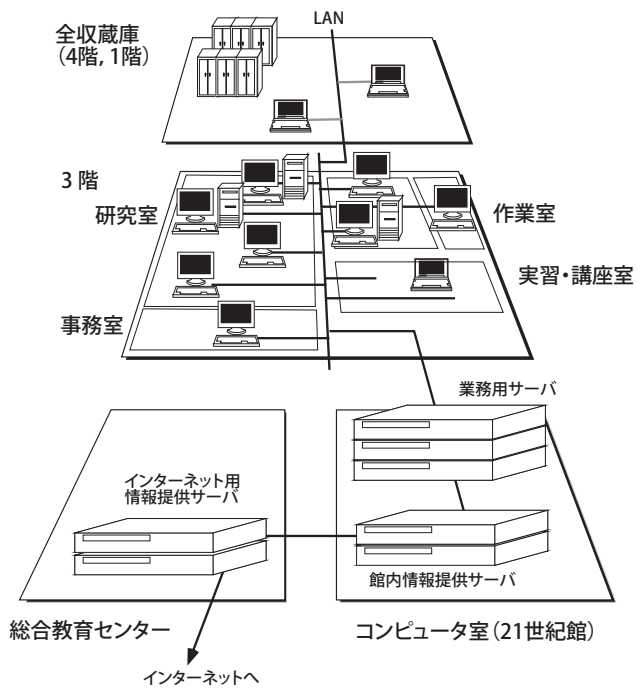
なお、博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第5期システムの運用にあたっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)のLANでつないである。ファイルサーバ(Windowsサーバ2008R2)とデータベースサーバ(FileMaker Server11Advanced)の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されているため、これらの情報提供用サーバを2組用意し、館内用は文化の森のコンピュータ室に、外部(インターネット)用は総合教育センターに設置し、館内用サーバから自動的にデータが更新される仕組みを構築している。



徳島県立博物館の情報システムの構成

VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事なども行っている。事務局は当館内に置いている。

■会員（平成28年度末）

個人会員（年会費 2,000円）	62人
（半年会費 1,000円）	3人
家族会員（年会費 3,000円）	39組 149人
（半年会費 1,500円）	2組 9人

■役員（平成28年度）

会長：鳥居 喬
 副会長：大杉洋子、行成正昭、湯浅利彦（博物館長）
 幹事：徳野壽治、中村由香、松家京子
 監査：石尾和仁、水野和憲



「ミカドアゲハとオガタマノキの観察会」の様子

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

28年度博物館企画展の図録等（「徳島藩絵師のすがお」、「遙かなるマチュピチュ」）の増刷・頒布を行った。

●広報活動

新会員の獲得をめざし、会員募集案内を館内行事等で配布した。また、学校行事で来館した児童・生徒・教員等に、学校向けチラシを配布した。

28年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月催し物案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.58・59 を発行し、会員に送付した。

① No.58（2016年6月30日発行）

阿波遍路道を歩く

【解説】「かも道」の丁石をめぐって

友の会行事報告 奈良日帰り研修

友の会行事報告 岡山・兵庫日帰り研修

友の会行事報告 梅見ハイキング

報告 平成28年度総会

新スタッフより

② No.59（2017年1月31日発行）

犬飼農村舞台

友の会行事報告 化石を探そう（南あわじ市）

友の会行事報告 ミカドアゲハとオガタマノキの

観察会

【解説】観察会のねらいと結果

友の会行事報告 虫送りを見に行こう

友の会行事報告 磯や干潟の観察会

ご案内

鳥居龍蔵記念博物館から企画展のお知らせ

●野外活動等

会員を対象とした行事を7回実施した。

- | | | |
|--------------------|-----------|-----|
| ①石を探そう | 4月23日(土) | |
| 場所：兵庫県南あわじ市 | | 13人 |
| ②ミカドアゲハとオガタマノキの観察会 | 5月14日(土) | |
| 場所：美波町明丸海岸 | | 7人 |
| ③虫送りを見に行こう | 7月20日(水) | |
| 場所：阿南市長生町 | | 5人 |
| ④磯や干潟の観察会 | 10月15日(土) | |
| 場所：和歌山県海南市 | | 5人 |

- ⑤舞中島と重清城趾をめぐる 11月5日(土)
場所：美馬市穴吹町、美馬町 7人
- ⑥京都日帰り研修 12月11日(日)
場所：京都市伏見区 41人
- ⑦土柱の見学 2月26日(日)
場所：阿波市阿波町 7人

2. 博物館公募ボランティア

平成17年度から行っている公募ボランティアと職員が共同で企画・実施するイベント（博物館Vキング）を28年度も継続し、ボランティア36名のメンバーが中心となって1年間の活動を行った。

活動の内容は次の通りである。

①科学体験フェスティバル in 徳島への出張

徳島大学で開催された第20回科学体験フェスティバル in 徳島（8月6日(土)～7日(日)）に、「博物館資料のレプリカを作ろう！」を出展し、おゆまる（熱するとやわらかくなる樹脂）でアンモナイトや寛永通宝のレプリカをつくってもらった。なお、このイベントでの出展は、博物館資料や博物館活動の紹介を目的としたものである。

参加者：1,661人（6日829人、7日832人）

ボランティアスタッフ：のべ28人

（6日15人、7日13人）

②文化の森サマーフェスティバル

27年度「博物館Vキング」で実施したイベントの内、「バルーンにペイント！恐竜と銅剣」を応用したイベント「恐竜バルーンアート」（企画展「トクシマ恐竜展！」内）を文化の森サマーフェスティバル（8月21日）で実施した。

ボランティアスタッフ：2人



科学体験フェスティバル
「博物館資料のレプリカを作ろう！」の様子



Vキング「飛ばして、ひらいて遊んでみよう！」の様子



Vキング「阿波たぬき合戦」かげ絵大作戦☆の様子

博物館ボランティアスタッフが贈る冬のフェスティバル

博物館Vキング

～ボランティアスタッフが贈る新企画～ 1 年齢無料・事前予約不要

2/11 Sat. 9:30-16:00

クイズでGO!
常設展示室のクイズラリーで遊ぼう。

魔法のおみくじ
人の目には見えないものを見てみよう。

飛ばして、ひらいて遊んでみよう!
飛ぶ種をのりを使って試したり、博物館オリジナルのポップアップカードを作ってみよう。

「阿波たぬき合戦」かげ絵大作戦☆
「阿波たぬき合戦」オリジナルバージョンを影絵でします。上演時間以外にかげ絵でもあそべる日。
【上演時間】
①10:30 ②12:00 ③13:30 ④15:00

博物館Vキングは、
博物館が公募したボランティアスタッフが、
博物館職員とともに
企画・準備・実施をする
イベントです。

徳島県立博物館
〒770-8070 徳島市八万町向山
Tel:089-668-3636 Fax:089-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp (博物館トップページ)
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/volunteer (ボランティアのページ)

文化の森は「やってみたい」がいっぱい!!

第28回 全体会議 (9月22日)

「阿波たぬき合戦」かげ絵の準備 (12月18日)

ボランティアのページ

博物館Vキングちらし

③博物館Vキング 2月11日(木・祝)

文化の森ウィンターフェスティバルにおける当館のイベントとして、「博物館Vキング～ボランティアスタッフが贈る新企画～」を実施した。

この企画は、ボランティアスタッフを中心に企画し、約半年間をかけて当館職員と協働で準備したものである。準備の過程で、博物館資料を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。「博物館Vキング」では、次の4つブースを出展した。「クイズでGO!」「魔法のおみくじ」「飛ばして、ひらいて遊んでみよう!」「阿波たぬき合戦」かげ絵大作戦☆

参加者：670人

ボランティアスタッフ：18人

3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

●展示

①企画展

「自然だいすき!みんなの自然コレクション」の鉱物展示コーナー(県民との協働研究の成果を展示)

(4月20日～6月12日)

②部門展示

「みんなで調べた西日本のタンポポ」(県民との協働調査の成果を展示)

(27年度(3月23日)～5月29日)

③トピックコーナー

「浜辺で拾ったエビとカニー漂着甲殻類を10倍楽しむ方法!ー」(県民との協働研究の成果を展示)

(10月25日～1月22日)

④トピックコーナー

「高校生が調べた徳島の浜辺ー漂着浮子についての研究からー」(県民との協働研究の成果を展示)(1月24日～29年度(4月2日))

●普及教育

①普及行事における県民との協働(行事運営への協力等)

「漂着物を探そう!」(7月24日)

②みどりのサポート隊の試行

博物館では「みどりを楽しもう、味わおう」をテーマに「葉っぱのスタンプとカルタ作り」、「ドングリクッキーを作ろう」、「パイナップルで年賀状を作ろう」、「リースを作ろう」などの行事を開催してきた。長年行ってきたこともあり、行事の改良や新たな行事の考案・試行を検討してきたが、学芸員だけでは限界があった。そこで県民の力を借りてより楽しい行事の実施を試みるため、「みどりのサポート隊」を募集し、いろいろなアイデアを行事に反映することとなった。

28年度はその試行期間とし、実施に向けての問題点やその効果などを検討した。試行期間中は公募をせずに、行事参加者や友の会などを通じて参加を呼びかけた。実施した内容は次の通りである。いくつかの行事についての新しいアイデアを得ることができ、普及行事にも反映でき、行事の参加者に喜んでもらえるなどの成果が上がっている。29年度の行事に活かしていく予定である。

- ・マテバシドングリの活用 11月16日
参加者：4人
- ・クズ粉を採ろう(採集) 12月18日
参加者：8人
- ・くず粉を活用しよう 1月15日
参加者：8人
- ・草木染め 2月12日
参加者：10人
- ・タンポポコーヒーとタンポポのケーキ作り
3月19日
参加者：4人



高校生による「漂着浮子」展示準備の様子

Ⅶ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

平成28年度に行ったレファレンスの件数は668件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが299件（45%）で最も多く、次いでマス

●分野別レファレンス件数（平成29年3月31日現在）

分 野	件 数
動物（脊椎）	68
（無脊椎）	20
（昆虫）	168
植 物	39
地 学	149
考 古	27
歴 史	109
民 俗	33
美 術 工 芸	13
保 存 科 学	5
そ の 他	37
合 計	668

コミ・出版関係が174件（26%）、博物館・図書館・官公庁等が102件（15%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が41件（6%）、大学生・院生・研究者等が24件（4%）、その他が28件（4%）であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

平成28年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

湯浅利彦

（公財）日本博物館協会参与
（平成28.4.1～30.3.31）

（公財）日本博物館協会四国支部支部長
（平成28.4.1～30.3.31）

四国地区博物館協議会会長
（平成28.4.1～30.3.31）

徳島県博物館協議会会長
（平成28.4.1～29.3.31）

徳島県高等学校教育研究会地歴学会顧問
（平成28.4.1～29.3.31）

歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
（平成25.9.1～）

佐藤陽一

徳島県土木環境配慮アドバイザー
（平成19.4.1～30.3.31）

徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成21.12.1～30.3.31）

環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成9.7.1～30.6.30）

国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー（吉野川・那賀川）」
（平成19.4.26～29.3.31）

国土交通省那賀川河川事務所「那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境保全検討委員会」委員
（平成24.12.11～29.3.31）

国土交通省徳島河川国道事務所「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」委員
（平成26.10.31～29.3.31）

独立行政法人水資源機構「河川・溪流環境アドバイ

- ザー（ダム湖）
（平成28. 4. 1～29. 3. 31）
関西広域連合広域環境保全局「生物多様性検討委員会」委員
（平成28. 5. 17～29. 3. 31）
海陽町文化財保存活用検討委員会委員（オオウナギ部会長）
（平成27. 9. 1～29. 3. 31）
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
（平成15. 4. 1～）
- 小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
（平成19. 4. 1～30. 3. 31）
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
（平成21. 4. 1～30. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成24. 7. 1～30. 6. 30）
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成28. 4. 1～30. 3. 31）
- 中尾賢一
日本地学教育学会徳島大会実行委員会委員
（平成28. 5～28. 9）
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
（平成23. 12. 16～）
四国貝類談話会徳島大会実行委員
（平成29. 1～29. 6）
- 茨木 靖
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成28. 4. 1～29. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成24. 7. 1～30. 6. 30）
- 辻野泰之
日本古生物学会 化石友の会幹事
（平成27. 7. 1～29. 6. 30）
日本古生物学会 将来計画委員会委員
（平成28. 1. 1～29. 6. 30）
海陽町教育委員会「竹ヶ島地質遺産調査委員会委員」
（平成23. 12. 16～）
- 山田量崇
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
（平成21. 12. 1～29. 3. 31）
徳島県田園環境検討委員会委員
（平成22. 1. 15～30. 1. 14）
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
（平成23. 5. 25～29. 3. 31）
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安
- 口ダム環境モニタリング委員会」委員
（平成24. 4. 2～30. 3. 31）
環境省希少野生動植物種保存推進員
（平成24. 7. 1～30. 6. 30）
日本昆虫学会「日本の昆虫」編集委員
（平成25. 3. 14～31. 1. 29）
関西広域連合広域環境保全局「生物多様性検討委員会」委員
（平成28. 5. 15～29. 3. 31）
日本昆虫分類学会評議員
（平成27. 1. 1～29. 12. 31）
中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所「平成28年度吉野川北岸二期地区環境検討委員会」委員
（平成29. 2. 1～29. 3. 31）
- 長谷川賢二
徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員
（平成19. 5. 1～）
阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員
（平成28. 7. 26～29. 3. 31）
徳島県戦没者記念館企画委員会委員
（平成27. 7～）
日本山岳修験学会理事
（平成27. 9～29. 9）
四国中世史研究会運営委員
（平成27. 4～29. 3）
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
（平成25. 9. 1～）
地方史研究協議会第68回（徳島）大会実行委員会委員
（平成27. 8～平成29. 10）
- 大橋俊雄
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員
（平成27. 4. 1～29. 3. 31）
- 庄武憲子
四国民俗学会理事
（平成28. 4. 1～30. 3. 31）
- 磯本宏紀
新鳥取県史編さん調査委員
（平成28. 5. 6～29. 3. 31）
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
（平成27. 4. 1～29. 3. 31）
日本民具学会理事
（平成28. 11～31. 11）
阿南市史羽ノ浦近現代編執筆委員
（平成26. 6. 1～30. 3. 31）

- 武知家住宅調査委員会委員
（平成27. 6. 1～29. 3. 31）
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会専門委員
（平成27. 8. 21～29. 3. 31）
地方史研究協議会第68回（徳島）大会実行委員会委員
（平成27. 8～29. 10）
- 松永友和
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会専門委員
（平成27. 8. 21～29. 3. 31）
徳島県南海地震史料調査委員会委員
（平成28. 4. 1～29. 3. 31）
徳島地方史研究会評議員
（平成25. 4～）
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
（平成25. 9. 1～）
地方史研究協議会第68回（徳島）大会実行委員会委員
（平成27. 8～29. 10）
- 岡本治代
地方史研究協議会第68回（徳島）大会実行委員会委員
（平成27. 8～29. 10）

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「II 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している（詳細は p. 24～27参照）。

- 4月30日 佐藤陽一
阿南市 KITT 賞賛推進会議講演会で講演「徳島の海の哺乳類 — アゴヒゲアザラシはなぜ徳島にやって来た！？ —」（阿南ひまわり会館）
- 4月30日 松永友和
淡路地方史研究会の徳島（脇町）日帰り研修で講演「脇町の歴史散策 — うだつの町並みとその周辺 —」（美馬市観光文化資料館）
- 5月12日 松永友和
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会で報告「調査報告（鳴門の渦潮の往来について）」（鳴門市消防本部会議室）

- 5月18日 長谷川賢二
鳴門市人権教育協議会理事会で講演「博物館と人権」（鳴門市共済会館）
- 5月25日 長谷川賢二
部落解放・人権政策確立要求高松市実行委員会総会で講演「部落史から考える私たちの課題」（高松市役所）
- 5月25日 磯本宏紀
阿波市市場町八幡公民館成人講座で講演「阿波から讃岐、讃岐から阿波への人の移動と交流」
- 6月8日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合福祉センター）
- 6月17日 長谷川賢二
全国大学博物館学講座協議会全国大会におけるフォーラム「博物館学芸員養成課程の現在、そしてこれから」で報告「学芸員養成課程と博物館」（四国大学交流プラザ）
- 7月5日 長谷川賢二
平成28年度高野山真言宗四国地区教師研修会で講演「部落史から考える現代の人権課題」（徳島ワシントンホテル）
- 7月21日 松永友和
徳島大学サマープログラム「徳島再発見」の一環として講演「都市徳島の近世近代」（徳島大学常三島キャンパス）
- 7月25日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校上板校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（上板町老人福祉センター）
- 7月27日 岡本治代
徳島県立文書館「平成28年度古文書保存講座」講師
- 8月4日 磯本宏紀
とくしま創生推進事業文化建築講演活動で講演「出羽島とカツオ漁」（出羽島住民交流施設「波止の家」）
- 8月4日 山田量崇
徳島県建設技術センター「夜の昆虫観察会」講師（文化の森総合公園）
- 8月9日 佐藤陽一
「交流体験 IN 吉野川（下流編）」講師（徳島市入田町、鮎喰川）
- 9月27日 長谷川賢二
徳島県自治研修センター「平成28年度徳島県新規採用職員研修 人権問題（同和問題の歴史と課題）」で講演「部落史から考える私たちの課題」
- 10月2日 植地岳彦
徳島県南4市町 with（公財）徳島県埋蔵文化財センター合同企画「長国の埋蔵文化財」関連講演「長

- の国の金属」(小松島市生涯学習センター)
- 10月5日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立過程」(徳島県立総合福祉センター)
- 10月15日 長谷川賢二
平成28年度藍住町歴史文化講座で講演「勝瑞と修験道」(藍住町コミュニティセンター)
- 10月16日 岡本治代
徳島県南4市町 with (公財) 徳島県埋蔵文化財センター合同企画「長国の埋蔵文化財」関連講演「長国の石器—阿南市若杉山遺跡を中心に—」(阿南市富岡公民館)
- 10月18日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(小松島市総合福祉センター)
- 10月20日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(鳴門・大塚スポーツパーク)
- 10月21日 長谷川賢二
特定非営利活動法人人権教育とくしま第1回人権教育講座で講演「部落史の見直しはなぜ必要だったのか」(アスティとくしま)
- 10月22日 長谷川賢二
明治大学・徳島大学・徳島県連携講座「四国遍路の世界観～弘法大師信仰～」で講演「山岳信仰から四国遍路へ」(明治大学駿河台キャンパス)
- 10月22日 松永友和
徳島県立文書館「古文書講座(中級)」で講演「阿波藍関係文書を読む」
- 10月26日 庄武憲子
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「民俗学①」「民俗学②」(徳島県立総合福祉センター)
- 10月29日 長谷川賢二
平成28年度鳴門市公民館歴史講座で講演「四国遍路の源流を探る」(鳴門市板東公民館)
- 11月2日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」(徳島県立総合福祉センター)
- 11月6日 長谷川賢二
四国遍路日本遺産協議会「四国遍路展～遍路の見た風景Ⅱ～」で展示解説(東京交通会館)
- 11月12日 庄武憲子
松茂町文化遺産活用実行委員会「文化遺産を活かした地域活性化事業」による歴史講座「地域に受け継がれる祭～見る・聞く・学ぶ～」で講演「寺院で行われるまつり—二上がり音頭を中心として—」(松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)
- 11月16日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校阿南校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(阿南ひまわり会館)
- 11月20日 辻野泰之
福井県立恐竜博物館「博物館セミナー」で講演「連携博物館講座:ちょっと変わった形をしたアンモナイトの話」(福井県立恐竜博物館)
- 12月2日 湯浅利彦
歴史クラブで講演「文化財が語る徳島の歴史」(徳島県郷土文化会館(あわぎんホール))
- 12月24日 松永友和
平成28年度鳴門市公民館歴史講座で講演「四国遍路札所寺院と江戸幕府・徳島藩—元禄期の本末争論をめぐって—」(鳴門市板東公民館)
- 1月6日 松永友和
歴史クラブで講演「『大塩の乱』と徳島藩」(徳島県郷土文化会館(あわぎんホール))
- 1月22日 長谷川賢二
徳島県立総合大学校西部校地域づくり実践講座で講演「にし阿波の歴史を知る—白地城主大西氏の信仰と交流—」(徳島県西部総合県民局三好庁舎)
- 1月28日 長谷川賢二
徳島大学大学開放実践センター公開講座「空海と歩く～阿波遍路2017」で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」
- 2月1日 磯本宏紀
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会で報告「鳴門海峡における漁業と鳴門の漁民」(鳴門市消防本部会議室)
- 2月1日 松永友和
「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査検討委員会で報告「大坂から阿波・徳島への往来について—渡海の手続きと「鳴門」見物の旅を中心に—」(鳴門市消防本部会議室)
- 2月17日 松永友和
徳島市立德島城博物館「阿波の文学と歴史セミナー」で講演「益田豊後事件の歴史的意義」
- 3月18日 湯浅利彦
鳴門市教育委員会「『鳴門板野古墳群』国史跡指定記念シンポジウム」でパネルディスカッションのコーディネーター(鳴門市うずしお会館)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受諾

平成28年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

辻野泰之

鳴門教育大学嘱託講師（博物館経営論）
（平成28.4.11～29.3.31）

山田量崇

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成28.4.1～28.9.30）

長谷川賢二

鳴門教育大学嘱託講師（歴史学演習Ⅰ）
（平成28.4.11～29.3.31）

磯本宏紀

徳島大学非常勤講師（博物館経営論）
（平成28.4.1～28.9.30）

松永友和

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（平成28.4.1～28.9.30）

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設におけ



博物館実習「普及行事の実際」

る実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

28年度は、8月23日(火)～27日(土)に実習生の受け入れを行い、指導にあたっては鳥居龍蔵記念博物館にも協力してもらった。実習生は17人で、大学別の内訳は次の通りである。

鳴門教育大学	4人	四国大学	5人
徳島大学	2人	神戸女子大学	1人
帝京大学	1人	青山学院大学	1人
高知大学	3人		

●28年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (9 人)		B 班 (8 人)	
		実習名 (場所)	担当者	実習名 (場所)	担当者
8/23 (火)	午前	館長あいさつ (実習室)	湯浅	館長あいさつ (実習室)	湯浅
		ガイダンス・館内施設見学 (館内)	庄武	ガイダンス・館内施設見学 (館内)	庄武
	午後	普及業務の実際 (実習室)	真鍋・鉄谷	植物標本の整理 (生物収蔵庫)	茨木
8/24 (水)	午前	美術資料の整理 (講座室)	大橋	考古資料の整理 (考古収蔵庫・実習室)	岡本・植地
	午後	図書の整理 (書庫など)	松永	普及業務の実際 (実習室)	真鍋・鉄谷
8/25 (木)	午前	脊椎動物標本の整理 (実習室・標本作製室)	佐藤	地学標本のレプリカ作成 (実習室)	辻野
	午後	鳥居龍蔵関連資料の整理 (実習室)	石井 (鳥居)	民俗資料の整理 (実習室・歴史民俗収蔵庫・考古収蔵庫)	庄武
8/26 (金)	午前	考古資料の整理 (実習室・考古収蔵庫)	岡本・植地	歴史資料の整理 (作業室・歴史民俗収蔵庫)	長谷川・松永
	午後	歴史資料の整理 (作業室・歴史民俗収蔵庫)	長谷川・松永	地学資料の整理 (地学収蔵庫・作業室)	中尾
8/27 (土)	午前	普及行事の実際	小川	普及行事の実際 (実習室)	小川
	午後	民俗資料の整理 (考古収蔵庫)	磯本	鳥居龍蔵記念博物館について (実習室)	下田 (鳥居)

午前 (9:30～12:00)、午後 (13:00～16:00)、実習ノート記入・提出 (16:00～17:00)

なお、同時期に県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生を受け入れた。インターンシップ実習学生は4人で、次のとおりである。

徳島大学	1人
関西大学	1人
関西学院大学	1人
公立鳥取環境大学	1人

カリキュラムは表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定（年報22号参照）にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。博物館講座室を会場として、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で講義を担当した。各科目の日程、受講者数は次の通りである。

- ①博物館資料保存論 9月8～11日、13日
徳島大4人、鳴門教育大8人、四国大25人
- ②博物館教育論 2月24～26日、28～3月1日
徳島大5人、鳴門教育大9人、四国大19人
- ③博物館展示論 3月3・4日、7～9日
徳島大6人、鳴門教育大8人、四国大22人

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

平成28年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

- みどりクラブ例会
開催日：毎月1回、土曜日（不定）
会場：博物館講座室
参加者：10人程度
- 徳島地域文化研究会
総会及び研究会
開催日：6月19日（日）
会場：図書館集会室2
参加者：10人
- 徳島地方史研究会11月例会（地方史研究協議会第68回（徳島）大会準備報告会）
開催日：11月23日（水・祝）
会場：博物館講座室

参加者：14人

- 第69回四国中世史研究会（巡見）
開催日：2月5日（日）
会場：博物館歴史民俗収蔵庫前
参加者：20人
- 徳島地方史研究会3月例会（地方史研究協議会第68回（徳島）大会準備報告会）
開催日：3月26日（日）
会場：博物館講座室
参加者：25人

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

- みどりクラブ
植物に関心のある県内同好者が、毎月1回（土曜日の18：30～）、博物館実習室で植物分類の勉強会や採集情報等に関する意見交換を行っている。
会員は約15人で、毎回約10人の参加者がある。
- 徳島地域文化研究会
主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年2～3回程度）、会誌『徳島地域文化研究』の発行（年刊）等を行っている。
- 四国民具研究会
四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催（年2回程度）、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。
- 日本半翅類学会
カメムシやヨコバイ、セミなどのカメムシ目（半翅類）に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて半翅類に興味を持つ者相互の理解と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「Rostria」の発行、総会、例会などの事業を行っている。23年度から当館が事務局を担当している。
- とくしま海の観察会
主に県内の漂着物に関する調査・情報交換を行っている研究会で、年4回の例会を行っており、会誌『小松通信』を発行している。
- 漂着物学会
漂着物に関する研究の発展及びその成果の普及を図り、あわせて漂着物に関心を持つ者相互の情報交換と親睦を深めることを目的とした学会である。会誌「漂着物学会誌」・会報「どんぶらこ」の発行、総会、例会などの事業を行っている。27年度から当館が事務局を担当している。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在75館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、28・29年度は当館が会長館をつとめている。

28年度の役員会・総会及び研修・視察を、次の通り開催した。研修を初日に繰り上げたため、総会が2日に及んだ。

●役員会・総会（1日目）

日時：9月1日（木）

役員会 11：00～、総会 13：30～

会場：徳島県立博物館

議事：平成27年度事業報告について

平成27年度決算について

平成28年度役員の改選について

平成28年度事業計画について

平成28年度予算について

その他（入会及び退会、意見交換等）

研修：講師 半田昌之氏（日本博物館協会専務理事）

演題 「日本博物館協会本部の事業及び博物館を取り巻く全国的な状況について」

事例報告：四国における博物館ネットワークの現状と課題①

報告1 小川 誠（当館）

「ネットワークで捗る博物館活動」

●総会（2日目）・視察

日時：9月2日（金）9：45～12：00

場所：徳島県立博物館

報告2 高嶋賢二氏（伊方町町見郷土館）

「四国ミュージアム研究会のネットワークと活動―「もっと博物館が好きっ!」の編集を通して―」

報告3 渋谷啓一氏（香川県立ミュージアム）

「香川県資料館協議会の活動について」

視察 博物館企画展「トクシマ恐竜展」の見学

案内：辻野泰之（当館）

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、29年3月末現在では49館になっている。当館が事務局

をつとめている。

●28年度事業

①役員会の開催

6月24日（金） 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

3月3日（金） 徳島県立博物館

②総会の開催

日時：6月24日（金） 13：00～16：40

場所：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

議事：平成27年度事業報告及び決算報告

平成27年度監査報告

平成28年度役員選出

平成28年度事業計画及び会計予算

その他

講演：佐藤憲治氏（徳島県立阿波十郎兵衛屋敷事業課長）

「阿波人形浄瑠璃の振興」

視察：阿波人形浄瑠璃（平成座）の鑑賞及び施設

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.51～53を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者 18人

日時：11月29日（火） 13：40～16：00

場所：三木文庫

内容：施設見学

上田滋事務局長、船井由美子学芸員による概要説明・展示案内

⑥徳島博物館マップの作成

全面改訂した新版を発行し（8万部）、加盟館園及び各種機関・学校に配布した。

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、32機関・団体が加入している。28年度は、三重県人権センターを会場として第21回総会が開催されたほか、三重県内の関連施設視察が行われた（6月23～24日）。

当館は発足時から加入しており、総会に職員を派遣してきた（28年度は不参加）ほか、大阪人権博物館、水平社博物館等、加入機関・団体との個別的な協力を行っている。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環

瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者155人が参加している。

28年度は、地域自然史環境情報提供事業として標本情報の整備に関する研究会（2回）、博物館連携推進事業として生物多様性協働フォーラムを開催した。また、調査研究推進事業として博物館スタッフのための技術講座学芸員「お勧めの採集・観察用具と標本作り」を開催し、100円ショップグッズを使った自然観察と巡回展などを行った。

(5) 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査 GIS データの管理

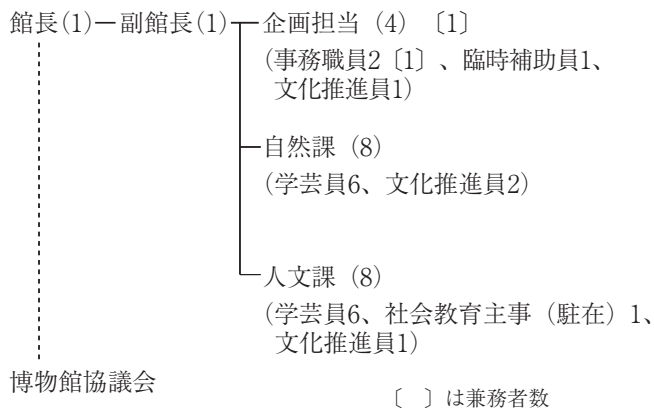
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始し、正式版は27年5月より配布を開始した。28年度は1件の申請があり1件の配布を行った。

VIII 管理運営・マネージメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（平成29年4月1日現在）



(2) 職員名簿（平成29年4月1日現在）

館長	湯浅 利彦
副館長	笹田 純司
〈企画担当〉	
課長補佐	真鍋 憲人
係長	坂部 公章
主任主事	小倉 健太(二十一世紀館主任主事本務)
臨時補助員	伊祁 稜眞
文化推進員	松家あき子
〈自然課〉	
課長	佐藤 陽一(動物)
上席学芸員	小川 誠(植物)
〃	中尾 賢一(地学)
学芸係長	茨木 靖(植物)
主任	辻野 泰之(地学)
〃	山田 量崇(動物)
文化推進員	前川 雅美
〃	内田 裕子
〈人文課〉	
課長	長谷川賢二(歴史)
上席学芸員	大橋 俊雄(美術工芸)
上席学芸員	庄武 憲子(民俗)
学芸係長	磯本 宏紀(民俗)
主任	松永 友和(歴史)
主任学芸員	岡本 治代(考古・保存科学)

係長兼社会教育主事(駐在)

植地 岳彦(考古・保存科学)

文化推進員 清重 江美

(3) 人事異動

〈平成29年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉

転出：久米みどり・副館長、徳島北高等学校事務課長へ
 鉄谷 雅史・係長、海陽中学校教諭へ

転入：笹田 純司・副館長(都市計画課副課長)
 坂部 公章・係長(鳴門市第一中学校教諭)

駐在：植地 岳彦・教育委員会文化の森振興本部企画振興部係長兼社会教育主事

兼務：湯浅 利彦・教育委員会文化の森振興本部部长(博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当)
 笹田 純司・教育委員会文化の森振興本部副部长(博物館・鳥居龍蔵記念博物館担当)
 真鍋 憲人・教育委員会文化の森振興本部企画振興部

(4) 平成28年度非常勤・臨時職員

- 臨時補助員
井上 翔太(平成 28.4.1 ~ 29.3.31)
- 文化推進員(非常勤特別職)
西 記代子(平成 25.10.1 ~ 28.9.30)
湯浅 絵美(平成 27.4.16 ~ 29.3.31)
前川 雅美(平成 27.4.16 ~)
内田 裕子(平成 27.9.1 ~)
清重 江美(平成 28.10.1 ~)

2. 予算

2月現計予算額(2月補正後の予算額)を下に示す。

●平成28年度博物館費(2月現計予算額)(単位:千円)	
予算総額	46,478
管理運営	13,730
展覧	7,211
調査研究	1,999
収集保存	6,934
普及教育	1,604
恐竜展開催	15,000

3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務し（27年度からは本部兼務のみ）、定期的な会議を通じて文化の森の連携と企画・広報の推進を図っている。28年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携事業の継続

引き続き文化の森全館と連携を図り、5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」、8月21日の「文化の森サマーフェスティバル」、11月3日の「文化の森 大秋祭り!!」、2月11日の「文化の森ウィンターフェスティバル」を行った。また、こうしたイベントをより有意義なものとするため改善策について検討を深めた。

②「徳島県の文化の創造的再発見事業」の実施

28年度、博物館、近代美術館、文書館が連携し「阿波の道と人」をテーマに、各館がその専門性を活かし、「阿波の道を歩く 芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展を開催した。それぞれの所蔵資料や研究成果などを文化の森6館で分散展示し、遍路道を含む阿波の道と人の魅力を再発見することを目指した。

③文化の森学習応援事業の実施

従来から、文化の森の貸し館施設を学習室として開放してほしいとの要望が寄せられていた。これを受け、子どもたちの学力向上及び文化の森総合公園内の貸し館施設の有効活用の観点から、28年度、夏休み、冬休み、春休みの期間中、机と椅子があり学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸し館スペースを一般予約の空き状況をみながら学習室として解放した。その結果、中学生、高校生を中心に多くの利用があった。

4. 防災及び危機管理

(1) 危機管理体制

文化の森3館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、訓練を行って非常時に備えている。

(2) 防災訓練

10月19日（水）及び11月17日（木）の2度にわたり、二十一世紀館を中心に、防火防災訓練を行った。11月17日の訓練では、徳島市消防局の指導の下、「心肺蘇生法」の訓練も実施した。また、11月7日（月）には、県危機管理部が中心となり県庁全体で実施した災害時対応のBPC（業務継続計画）訓練（安否情報確認）にも参加した。

(3) 耐震化対策の推進

地震災害の発生時に収蔵資料を守ることができるよう、収蔵庫の耐震化を推進した。すでに27年度に、歴史民俗収蔵庫・地学収蔵庫・考古収蔵庫において、一部の棚に落下防止の耐震ベルトを設置したが、28年度には考古収蔵庫の未施工箇所新たにベルトを設置した。また、地震発生時の安全確保のため、人文研究室において書棚の転倒防止の工事を行った。26年度に自然（動物）研究室で施工しており、継続分として実施したものである。

5. ユニバーサル化への取り組み

平成26年度「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」、27年度「安全安心の文化施設モデル事業」を踏まえ、28年度も引き続きユニバーサル化の推進に努め、以下の通り取り組んだ。

(1) とくしま「異文化キャラバン隊」による文化の森魅力発見！プロジェクトへの協力

徳島大学国際センターのサマースクールの一環として、外国人留学生と日本人学生が「文化の森 魅力発見！」パンフレットを作成するのに協力した。

日時：28年8月7日 10:00～15:00

参加者：60人

(2) 徳島県障がい者の集い「文化の森展示コーナー」への出展

徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）で開催された徳島県障がい者の集いにおいて、26年度「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」での活動の様子、作成した触察教材などを展示した。

日時：28年11月27日 9:00～17:00

観覧者：15人



文化の森魅力発見！プロジェクト

(3) 研修会「はじめましての手話」「手話と美術をつなぐ」への参加

近代美術館主催の研修会に参加するとともに、意見交換を行った。その結果をふまえ、聴覚障がい者のための非常時用サインとして、美術館と共通の非常サインボードを作成、常設展示室受付に設置した。

日 時：29年2月14日

博物館からの参加者：7人

6. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(平成29年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	堀川 富美	県小学校教育研究会理科部会副会長 (芝坂小学校長)
	野々村拓也	県中学校教育研究会社会科部会長 (鳴門教育大学附属中学校長)
	平山 義朗	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 (鳴門渦潮高等学校教頭)
社会教育	松下 師一	松茂町総務課長 元松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館館長補佐
	町田 哲 (副会長)	鳴門教育大学大学院准教授
	中村 豊	徳島大学大学院総合科学研究部准教授
学識経験	玉有 繁 (会長)	元徳島文理大学教授
	玉田 香織	藍住町国際交流協会理事
	佐藤 陽香	徳島新聞社三好支局記者
家庭教育	川原 絵美	八万中学校PTA本部役員

博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

28年度は協議会を1回開催した。

●28年度博物館協議会

日時：平成28年9月28日(水)

13:30～16:00

会場：博物館講座室

議事

- ①平成27年度事業の実施状況について
- ②平成28年度予算及び事業概要について
- ③その他

7. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、次のような研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めた。月日、研修会等名称(主催者。名称に主催者名が含まれている場合は省略)、氏名の順に記す。

6月8日 第23回全国博物館長会議

(文部科学省・(公財)日本博物館協会)

湯浅利彦

8月1日 公開承認施設担当者会議(文化庁)

大橋俊雄

8月2日 国宝重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会(文化庁)

大橋俊雄

11月14～18日 歴史民俗資料館等専門職員研修会

(文化庁・国立歴史民俗博物館)

岡本治代

11月16～18日 第64回全国博物館大会(日本博物館協会)

佐藤陽一・磯本宏紀・植地岳彦

3月20・21日 第13回四国ミュージアム研究会

長谷川賢二・磯本宏紀

8. 視察等博物館関係来訪者

5月20日 しょうけい館(戦傷病者史料館)

木龍克己氏

5月31日 高知県立歴史民俗資料館

松田知彦氏、岡本桂典氏

6月18日 全国大学博物館学講座協議会全国大会一行

7月10日 古文書の会 神戸月影会一行

- 9月13日 国造制研究会一行
9月23・24日 中世地下文書研究会一行
9月25日 盛岡の人形浄瑠璃復活実行委員会一行
9月29日 東京大学史料編纂所
伴瀬明美氏、村井祐樹氏ほか1人
11月19日 関西元気文化圏推進協議会事務局
平家久幸氏ほか1名
11月24日 鳥根県竹島資料館
杉原隆氏、藤井賢二氏
12月22日 奈良文化財研究所
高妻洋成氏、中島志保氏
1月4日 HUNTER COLLEGE
Claudia Orenstein 氏
2月23日 府中市郷土の森博物館 佐藤智敬氏
3月5日 慶応義塾大学日本中世史ゼミ一行

IX 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標（平成26年9月17日策定）

近年、生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況は急速に変化してきた。これまでの資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、及び公的施設の運営の見直しなども進められるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、2期10年間（第1期：16～20年度、第2期：21～25年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化を進めてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動を進めていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考える。

25年度をもって第2期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第3期目標（26～30年度）をまとめた。

(1) 第2期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革を進め、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

とくに第2期目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の理念及び基本的性格(注)を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価を進めることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残したといえる。

(注)

「徳島県立博物館の理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次の通りである。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にする博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

- ①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。
- ②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育及び生涯学習センターとしての役割を果たします。
- ③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 第3期中期活動目標の策定の経緯

第3期中期活動目標の策定にあたっては、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行った。その結果、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることにより、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう、見直していった。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱 — 県民とともに活動し、成長する博物館 —

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動し、成長していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての多様な資料や情報をもとに、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化について県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」県民とのつながりを大切にする博物館

博物館は、県民のみなさんと対話を深めながら、ともに活動し、地域の活性化に貢献します。

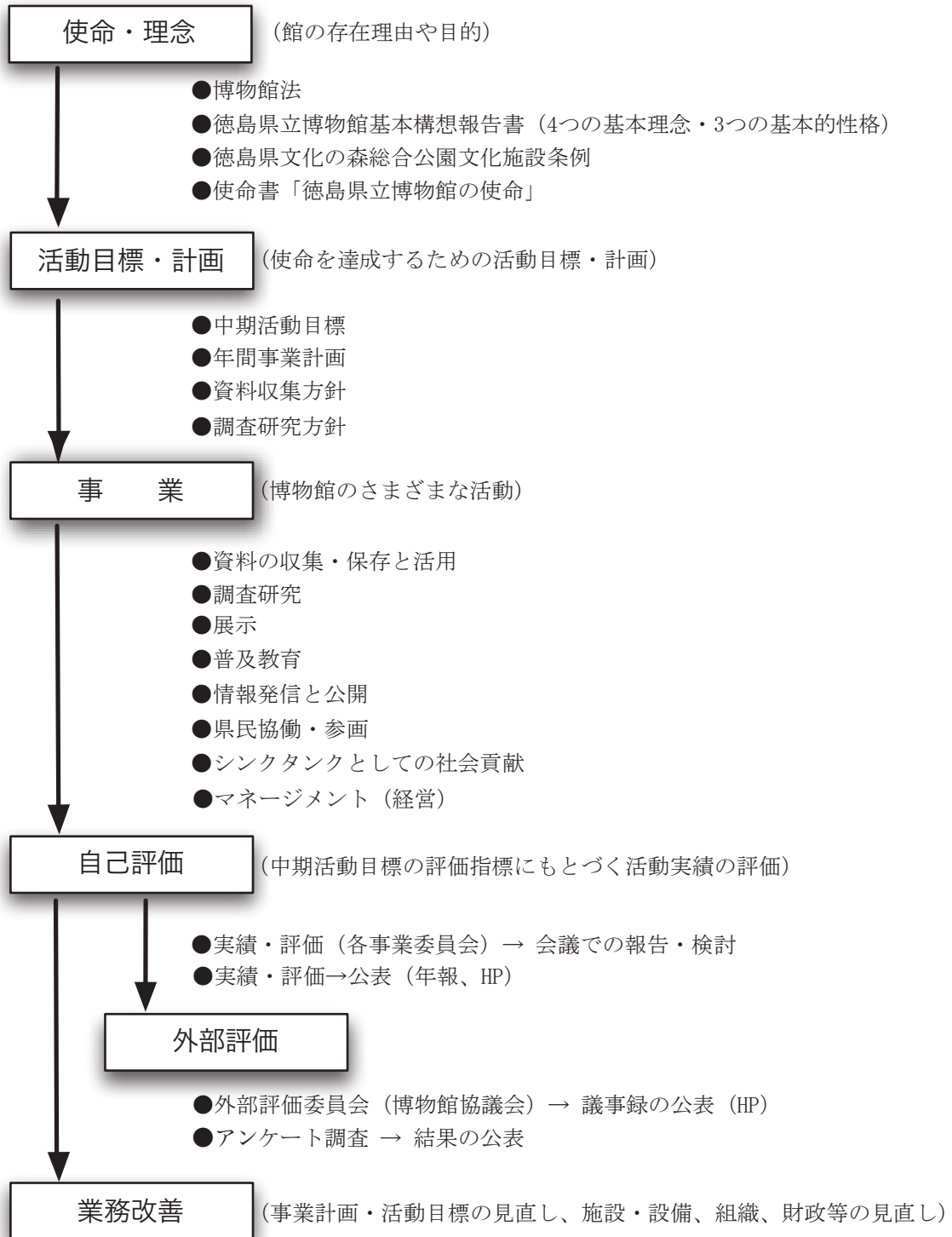
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第3期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成26～30年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- ・活動実績及び評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次の通りである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」県民とのつながりを大切にする博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

以下では、事業ごとに中期活動目標の項目、評価指標及び目標値などを示す。

①展示

県民のみなさんが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんとの連携を大切にしながら、徳島及び関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	40,000人/年	
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合	40%	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%	
			他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%	
		展示改善の実施状況	新しい発見や体験につながる取り組み件数		定期的に展示替えするコーナーは除く
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1回あたりの観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	
			他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		県外への発信度 企画展の検討状況	県外観覧者の割合	5%/回	
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列、部門展示等の多様な展示の開催を進めます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	10回（特1・部4・トピック5）	常設展ロビーにおける資料紹介などの実績があれば算入する。
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	200人	開催日数の長短の差が大きいため
		観覧者の満足度	新たな知識や発見・興味を得た観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
			他人に見学を勧めたいと考える観覧者の割合	80%/回	特別陳列のみ
		社会的評価	マスコミの報道件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
1-4 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者を含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-5 展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況 展示解説等の実施状況	年間の刊行件数 展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
1-6 県民などとの協働による展示の推進	県民などの力を借りて、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	将来の常設展の全面リニューアルを目標に、館内での検討を進めるとともに、関係方面の理解が得られるよう努力を継続します。また、全面リニューアルの実現までの間、展示替えに努めます。	リニューアルに向けての進捗状況	リニューアルに向けての協議や施設調査等の取り組み		

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化について楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	県民のニーズに対応した多様な普及行事を企画し、多様な学習機会を創りだします。また、移動講座等のアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		3,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合 80%	
2-2 学校教育支援事業の推進	学校への資料貸出や出前授業、また博物館での授業や教員研修、職場体験、遠足等を受け入れ、学校教育を支援します。	アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
		支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		館での授業件数			
		教員研修件数			
		職場体験件数			
2-3 普及的記事の執筆推進	身近な自然や歴史、文化に関する理解を手助けするため、ガイドブックの出版や、新聞・雑誌等への解説記事の執筆を進めます。	ガイドブック出版状況		1冊/年	
		普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4 県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況			県民からの協力を受けた行事を含む

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を、県民のみなさん及び関連機関と連携しながら進め、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元するとともに、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 調査研究活動の推進	徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究及び博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみなさんが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的及び民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学研究費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請6件 採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
		民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
		学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
		マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	2件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、様々な手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、様々な形で活用します。(使命:「伝」未来にまもり伝える博物館)

70 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
収集					
4-1 継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集を進め、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数		H30年度末で521,000点	H25年度末現在で501,751点、H27に51万点の予定
		新規資料増加点数		4,000点/年	H21～25年度の平均増加点数3,954点
		採集資料件数		20件/年	H21～25年度の平均18.2件
		購入資料件数		3件/年	H17年度以降はH24年度の1件のみ
		寄贈資料件数		100件/年	H21～25年度の平均107.2件
4-2 寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			H25年度末現在で70件
		新規寄託件数		3件/年	H21～25年度の平均は2件
4-3 文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
		新規受入図書冊数	購入・寄贈図書数	200冊/年	H21～25年度の受入の平均201.8冊
		寄贈		90冊/年	H21～25年度の寄贈の平均91.4冊
		購入		100冊/年	H21～25年度の購入の平均110.4冊
		購入雑誌タイトル数			
保存					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数) × 100	50%	
4-5 資料の安全な保存	収蔵庫の点検や資料の燻蒸等により、収蔵資料の安全な保存を図ります。	収蔵庫点検回数		12回/年	収蔵庫あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
		燻蒸回数		3回/年	
4-6 展示室の資料保存環境の改善	展示室における照明や空調を適切に管理するとともに虫菌害の防除に努め、安全な資料の保存環境を確保します。	展示室点検回数		12回/年	展示室あるいは区画ごとにチェックリストを定め実施
4-7 収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況			
活用					
4-8 展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
		常設展			
		常設展以外の展示			
4-9 貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し（2・2学校への資料貸出件数を参照）を除く	60件/年	H21～25年度の平均59件

⑤情報の発信と公開

博物館活動についての様々な情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話を進めます。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材し、報道した数		印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数及び発行回数		
		Eメールサービス登録件数	年度末時点のEメールサービスの登録件数	250人/年	

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	6,500,000件/年	
		新規コンテンツ数	新たに作られたページの数	30ページ/年	
		内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	
		双方向的な情報交換の推進に向けた検討			

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんとの協働による展示や普及行事、県民参画型の調査、友の会や公募ボランティアによるイベントなどを推進することにより、地域の活性化に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考		
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	400人/年			
		個人会員					
		家族会員					
		会員の継続率	当該年度会員に占める前年度会員の割合	前年度会員の70%			
		個人会員					
		家族会員					
		友の会行事実施回数		6回/年	括弧内に参加者数を並記		
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%			
		個人会員					
		家族会員					
6-2 公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数					
		公募ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ日数				
		企画運営型行事等件数	公募ボランティアによる企画運営型行事の数		科学体験フェスティバルを含む		
		会報の発行回数		3回/年			
		普及行事支援件数	友の会による普及行事支援の数		フェスティバルを含む		
		6-3 各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事及び調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況			1-6の再掲
				県民との協働による普及行事の実施状況			2-4の再掲。県民からの協力を受けた行事を含む
				県民参画型調査の件数		2件/年	3-3の再掲

⑦ シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			

72 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
		機関・団体等への協力状況			
7-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数			
		学生・院生指導人数			
		博物館実習生受入人数		20人/年	
		学芸員養成科目受講者数	3科目(博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論)の延べ受講者数		
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
		学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
		学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
		博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
		連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧ マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。
(使命：効率的でバランスのとれた運営)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合			
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等による様々な博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県及び県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況 外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況 危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。			
8-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況		
			自己点検評価の状況		
			外部評価の状況		

2. 28年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
1-1 常設展の改善・充実	常設展観覧者数	40,000人/年	37,945人	44,426人	68,453人
	観覧者のリピーター率	40%	33% (8月)	31% (8月)	46% (8月)
	観覧者の満足度 新たな知見	80%	92% (8月)	87% (8月)	86% (8月)
	他人への推薦	80%	90% (8月)	86% (8月)	77% (8月)
	展示改善の実施状況		2件 (ロビー、キッズチャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズチャレンジコーナー)	2件 (ロビー、キッズチャレンジコーナー)
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然 7,000人 総合 5,000人 人文 3,500人	4,651人 (いただきま〜す) 9,673人 (まんまるワールド) 15,525人 (四国へんろ)	4,218人 (瓦から見る古代の阿波) 2,968人 (阿波木偶箱まわし)	93,576人 (自然コレクション) 62,276人 (トクシマ恐竜展) 2,444人 (藩絵師のすがお)
	観覧者の満足度 新たな知見	80%/回	2,968人 (阿波木偶箱まわし)	84% (瓦から見る古代の阿波) 92% (阿波木偶箱まわし)	84% (自然コレクション) 92% (トクシマ恐竜展) 88% (藩絵師のすがお)
	他人への推薦	80%/回	84% (いただきま〜す) 85% (まんまるワールド) 91% (四国へんろ)	81% (瓦から見る古代の阿波) 89% (阿波木偶箱まわし)	82% (自然コレクション) 87% (トクシマ恐竜展) 95% (藩絵師のすがお)
	社会的評価	5件/回	いただきま〜す 11 まんまるワールド 13 四国へんろ 19	瓦から見る古代の阿波 5 阿波木偶箱まわし 5	自然コレクション 7 トクシマ恐竜展 32 (うち勝浦町竜脚類化石関連 19) 藩絵師のすがお 3
	県外への発信度	5%/回	3% (いただきま〜す) 15% (まんまるワールド) 10% (四国へんろ)	11% (瓦から見る古代の阿波) 11% (阿波木偶箱まわし)	12% (自然コレクション) 14% (トクシマ恐竜展) 4% (藩絵師のすがお)
	企画展の検討状況		28年度以降の計画の協議	29年度以降の計画の協議	30年度以降の計画の協議
1-3 多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	10回 (特1・部4・トピック5)	19回 (特1・部6・ト6・他江戸時代の絵師4、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業2)	20回 (特1・部6・ト7・他江戸時代の絵師3、貨幣1、人形&フィギュア1、南米の自然1)	19回 (特1・部5・ト5・他江戸時代の絵師3、竜脚類化石1、阿波の道1、白亜紀化石1、県の石1、干支の動物1)
	特別陳列観覧者数	200人/日	140人 (国立公文書館所蔵資料展)	341人 (シエルズ)	108人 (徳島の朱)

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
	観覧者の満足度	80%/回	80% (国立公文書館所蔵資料展)	92% (シェルズ)	90% (徳島の朱)
		80%/回	データなし (国立公文書館によるアンケートのため)	87% (シェルズ)	86% (徳島の朱)
	社会的評価	5件/回	国立公文書館所蔵資料展5	シェルズ2	徳島の朱7
	特別陳列等の検討状況		28年度以降の計画の協議	29年度以降の計画の協議	30年度以降の計画の協議
14 他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	4回 (鳥居、博物館Vキングみんなで創るユニバーサルミュージアムパネル紹介展、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展、文化の森人権啓発展)	2回 (鳥居龍蔵-世界に広がる知の遺産、文化の森人権啓発展)	3回 (遙かなるマチュピチュ、阿波の道を歩く、文化の森人権啓発展)
	移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	2回 (アミコ6階、美波町日和佐図書・資料館)	3回 (佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター、海陽町立博物館、阿南市文化会館)	6回 (四季美谷温泉、つるぎ町織本屋、鳴門市立図書館、海陽町立博物館、あわぎんホール、阿南市文化会館)
15 展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録3、特別陳列図録1	企画展図録2	企画展図録等4
	展示解説等の実施状況		企画展示解説20回 企画展記念講演会1回 企画展関連行事8回 クイズラリー24回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説7回 セルフガイドの増設1件	企画展示解説5回 企画展記念講演会1回 企画展記念公演・実演(三番叟奉納、門付け・大道芸)2回 企画展関連行事(ワークショップ等)4回 特別陳列解説1回 クイズラリー24回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説9回	企画展示解説14回 企画展記念講演会2回 企画展関連行事10回 特別陳列解説3回 特別陳列講演会1回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー23回 常設展示室活用イベント4回 部門展示解説6回
16 県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		「博物館Vキングみんなで創るユニバーサルミュージアムパネル紹介展」 「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業紹介展」、「浜辺に揺りあがる焼き物たち」、「タンポポ調査が始まります」2回	「阿波木偶箱まわし」 「シェルズ」 「漂着物展～徳島の渚にどんぶらこ～」 「みんなで調べた西日本のタンポポ」 「みんなで調べた西日本のタンポポ」	「みんなの自然コレクション(鉱物の展示コーナー)」「みんなで調べた西日本のタンポポ」 「浜辺で拾ったエビとカニ」 「高校生が調べた徳島の浜辺」
1-7 常設展のリニューアルに向けての取り組みの推進	リニューアルに向けての進捗状況		リニューアルした博物館への聞き取り調査(京都国立博物館)、みんなで創るユニバーサルミュージアム事業による案内表示等の試作、キッズチャレンジコーナーの更新	文化の森25周年フレッシュアップ事業による各種サイン・パネルの改装、キッズチャレンジコーナーの更新	リニューアルした博物館の視察(群馬県立歴史博物館、高知県立高知城歴史博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館)、展示ケース等修繕、総合展示室「日本列島と四国のおいたち」導入部の改修

●自己評価

(1-1)

- ・常設展観覧者数は68,453人であった。この数は過去5番目に多く、平成5年度の69,480人に次ぐ。恐竜展の開催や勝浦町竜脚類化石の報道に加え、平成24年度から続いている節電キャンペーンによる常設展観覧料の無料期間(7月22日～8月31日)も大幅増につながっている。
- ・28年度は常設展のアンケートを夏季(8月2日～8月27日)に実施した。リピーター率は46%で目標値を上回った(初めての利用者は49%)。その多くが恐竜展や勝浦町竜脚類化石の展示を目当てに来館したと考えられ、普段の利用者層と異なっていたと思われる。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は86%で、目標値を上回ったものの過去3年間で一番低い。
- ・常設展を他の人に見るようすすめたいと「思う」観覧者は77%で、目標値を下回るとともに過去最低であった。満足度と合わせて近年では低い数値であり、定期的な更新が難しい常設展に対するの感想ととらえることができる。小規模な更新では利用者の満足を得ることは困難であろう。
- ・恐竜展会期中に「キッズ・チャレンジコーナー」を一時的に撤去したため、アンケートの対象には挙げなかったが、新たな体験キットの導入等、キッズコーナーの更新を望む意見があった。また、利用者(大部分が幼児とその保護者)以外の観覧者の関心がないため、幼児以外の観覧者を対象とした体験コーナーとしても検討していく必要もある。

(1-2)

- ・観覧者数は「みんなの自然コレクション」が9,356人、「トクシマ恐竜展」が62,276人、「藩絵師のすがお」が2,444人であった。「恐竜展」は通常よりも高い観覧料であったが、文化の森開園以来最高の観覧者数を記録し、多方面に大きなインパクトを与えた。「自然コレクション」は目標値を大幅に上回ったが、「藩絵師のすがお」は目標値(3,500人)に達しなかった。
- ・新たな発見や知識・経験が「あった」とする回答は、「みんなの自然コレクション」で84%、「トクシマ恐竜展」で92%、「藩絵師のすがお」で88%と、それぞれ目標値を上回った。
- ・この展示を他の人に見るよう勧めたいと「思う」との回答は、「みんなの自然コレクション」で82%、「トクシマ恐竜展」で87%、「藩絵師のすがお」で94%といずれも目標値を上回った。なかでも「藩絵師のすがお」は観覧者の評価が極めて高く、指標には含まれていないが、展示内容への満足度も98%と好評だった。
- ・多様化するマスコミの状況を鑑み、展示内容が報道された件数を「社会的評価」とした。「みんなの自然コレクション」で7件、「トクシマ恐竜展」で13件、「藩絵師のすがお」で3件であった。「藩絵師のすがお」では目標値に達しなかったが、他の2つはそれぞれ高い社会的評価だった。なお、恐竜展会期中の「勝浦町の竜脚類化石の発見」に関する報道件数は19件あった。全国的にも大きな注目を浴びたことにより、恐竜展ならびに常設展示室観覧者の大幅な増加につながったことは間違いない。
- ・県外への発信度として県外観覧者の割合を評価した。「みんなの自然コレクション」は12%、「トクシマ恐竜展」は14%で、それぞれ目標値に達するとともに、27年度よりも高かった。一方、「藩絵師のすがお」は4%であったが、県内観覧者の興味を引く内容であったと言えるかもしれない。
- ・テーマとタイミングがうまくマッチすれば、企画展観覧者の大量獲得が可能になる。「トクシマ恐竜展」は集客の良い夏季に「恐竜」というキラーコンテンツを取り上げ、外部機関との連携で予算規模を拡大させ、過去にない成果を上げた。しかしながら、恐竜展のような展示は簡単に実施できるものではないため、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素を取り入れた多様で計画的な運営を心掛けていかねばならない。今後も多くの観覧者の満足を得よう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。

(1-3)

- ・特別陳列等の開催回数は19回で、目標値を上回った。
- ・20年度から、多様な資料を公開していくことなどを目的として、部門展示(人文)の展示替えに自然史のテーマも組み込んでいる。実績として5回行った。
- ・トピックコーナーでは、即応性、話題性を重視した展示を行っている。5件の展示を行った。
- ・阿波の近世絵画の展示替えを3回行った。
- ・総合展示室「日本列島と四国のおいたち」にて勝浦町で発見された竜脚類化石の展示を行った。
- ・多様な展示の開催を促進するという目標はおおむね達することができた。部門展示については、内容(テーマ)

とそれに適した開催時期や期間等を引き続き検討していく。

- ・28年度は、ロビーの無料観覧ゾーンにおける小展示を4回（阿波の道を歩く、白亜紀の植物化石、県の石、干支の動物「酉」）行った。近代美術館と文書館との連携展示「阿波の道を歩く」では、現代美術と歴史資料を融合した展示を試みた。近代美術館と文書館を巡るスタンプラリーも行い、観覧者の増加につながったと考えられる。ロビー無料ゾーンの展示は、効果的な広報（集客）の観点から、今後も必要に応じて実施したいと考える。
- ・特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」の観覧者数は1日あたり108人で目標値に達しなかったが、観覧者の満足度は90%と大変高かった。
- ・「徳島の朱」の「社会的評価」は7件で目標値に達した。

(1-4)

- ・移動展等の回数は、四季美谷温泉における「シカとカモシカ」パネル展、つるぎ町織本屋、鳴門市立図書館、海陽町立博物館における「阿波の道を歩く」、あわぎんホールにおける「徳島県障がい者の集い 文化の森展示コーナー」、阿南市文化会館における「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」の6回で目標値を上回った。今後も、他機関の協力を得て、当館の資料公開を促進する移動展の開催を試みる予定である。

(1-5)

- ・常設展活用イベント4回（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森 大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）を行った。いずれも文化の森全体のイベントとして開催された。博物館への参加者数は、「サマーフェスティバル」と「大秋祭り」以外のイベントにおいて減少した。多くの集客が見込めることから、今後も他館と切磋琢磨しながら、博物館の特徴を活かしたより魅力的なイベント内容を工夫する必要がある。
- ・企画展の展示解説を14回、特別陳列の展示解説を3回、部門展示の展示解説を6回行った。企画展記念講演会2回と関連行事10回、特別陳列講演会1回と関連行事1回を実施した。

(1-6)

- ・企画展「みんなの自然コレクション」の鉱物展示コーナー、部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」、トピックコーナー「浜辺で拾ったエビとカニ」と「高校生が調べた徳島の浜辺」を県民と協働し開催した。

(1-7)

- ・経年劣化や破損の見られる展示ケース等の修繕ならびに総合展示室「日本列島と四国のおいたち」導入部分の改修を行った。こうした大規模な予算を必要としない対応を続けていくとともに、開館30周年を目標に常設展のリニューアルの実現に向けて計画策定に取り組む予定である。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	95回	97回	91回
	普及行事参加者数	3,000人/年	9,787人	9,212人	9,146人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	93.8% (17行事)	92.9% (14行事)	95.2% (22行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	10回	5回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	47件	47件	49件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	11件	18件	5件
	館での授業件数		18件	8件	9件
	教員研修件数		7件	3件	6件
	職場体験件数		8件	8件	13件
	遠足件数		97件	91件	94件
	教員・生徒の満足度	80%	100%	94%	97%

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
23 普及的記事の執筆推進	ガイドブック出版状況	1冊/年	0冊	0冊	0冊
	普及的記事の執筆数	40件/年	78件	61件	35件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
24 県民との協働による普及行事の推進	県民との協働による普及行事の実施状況		6件（友の会2件、公募ボランティア1件ほか）	5件（友の会1件、公募ボランティア1件ほか）	6件（公募ボランティア3件、緑のサポート隊1件ほか）

●自己評価

(2-1)

- ・普及行事の実施回数は、27年度の97回から少し減り91回であった。参加者数は9,146人で、27年度とほぼ同様である。
- ・普及行事は、シリーズ名やその内容を見直し、11シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、屋外で実施する行事、工作・調理等をともなう行事には人気が集まる傾向がある。
- ・普及行事の参加者数9,146人のうち、参加者数が多いのは春・夏・秋・冬の4回行う「文化の森フェスティバル」である(6,458人)。4つのフェスティバルの合計は27年度とほぼ同様であるが、企画展「トクシマ恐竜展」の効果で、夏が27年度1,918人より大幅に増え2,482人であった。反対に、冬はボランティアによる内容の工夫があったにもかかわらず、天候の影響などにより670人(27年度1,168人)にとどまった。25年度から参加人数は減少傾向にあるが、特に冬のフェスティバルでの広報の方法を工夫する必要がある。
- ・普及行事への参加者の満足度は、これまで以上に高く、22行事で行ったアンケート結果では、95.2%が満足していると回答しており好評であった。アンケートをもとに、県民のニーズを考えた内容等の工夫の成果が現れている。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、「海部自然・文化セミナー」として5回行った。海陽町立博物館から要望があった27年度10回から減ったものの、26年度と同様に目標値の5回を達成している。
- ・28年度は新たに鳥居龍蔵記念博物館との共催により「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生・高校生から研究レポートを公募、フォーラム（発表会）で口頭発表してもらうとともに優れた成果を表彰した。応募は中学生3件、高校生7件、参加者は延べ126人であった。中学校や高等学校との連携も含め、新しい取り組みを行うことができた。

(2-2)

- ・28年度の出前授業数は、49件で、27年度同様に目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が23件と多く、次いで吉野川市の8件、阿南市7件である。これらの3市が大半を占めているものの、県西部3件からの利用もある。校種別では、小学校が44件、中学校が4件、幼稚園・保育園が2件あり、校種のひろがりが見られた。出前授業の内容で多かったのは、小学校が「昔の道具とくらし」、「昆虫」、「大地のつくりと変化」に関するもの、中学校では「戦争」に関するものであった。中学校や高等学校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、教員・生徒の満足度は97%で高い評価を得ている。
- ・資料の貸出件数は5件であり、27年度から大幅に減った。
- ・館内での授業は9件、教員研修は6件と、27年度より多くなった。28年度で4回目となる教員研修として実施した「教員のための博物館の日」は、参加者の満足度が93%で高い評価を得ている(学校経営支援課アンケート)。
- ・職場体験は、27年度より5件増え13件であった。中学校10件、高等学校3件であり、出前授業での需要は少ないが、中学校や高等学校との連携が図られているといえる。
- ・「遠足」については94件で、27年度の91件より増えている。校種別では、小学校が63件、幼稚園・子ども園が14件、保育所12件となっている。特に幼稚園・子ども園での利用が増加傾向にある(26年度8件、27年度11件)。
- ・高校生以下を対象に毎月2回実施しているクイズラリーは、平成27年度が2,627人、平成28年度が3,318人で545人増えている。企画展「トクシマ恐竜展」が開催されている期間の4回(27年度568人、28年度1,113人)で545人増えている。企画展の効果といえる。未就学児(0～6歳)の参加者数が、27年度1,211人と同様に28

78 中期活動目標と自己評価

年度も 1,510 人と半数を占めている。目的や対象年齢、実施方法等の見直しの工夫が必要である。

(2-3)

- ・ 普及的記事の執筆数は 35 件で、目標値の 40 件を下回った。これは平成 20 年 4 月から執筆及び編集協力していた徳島新聞「こども新聞」(金曜日夕刊 年間約 24 件)が行われなくなったことが大きい。
- ・ 近年、ガイドブックを出版できていない。予算面、企画面の双方から検討を要する。

(2-4)

- ・ イベントボランティアを公募し、「科学体験フェスティバル in 徳島」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
- ・ 普及行事の内、「企画展「自然だいすき！みんなの自然コレクション」展示解説」、「漂着物を探そう！」の 2 行事を県民(ボランティア等)との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。
- ・ 「みどりのサポート隊」を試行的に立ち上げ、普及行事の改良や新たな行事の考案・試行を協働して行った。新しいアイデアが得られ、普及行事にも反映することができた。普及行事の参加者に喜んでもらえるなど、成果が上がっている。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査実施状況	2 件/年	2 件 (外部との共同 1)	2 件 (外部との共同 1)	1 件 (外部との共同 0)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10 件/年	15 件	16 件	21 件
	共同研究プロジェクト件数	3 件/年	5 件/年	10 件/年	8 件/年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2 件/年	4 件/年	3 件/年	3 件/年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請 6 件・採択 1 件/年	申請 6・採択 0 (継続 4)	申請 7・採択 0 (継続 3)	申請 3・採択 2 (継続 2)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請 1・採択 1	申請 5・採択 3	申請 3・採択 2 継続 2
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24 本/年 (査読付き 4 本/年)	32 本 (査読付き 8)	27 本 (査読付き 5)	33 本 (査読付き 12)
	学会・研究会での発表件数	24 件/年	21 件	12 件	12 件
	マスコミへの資料提供件数	2 件/年	2 件/年	3 件/年	2 件/年

●自己評価

(3-1)

- ・ 課題調査は予算上の制約があり、「那賀川流域の自然とくらし」の 1 件のみ実施した。目標値には達しなかった。
- ・ 分野別に調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・ 学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員による館内公表会(セミナー)を 4 回実施した。

(3-2)

- ・ 28 年度は他機関等の研究者との共同研究数については、21 件で目標値を達成した。
- ・ 共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。文部科学省科学研究費補助金による「四国遍路の学際的総合研究:地域資料によるその実態解明と国際比較」、「民俗展示の多言語化のための基礎的研究—東アジアの水産資源を素材として」、「中国ヒマラヤ地域における昆虫類

の系統分類と有用生物資源種の探索」と、国際常民文化研究機構共同研究（一般）による「戦前の洪沢水産史研究室の活動に関する調査研究」、NFD one leaf fund による「南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成」、サントリー文化財団による「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成：住吉大社境内の石灯籠からみた大阪文化の伝播」、「鳴門の渦潮に関する歴史分野の調査」、「鳴門の渦潮に関連した漁業及び漁民に関する調査」がこれにあたり、目標を達成した。

(3-3)

- ・28年度の県民参画型調査については、合計3件で目標値を達成した。継続している、漂着物の調査、アサギマダラのマーキング調査、タンポポ調査が実施された。

(3-4)

- ・28年度実施分については、日本学術振興会による科学研究費補助金（科研費）の7件（うち研究代表者分3件：基盤研究（C）2件、若手研究（B）1件）の申請（27年11月締切）を行った。
- ・28年度は、科研費等の公的研究助成金の申請数が7件、採択が5件で、申請数及び採択数の目標値を達成した。なお、研究分担者として1件（「四国遍路の学際的総合研究：地域資料によるその実態解明と国際比較」）の研究を継続して行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの拡がりがかがえる。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。
- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。
- ・28年度は、民間の研究助成金に3件の申請を行い、2件が採択された（昭和聖徳記念財団学術助成研究：トコジラミ上科における外傷性受精：メス交尾器の多様性と形態進化、サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成：住吉大社境内の石灯籠からみた大阪文化の伝播）。また、2件の継続があった（国際常民文化研究機構共同研究（一般）「戦前の洪沢水産史研究室の活動に関する調査研究」、NFD one leaf fund「南西諸島向けのイネ科植物図鑑の作成」）。

(3-5)

- ・学術論文数は33本、うち査読付き論文は12本であり、ともに目標値を上回った。
- ・学会・研究会での発表は12件で、昨年より減少し、目標値の半分にとどまった。外部研究者と共同で発表する機会が増えている一方、他の業務の増加や旅費の削減等により、学会等への参加が減っているためと考えられる。
- ・マスコミへの資料提供は、「海草化石が実はトイレの化石と判明！」「徳島県勝浦町から発見された恐竜化石について（博物館講座室で報道関係者への事前説明会の開催）」の2件であり、目標値を達成した。これらは調査研究の成果を公表したものであり、今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	H30年度末で 521,000点	515,002	518,804	523,948
		新規資料増加点数	4,000点/年	13,251	3,802	5,144
		採集資料件数	20件/年	12	9	15
		購入資料件数	3件/年	5	0	1
		寄贈資料件数	100件/年	82	90	87
4-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		69	71	72
		新規寄託件数	3件/年	2	8	1
4-3	文献資料の充実	図書冊数(雑誌類除く)		13,539	13,806	13,941
		新規受入図書冊数	200冊/年	131	267	135
		寄贈	90冊/年	42	80	42
		購入	100冊/年	89	187	93
		購入雑誌タイトル数		40	37	34

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績	
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料 DB 登録率	50%	47.9	48.1	49.7
4-5	資料の安全な保存	収蔵庫点検回数	12回/年	自然 10回 人文 12回	自然 12回 人文 12回	自然 7回 人文 12回
		燻蒸回数	3回/年	3回 (燻蒸庫2+全室1)	4回 (燻蒸庫3+簡易1)	3回
4-6	展示室の資料保存環境の改善	展示室点検回数	12回/年	3	3	8
4-7	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況				
活用						
4-8	展覧における利用促進	展示利用点数		2,477	2,543	22,068
		常設展		1,120	502	11,007
		常設展以外の展示		1,357	2,041	11,061
4-9	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	62	86	63

●自己評価

(4-1)

- ・収蔵資料点数は、523,948点で、平成30年度末時点で521,000点という目標値に到達した。
- ・新規資料点数は、5,144点で、目標値の4,000点/年を上回った。動物で3,876点（そのうち昆虫が3,867点）、民俗で769点増加したことが、その要因と思われる。
- ・採集・購入・寄贈については件数で評価しており、新規資料点数の増加率と採集・購入・寄贈件数の増加率は一致していない。上記のとおり、資料点数が大幅に増加した一方、採集資料件数は15件・寄贈資料件数は87件で、いずれも目標値を下回った。
- ・28年度は、「トクシマ恐竜展」の反響を受け、26年度以来、2年ぶりに資料購入を行うことができた（竜脚類恐竜ディプロドクス前脚（実物化石））。また、購入にあたっては、予定価格が100万円以上の場合に設置される資料収集委員会を、24年度以来4年ぶりに設置することができた。

(4-2)

- ・新規寄託は1件で、目標値の3件/年を下回った。

(4-3)

- ・図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・新規受入図書冊数は、27年度に比べ、135冊増加した。
- ・購入雑誌タイトル数は、価格高騰と予算削減のため年々購読誌数が減少しており、27年度をもって英文雑誌の購読は終了することとなった。28年度は27年度に比べてさらに3タイトル減少している。

(4-4)

- ・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。18年度から増加しはじめ19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移しており、28年度も49.7%と目標値に近づいている。29年度には目標値を達成できる見込みである。

(4-5)

- ・収蔵庫の点検は、25年1月から実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。28年度は自然課で7回、人文課で12回の点検を行っている。徐々に定期点検が定着してきており、今後もさらに徹底を図っていききたい。
- ・資料の安全な保存のため、収蔵庫内の耐震対策として、考古収蔵庫の一部の棚に落下防止の耐震ベルトを設置した。
- ・28年度は、3回の燻蒸を行った。

- ・開館から25年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。28年度は、専門業者による常圧燻蒸庫及び燻蒸設備の保守点検作業を1回行った。また、展示室・収蔵庫・一時保管庫・書庫の空調自動制御機器の修繕を実施した。さらに、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計、アナログ温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。

(4-6)

- ・外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、28年6月からは、学芸員の輪番制で月に1回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行った。年間をとおして8回の点検を実施している。
また27年度に続き28年度も、他機関との共同研究の一環として、奈良大学教授魚島純一氏と保存科学を専攻する奈良大学生とともに、部門展示室におけるIPM（総合的有害生物管理）活動を行っている。
- ・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、これまでも実施していたが、26年度には検査領域を拡大した。28年度もこれに引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

(4-7)

- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

(4-8)

- ・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示における利用の点数（常設展における利用と常設展以外の展示における利用）を記録している。28年度は常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において11,007点、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、展示パッケージの貸出、移動展）において11,061点の資料を利用した。展示で利用された館蔵資料は、27年度に比して、常設展以外では9,020点、常設展では10,505点増加した。これは、部門展示において多数の資料点数を要する昆虫分野の展示（カミキリ虫展）、企画展において館蔵品を中心とする展示（みんなの自然コレクション）が行われたことによる。

(4-9)

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用等件数を設けている。これは他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては〔Ⅱ普及教育〕を参照のこと）。28年度は63件で、目標値を上回った。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	30件/年	28件	27件	31件
		マスコミ取材報道件数		125件	98件	99件
		マスコミ出演等件数	15件/年	18件	12件	11件
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
		広報関係出版物発送状況				
		年間催し物案発送件数(発送回数)		651件(1回)	647件(1回)	632件(1回)
		月間催し物案内発送件数(発送回数)		各89件(12回)	各89件(12回)	各87件(12回)
		博物館ニュース発送件数(発送回数)		各1,183件(4回)	各1,179件(4回)	各1,172件(4回)
		Eメールサービス登録者数	250人/年	342人	351人	354人

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	6,500,000件/年	8,902,900件	8,623,599件	10,752,239件
		新規コンテンツ数	30ページ/年	76ページ/年	115ページ/年	90ページ/年
		内容の更新頻度	月3回以上	4.9回/月	4.5回/月	4回/月
		双方向的な情報交換の推進に向けた検討			SNSの特性を活かした情報発信の方法を検討した。	FBを効率的に活用し、情報発信を行った。

※第3期中期活動目標よりHP総アクセス数の評価指標及び目標値を変更した。

●自己評価

(5-1)

- 資料提供件数は31件と27年度より4件増加し、目標値の30件/年に達した。博物館からの情報発信として、マスコミに対する資料提供は効果的であるため、積極的な資料提供が必要である。
- マスコミ取材報道件数については、新聞の記事として扱われた件数のみである。28年度は99件で、27年度より1件増えた。企画展「トクシマ恐竜展」や勝浦の恐竜化石発見、徳島県の石など地学関係の話題が多いのが特徴であった。
- マスコミ出演等件数は11件と27年度より1件減少し、目標値の15件/年を下回った。

(5-2)

- 広報手段の新規開拓状況としては、来館者数の増加が期待できるイベントにおいて広報を充実させた。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定拡充した。
- 広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、学校を中心に配布し、小学校では県内の全児童に配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校では理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校では理科、社会科の教員に対して配布した。年間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれ減少しているが、これは学校数や児童生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- 電子メールサービス登録者数は354人と27年度より3人増え、目標値を上回った。

(5-3)

- インターネットによる情報発信においては、28年度は1年間でホームページに約1,075万件のアクセスがあった。27年度の約862万件から大幅に増加し、目標値を上回っている。この増加は、スマートフォンやタブレット端末の普及や恐竜展などの大きなイベント開催によるものと考えられる。
- 新規コンテンツ数は90ページ/年と、目標値を大幅に上回った。企画展の情報やボランティアなど積極的に発信している。
- 内容の更新頻度は4回/月(48回/年)と27年度より減少したが、目標値を上回った。減少している理由は、情報発信がFacebookなどのSNSに移行していることが考えられる。SNSと併せて、博物館が発信する新しい情報を積極的にホームページで更新していく必要がある。
- ホームページ以外での新たな情報発信、情報交換の方法として、28年3月からFacebookページの運用を開始したが、28年度は113件の記事を新たに掲載し、活用が進んでいる。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	400人/年	289人	266人	223人
	個人会員		68人	73人	65人
	家族会員		221人(60組)	193人(51組)	158人(41組)
	会員の継続率	前年度会員の70%	72%	78%	78%
	個人会員		70%	88%	86%
	家族会員		75%	67%	66%
	友の会行事实施回数	6回/年	10回(250人)	7回(175人)	7回(85人)
	展示利用率	50%	52%	44%	50%
	個人会員		44%	37%	49%
	家族会員		60%	55%	51%
	延べ利用者数	会員数	244人	238人	200人
	個人会員		128人	93人	130人
	家族会員		171人	151人	108人
	会報の発行回数	3回/年	2回	2回	2回
普及行事支援件数		2回	1回	0回	
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		23人	23人	36人
	公募ボランティア活動回数(全体・班会合、イベント)		合計44回 班会合43回 イベント1回	合計27回 班会合24回 イベント3回	合計43回 班会合39回 イベント4回
	企画運営型行事等件数		1件(2/11)	2件(8/8-9、2/11)	3件(8/6-7、8/21、2/11)
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		ロビー展示2件、トピックコーナー3件	企画展1件、特別陳列1件、移動展1件、部門展示1件	企画展1件、部門展示1件、トピックコーナー2件
	県民との協働による普及行事の実施状況		6件(友の会2件、公募ボランティア1件ほか)	5件(友の会1件、公募ボランティア1件ほか)	6件(公募ボランティア3件、緑のサポート隊1件ほか)
	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	3件/年	3件/年

●自己評価

(6-1)

- ・友の会会員数は、27年度は266人、28年度は223人で、43人の減少である。内訳は、個人会員が73人から65人で8人の減少、家族会員が193人(51組)から158人(41組)で35人(10組)の減少となっている。ここ数年、会員数の減少が続いている状況である。そこでPRのため、学校行事で来館した児童・生徒・教員等に、学校向けチラシを配布した。
- ・会員の継続率は、27年度は78%、28年度も78%と、目標値に達している。
- ・友の会行事の実施回数は7回で、参加者数は85人であった。行事参加人数もこのところ減少しており、行事内容の刷新を検討している。
- ・展示利用率は、27年度は44%であったが、28年度は50%となり、目標値に到達した。今後、友の会会員の特典を広報していく必要がある。

(6-2)

- ・公募ボランティアは、27年度から継続したボランティア11人に加えて、新規登録のボランティア25人が加わり、合計36人が参加した。新規登録のボランティアが大幅に増加した要因として、大学生の短期ボランティアの急

増があげられる。

- ・28年度は「博物館Vキング」(2月11日)に向けて公募ボランティアと職員で構成した4グループにより、博物館資料や展示を楽しく理解してもらうための体験キットや手法を開発した。グループ数が27年度より増えたこと、各グループが活発に活動し、質の高いイベントを目指したことにより、延べ会合回数が増加した。ただ、イベントの参加者数は670人(Ⅳ 県民協働・参画参照)であり、27年度の1,168人より大幅に減少した。天候等の要因もあるが、より多くの人に周知し関心をもってもらうために適切な広報手段を検討する必要がある。なお、ボランティアスタッフは、博物館と協働で企画・準備したイベントを実施したことに相当な手応えを感じたようであり、県民協働による企画として一定の成果があがったと言える。
- ・博物館資料や博物館の活動の紹介を目的として、徳島大学で開催された第20回科学体験フェスティバル in 徳島に「博物館資料のレプリカを作ろう!」を2日間(8月6・7日)にわたりボランティア延べ28人と協働で出展した。
- ・27年度「博物館Vキング」で実施したイベントの内、「バルーンにペイント!恐竜と銅剣」を応用したブース「恐竜バルーンアート」(企画展「トクシマ恐竜展!」内)を文化の森サマーフェスティバル(8月21日)で設置し、ボランティア2人が協力した。

(6-3)

- ・企画展「みんなの自然コレクション」の鉱物展示コーナー、部門展示「みんなで調べた西日本のタンポポ」、トピックコーナー「浜辺で拾ったエビとカニ」と「高校生が調べた徳島の浜辺」を県民と協働し開催した。(1-6再掲)
- ・イベントボランティアを公募し、「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。
- ・普及行事の内、「漂着物を探そう!」、「企画展『みんなの自然コレクション』の鉱物コーナーの展示解説」の2件の行事を県民(ボランティア等)との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。
- ・イベントボランティアを公募し、「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森ウィンターフェスティバル」においてボランティアスタッフとの協働により行事を実施した。(2-4再掲)
- ・28年度の県民参画型調査については、合計3件で目標値を達成した。継続している、漂着物の調査、アサギマダラのマーキング調査、タンポポ調査が実施された。(3-3再掲)

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	688	754	668
	周知状況			HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		36	26	41
	講演会等の受講者数		(1,407)	(892)	(1,535)
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		30	30	30
	機関・団体等への協力状況		2	1	0
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受託数		3	3	5
	学生・院生指導人数		1	1	0
	博物館実習生受入人数	20人/年	12(6大学)	19(10大学)	17(9大学)
	学芸員養成科目受講者数		127	124	106
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		15	14	16
	学会等役員受託数		9	14	16
	学会等事務局受託数		6	6	6

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受諾数		6	7	8
	博物館関連団体加入数		6	6	6
	連携事業等の実施数		8	16	15
			移動展1回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展3回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展6回、四国地区博物館協議会及び徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

(7-1)

- レファレンス件数は平成27年度から86件減少したが、目標値500件を上回った。ただし、電話での問い合わせなど記録として残されていないものもあるため、実数はこれより多いとみてよい。分野別の件数では、28年度は動物（昆虫）がもっとも多い168件、次いで、地学149件、歴史109件であった。これらの分野で全体の64%を占めていた（詳細はp.53参照）。
- レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2)

- 28年度の講師派遣は41件で、27年度から15件増加した。分野別にみると、歴史が26件で最も多く、次いで民俗6件、考古5件である。歴史で全体の63%を占めた。
- 派遣先の受講者数は、29件において概数が記録されており、1,535人であった。

(7-3)

- 各種委員会等の委員等受諾数は30件で、27年度と同じである。これらのうち20件（67%）は動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるもので占められており、県や国の公共事業における環境配慮や希少野生生物の保全対策事業に対応している。
- 委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

(7-4)

- 28年度の大学における非常勤講師の受諾数は5件で、27年度に比べて2件増加した。
- 28年度の博物館実習生の受入人数は17人で、27年度に比べて2人減少し、目標値の20人には及ばなかった。これとは趣旨が異なるが、同じ期間に徳島県インターンシップ実習学生4人を受け入れた。
- 28年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、今のところ目標値を定めておらず、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- 県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。28年度は、延べ106人を指導した。

(7-5)

- 28年度の学会や研究会の当館における開催数は16回で、27年度に比べて2回増加した。これらには毎月例会が開催される「みどりクラブ」が含まれている。目標値は定めていない。
- 学会等役員受託数は16件で、27年度より2件増加した。これらには29年度開催の学会実行委員等が6件含まれている。開催目標値は定めていない。
- 学会等の事務局受託数は6件で、27年度と同じである。目標値は定めていない。

(7-6)

- ・博物館関連団体の委員等受託数は8件で、27年度に比べて1件増加した。目標値は定めていない。
- ・博物館関連団体加入数は6件で、27年度と同じである。これらのうち2件は当館が事務局を引き受けている。目標値は定めていない。
- ・他館等との連携事業数は14件で、27年度に比べて2件減少した。移動展の開催数が増加したが、海陽町立博物館と共催している海部自然・文化セミナーの回数が減少したことによる。また、当館が事務局を担当している四国地区博物館協議会や徳島県博物館協議会において講演会及び研修会を実施したほか、県内外の博物館との連携事業を行った。目標値は定めていない。

(8) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び28年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	26年度実績	27年度実績	28年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」の実施	文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」による常設展フレッシュアップ	常設展示の導入部一部展示更新 常設展示点検・修繕および改善 聴覚障がい者のための非常サインボードを展示室受付に設置
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「いただきま〜す!」 3% 「まんまるワールド」 15% 「四国へんろ展」 10%	「瓦」 11% 「シェルズ」 7% 「箱まわし」 11%	「自然コレクション」 12% 「トクシマ恐竜展」 14% 「徳島藩絵師のすがお」 4%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		1件（みんなで創るユニバーサルミュージアム事業）	2件（安全安心の文化施設モデル事業、公募ボランティア事業）	1件（公募ボランティア事業） *みどりのサポート隊の試行
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 48,745千円	2月補正後 27,701千円	2月補正後 46,487千円
	外部資金獲得数		申請8、採択2、継続4	申請13、採択4、継続3	申請13、採択10、継続1
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 9月3、24日 文化財防火デーに徳島市消防局と防火訓練実施 1月26日 AED含む救命講習	自衛消防隊の防火防災訓練 12月17日	自衛消防隊の防火防災訓練 10月19日、11月17日 災害対応BCP（業務継続計画）訓練 11月7日
	危機管理体制の整備状況		生物収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置 動物研究室書棚固定	歴史民俗・考古・地学収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置	考古収蔵庫の棚に落下防止ベルトを設置 人文研究室書棚固定
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修 日本博物館協会全国博物館大会三重大会	文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修	文化庁・国立歴史民俗博物館等の研修 日本博物館協会全国博物館大会群馬大会
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第3期中期活動目標の運用開始	第3期中期活動目標の運用	第3期中期活動目標の運用
	自己点検評価の状況		26年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	27年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	28年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月17日	博物館協議会 9月30日	博物館協議会 9月28日

●自己評価

(8-1)

- ・平成28年度は、展示室の点検を日常的に行い、常設展示の導入部の一部を展示更新するとともに、常設展示の修繕及び改善に努め、また、継続的なユニバーサル化に取り組み、より多くの人たちが利用しやすい施設づくりに努めた。

(8-2)

- ・28年度も企画展で観覧者へのアンケートを行った。アンケート結果によれば、90%前後が県内在住者であった。県外の利用者の割合は、春季企画展「みんなの自然コレクション」で12%、夏季企画展「トクシマ恐竜展」で14%、秋季企画展「徳島藩絵師のすがお」で4%、特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」で9%であった。
- ・文化の森の他館と連携して、イベントや展示等の広報の強化に努めた。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。28年度は20件であった。
- ・25年度から始めた講座室の有料貸し出しについては、28年度は11件であった。

(8-3)

- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「科学体験フェスティバル in 徳島」(徳島大学)に出展したほか、「文化の森ウィンターフェスティバル」におけるイベント「博物館Vキング」を実施した。
- ・様々な連携による事業展開は、運営基盤の強化につながる取り組みであり、意義があった。

(8-4)

- ・厳しい財政状況のなか、28年度も経常予算や政策的予算のシーリングが継続された。
- ・外部資金は、日本学術振興会の調査研究のための科学研究費補助金を7件申請し、5件の新規採択、1件の継続が認められた。民間資金は5件申請し、4件採択された。また文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」について、近代美術館を中心とする実行委員会に当館も参画して申請した事業が採択された。

(8-5)

- ・自衛消防隊の防災訓練を10月及び11月に行った。
- ・震災対策として、27年度に歴史民俗収蔵庫・考古収蔵庫・地学収蔵庫の棚の一部において落下防止の耐震ベルトを設置しており、28年度は前年度未設置箇所(考古収蔵庫)について設置を行った。また、人文研究室書棚の固定も行った。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

(8-6)

- ・文化庁・国立歴史民俗博物館などが開催した研修会等に、職員9人を派遣した。

(8-7)

- ・26年9月に策定した第3期中期活動目標にもとづいて、27年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた(外部評価)。

X 観覧者統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計とはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

●平成28年度 常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館 日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者														無料 観覧者 計	観 覧 者 総 数		
		個 人			団 体 (割引20%)				学 校 教 育					個 人												
		一 般	高 校・ 大 学 生	小・中 学 生	一 般	高 校・ 大 学 生	小・中 学 生	有 料 観 覧 者 計	幼 稚・保 育 園		小 学 校		中 学 校		高 校		計	小 学 生	中 学 生	高 校 生	障 がい 者	高 齢 者			そ の 他	
									園 数	人 数	校 数	人 数	校 数	人 数	校 数	人 数										校 数
4月	26	467	15	2	142	1	6	633	0	0	1	46	0	0	0	0	1	46	507	31	26	59	182	703	1,554	2,187
5月	26	452	12	3	195	1	2	665	2	27	23	1,449	0	0	0	0	21	1,476	1,150	53	40	67	298	2,515	5,599	6,264
6月	26	443	17	7	215	1	2	685	2	42	1	58	0	0	0	0	3	100	383	27	21	75	140	492	1,238	1,923
7月	27	349	20	1	102	3	0	475	4	156	0	0	0	0	0	0	4	156	2,040	150	91	159	652	6,569	9,817	10,292
8月	27	0	0	0	0	0	0	0	2	91	0	0	0	0	0	0	2	91	6,331	372	210	150	2,060	18,490	27,704	27,704
9月	26	1,267	30	2	470	1	1	1,771	2	29	3	139	0	0	0	0	5	168	1,199	66	44	283	393	2,349	4,502	6,273
10月	26	421	10	14	127	0	0	572	1	22	12	549	1	10	0	0	14	581	377	28	25	102	182	620	1,915	2,487
11月	26	67	0	0	32	0	0	99	3	127	7	325	1	8	1	25	12	485	632	60	27	64	361	2,011	3,640	3,739
12月	24	238	17	1	81	3	0	340	0	0	3	52	1	73	0	0	4	125	217	23	20	52	166	426	1,029	1,369
1月	23	346	19	0	109	1	0	475	2	144	1	17	0	0	0	0	3	161	333	30	22	72	176	559	1,353	1,828
2月	24	335	8	1	129	5	1	479	4	82	4	175	0	0	0	0	8	257	377	22	19	61	144	807	1,687	2,166
3月	27	424	30	14	151	3	0	622	4	217	3	42	0	0	0	0	7	259	376	38	42	72	142	670	1,599	2,221
計	308	4,809	178	45	1,753	19	12	6,816	26	937	58	2,852	0	91	1	25	84	3,905	13,922	900	587	1,216	4,896	36,211	61,637	68,453

※7月21日(木)～8月31日(日)は、「家族おでかけ・節電キャンペーン」により無料。

●常設展観覧者数累計

(単位：人)

年 度	開館 日数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者														無料 観覧者 計	観 覧 者 総 数	
		個 人			団 体 (割引20%)				減 免 (割引50%)			有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育					障 高 が い 者	そ の 他									
		一 般	高 校・ 大 学 生	小・中 学 生	一 般	高 校・ 大 学 生	小・中 学 生	大 人	高 齢 者	障 がい 者	計		幼 稚・保 育 園		小 学 校		中 学 校			高 校		計	休 業 日 間 土 日 祝 日					
													園 数	人 数	校 数	人 数	校 数			人 数	校 数			人 数	校 数			人 数
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
25	307	5,148	195	55	585	32	8	-	-	-	-	-	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	-	-	-	-	-	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,050	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	-	-	-	-	-	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
28	308	4,809	178	45	1,753	19	12	0	0	0	0	0	6,816	26	937	58	2,852	3	91	1	25	84	3,905	15,409	6,112	36,211	61,637	68,453
計	8,042	365,005	26,152	99,727	36,496	2,535	5,023	53,685	5,751	59,436	175	220	594,769	671	31,826	1,930	154,024	336	39,856	169	18,502	3,102	244,208	176,371	26,008	335,341	775,816	1,370,585

※平成24年9月より、高齢者(65歳以上)及び障がい者は無料。

●平成28年度 企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者							有料観覧者	無料観覧者										観覧者総数						
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)		学校教育					個人											
			一般	高校生	小学生	一般	高校生	小学生			幼稚園	小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生	障がい者	その他							
第1回企画展「自然のいきみ」 みんなの自然コレクション	平成28.4.20 ～28.6.12	47	1,769	35	18	640	6	5	327	2,800	3	53	26	1,527	0	0	0	0	29	1,580	2,010	108	55	241	2,562	6,556	9,356
第2回企画展 「トクシマ恐竜展」	平成28.7.15 ～28.9.19	59	27,275	251	11,848	35	1	86	3,155	42,651	4	235	1	45	1	11			6	291					19,334	19,625	62,276
第3回企画展「徳島藩絵師のすがた」 おぼろ絵師の生半科半蔵が	平成28.10.22 ～28.11.20	26	233	11	0	62	0	0	331	637	3	127	9	477	0	0	0	0	12	604	246	21	10	187	739	1,807	2,444
合計		132	29,277	297	11,866	737	7	91	3,813	46,088	10	415	36	2,049	1	11	0	0	47	2,475	2,256	129	65	428	2,635	27,988	74,076

●企画展観覧者数累計

(単位：人)

年度	名称	開催期間	開催日数	有料観覧者							有料観覧者計	無料観覧者					総観覧者数						
				個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)		一般	高校生	小学生	その他	無料観覧者計							
				一般	高校生	小学生	一般	高校生	小学生														
3 (1991)	里帰り文化財名品展	平成3.4.5～3.5.5	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	-	-	-	513	513	8,687		
	和泉層群の化石	平成3.7.21～3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	-	-	-	259	259	8,654		
	人形芝居がやってきた	平成3.10.11～3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	-	-	-	217	217	2,847		
4 (1992)	阿波の刀剣	平成4.2.18～4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	462	40	502	0	0	3,750	-	-	-	299	299	4,049			
	四国の古墳	平成4.4.24～4.5.24	26	2,566	256	745	169	55	31	473	21	494	0	0	4,316	-	-	-	387	387	4,703		
	甲虫の世界	平成4.7.21～4.8.30	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5	15,607	-	-	-	349	349	15,956		
5 (1993)	徳島の指定文化財	平成4.10.20～4.11.15	24	1,299	56	79	144	0	0	439	9	448	0	0	2,026	-	-	-	407	407	2,433		
	折りのろい・はらい	平成5.4.20～5.5.23	29	1,989	362	492	0	0	236	8	244	0	0	3,087	-	-	-	274	274	3,361			
	南アメリカの自然	平成5.7.24～5.9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	284	13	297	1	0	11,949	-	-	-	257	257	12,206		
6 (1994)	鳥居龍藏の見たアジア 人間に光あれ	平成5.10.12～5.11.21	37	1,524	79	148	84	21	83	460	7	467	1	0	2,407	-	-	-	1,201	1,201	3,608		
	祖谷 その自然とくらし	平成6.7.26～6.9.4	36	1,910	131	444	104	0	41	336	12	348	0	1	2,979	-	-	-	266	266	3,245		
	描かれた弥生人のくらし	平成6.10.7～6.11.13	33	800	56	184	61	0	236	209	3	212	0	0	1,549	-	-	-	258	258	1,807		
7 (1995)	東洋書写本と役者絵の世界	平成7.3.4～7.3.19	14	4,883	521	432	57	0	719	21	740	0	5	6,638	-	-	-	697	697	7,335			
	よみがえる古代の輝き	平成7.4.21～7.5.21	26	2,595	279	601	6	10	561	446	18	464	0	0	4,516	-	-	-	468	468	4,984		
	貝の世界	平成7.7.22～7.9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	416	37	453	0	3	10,816	-	-	-	2,127	2,127	12,943		
8 (1996)	戦争から豊かな未来へ	平成7.10.17～7.11.19	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,103	499	4,016	-	-	14,618	14,618		
	銅鑼の美	平成8.4.2～8.5.12	36	2,199	362	528	2	0	843	485	30	515	27	0	4,476	-	-	-	1,524	1,524	6,000		
	鉱物の世界	平成8.7.19～8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	359	22	381	5	1	6,382	-	-	-	981	981	7,363			
9 (1997)	目で見る博物館	平成8.10.18～8.12.1	39	1,214	75	245	2	37	487	210	12	222	1	0	2,283	-	-	-	455	455	2,738		
	阿波の近世絵画	平成9.4.22～9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	-	-	-	379	379	2,406		
	吉野川其自然	平成9.7.18～9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	448	27	475	0	1	4,235	-	-	-	938	938	5,173			
10 (1998)	ネアンデルタール人の復活	平成9.9.20～9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	-	-	-	664	664	4,621		
	海はむすぶ	平成10.4.21～10.5.24	30	937	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	-	-	-	465	465	1,833		
	チヨウとガ	平成10.7.18～10.8.30	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	-	-	-	2,427	2,427	10,889		
11 (1999)	瀬戸内海ののいたち	平成10.10.10～10.11.23	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	-	-	-	584	584	3,319		
	大名行列	平成11.4.20～11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	725	442	26	468	0	1	3,325	-	-	-	426	426	3,751		
	伊能忠敬が描いた日本	平成11.9.10～11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	475	22	497	0	5	3,577	-	-	-	659	659	4,236		
12 (2000)	新発見考古学展1999	平成11.10.24～11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	-	-	-	1,688	1,688	4,751		
	藍のよそおい	平成12.4.18～12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	0	626	22	648	0	0	2,656	-	-	-	383	383	3,039		
	さよなら20世紀	平成12.6.1～12.7.9	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,745	6,745	6,745		
13 (2001)	侵入者たち	平成12.7.18～12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	-	-	-	1,669	1,669	7,847		
	世紀末大博覧会	平成12.10.20～12.11.26	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,888	741	5,155	-	-	15,784	15,784		
	カットゥル・ワラ神戯の発掘	平成13.4.6～13.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	-	-	-	821	821	6,037		
14 (2002)	門出のセレモニー	平成13.7.17～13.8.26	36	889	65	89	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	-	-	-	489	489	1,818		
	信仰と美術	平成14.2.19～14.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	-	-	-	760	760	4,304		
	貝化石が語る海の記憶	平成14.4.12～14.5.12	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	-	-	-	486	2,545	771	3,802	6,317
15 (2003)	海道をゆく	平成14.7.20～14.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	-	-	-	55	1,051	702	1,808	3,194
	古代のわざ	平成14.10.11～14.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	147	14	161	0	0	1,578	-	-	-	60	1,618	468	2,146	3,724
	歴史を決めた戦い	平成15.4.22～15.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	-	-	-	483	1,567	704	2,274	5,353
16 (2004)	アイヌ工芸品展	平成15.7.19～15.8.31	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	317	2,455	767	10,429	10,429
	アモナイトのすべて	平成15.10.17～15.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	-	-	-	266	3,757	1,458	5,481	9,095
	サメの世界	平成16.4.24～16.5.30	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	-	-	-	182	6,622	2,681	9,485	16,704
17 (2005)	エビとカニ	平成16.8.12～16.9.20	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	-	-	-	128	3,689	2,581	6,398	11,965
	石とくらし	平成16.10.22～16.11.28	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	-	-	-	55	1,795	767	2,617	4,141
	縄文の美	平成17.4.26～17.5.29	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	-	-	-	187	2,388	650	3,225	6,259
18 (2006)	絶滅	平成17.7.22～17.8.31	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	-	-	-	227	3,355	1,528	5,110	9,140
	ふるさと再発見	平成17.10.22～17.11.27	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,036	-	-	-	29	1,451	529	2,009	3,045
	奇跡の化石たち	平成18.4.28～18.6.18	45	3,900	113	32	106	0	0	538	41	579	0	0	4,730	-	-	-	273	5,189	1,640	7,102	11,832
19 (2007)	世界の種と実	平成18.7.22～18.8.31	36	3,076	122	0	4	0	0	373	71	444	0	0	3,646	-	-	-	142	3,187	1,114	4,443	8,089
	海人の見た世界	平成18.10.7～18.11.26	44	789	13	2	30	0	0	334	24	358	0	0	1,192	-	-	-	74	1,535	563	2,172	3,363
	ミネラルズ	平成19.4.27～19.6.3																					

●特別陳列観覧者数累計

(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平成5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったで阿波	平成6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったで阿波	平成7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平成8.2.6～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展 「自然コレクション」	平成11.7.17～8.29	38	22,372
写生大会作品展	平成12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 -細川・三好氏と阿波-	平成13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 -在日コリアンの労働史-	平成14.6.25～7.7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平成15.1.21～3.2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて -知里幸恵「アイヌ神謡集」への道-	平成15.7.19～7.27	8	1,317
日本刀の美 -赤羽刀とその他の館蔵品-	平成16.1.27～3.7	35	8,698
収蔵品展	平成16.6.18～7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平成16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平成18.1.8～1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平成18.2.18～3.19	26	3,848
旅と折りの道 -阿波の巡礼-	平成19.1.19～3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平成20.1.17～3.2	40	5,168
空から見た徳島	平成21.1.27～3.15	42	7,517
蝶に魅せられて -愛好家たちのコレクション-	平成21.7.18～8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平成21.9.19～10.4	14	1,886
マンガラ -チベット・ネパールの仏たち-	平成21.12.12～22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平成22.7.17～9.5	44	10,364
博物館の宝もの 海からどんぶらこ -浜辺の漂着物-	平成24.4.27～6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平成24.9.25～10.3	8	702
みんなの化石コレクション	平成25.10.18～12.1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平成26.3.7～3.19	11	1,537
シェルズ	平成27.7.18～8.30	38	12,963
古代の彩り 徳島の朱	平成28.12.3～12.25	20	2,167
合計		829	191,810

●移動展観覧者数

(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
昆虫の世界(海陽町立博物館)	平成14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展-江戸から昭和まで-(藍住町歴史館藍の館)	平成16.12.2～12.27	26	898
戦争体験(藍住町立図書館)	平成17.8.3～8.18	14	2,342
昆虫展(藍住町立図書館)	平成17.8.19～9.11	21	3,210
北アメリカの植物(松茂町立歴史民俗資料館)	平成18.2.4～3.5	26	1,867
海陽町の指定植物(北アメリカの植物)(海陽町立博物館)	平成18.7.22～8.27	32	481
牟岐大島の考古資料(牟岐町海の総合文化センター)	平成19.4.26～5.15	20	353
阿波の板碑(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平成19.6.5～7.22	42	197
中世阿波の板碑(藍の館)	平成19.8.2～8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め(東かがわ市歴史民俗資料館)	平成19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル(兵庫県立人と自然の博物館)	平成20.5.3～5.5	3	4,339
和泉層群の化石(東かがわ市歴史民俗資料館)	平成20.7.19～8.31	38	523
海部郡の古代・中世(日和佐図書・資料館)	平成20.7.19～9.7	44	431
那賀川平野の貝化石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平成20.9.25～11.9	41	956
達磨経路 横山天然の世界(藍の館)	平成21.4.4～4.29	22	250
知らせる道具-広告(東かがわ市歴史民俗資料館)	平成21.7.18～8.31	39	425
浜辺の植物(海陽町立博物館)	平成21.7.25～8.30	32	401
国会議事堂の石(阿南市立阿波公方・民俗資料館)	平成21.9.25～11.5	36	318
世界の昆虫(吉野川市美郷(ほたる館))	平成21.11.21～22.1.25	52	220
「ジオプラザ阿南」那賀川流域と県南部地域の化石展(阿南市科学センター)	平成22.7.17～8.15	26	1,431
旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展(日和佐図書・資料館)	平成22.7.21～9.5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①(貞光ゆうゆう館)	平成22.9.18～9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②(海陽町立博物館)	平成22.9.23～10.3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③(松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)	平成22.10.9～10.17	8	1,242
空から見た徳島(日和佐図書資料館)	平成23.7.22～9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業(日和佐図書資料館)	平成24.9.6～9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島の自然史」(郷土文化会館)	平成25.1.26・27	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺(日和佐図書資料館)	平成25.7.5～7.31	22	493
九州・五島行き-以西底曳き網漁業-(美波町由岐公民館)	平成25.10.25～11.4	11	249
ミニ・アンモナイト展(アミコ)	平成26.4.15～5.13	28	8,512
空から見た徳島(佐那河内ナイチャーセンター)	平成27.7.1～9.30	78	1,366
漂着物展(海陽町立博物館)	平成27.10.3～10.18	14	640
朱を考古学する(阿南市文化会館)	平成27.12.6～28.1.6	26	500
「シカトカシカ」パネル展(那賀町四季美谷温泉)	平成28.4.18～10.9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く(芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治)展(つるぎ町蔵本屋)	平成28.10.1～10.31	30	320
移動展「阿波の道を歩く(芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治)展(鳴門市立図書館)	平成28.11.5～11.30	23	4,052
移動展「阿波の道を歩く(芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治)展(海陽町立博物館)	平成28.12.10～1.22	33	282
移動展:県障害者の集い(あわぎんホール)	平成28.11.27	1	15
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤も顔科探検道筋」(阿南市文化会館)	平成29.1.14～29.2.26	35	320
合計		1,193	56,938

●利用者総数年度別一覧

(単位：人)

年度	常設展		常設展者計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展	普及行事者	その他	利用者総数
	有観覧者	無観覧者							
2	88,722	8,555	97,277	-	-	-	646	-	97,923
3	99,282	37,835	137,117	24,237	-	-	1,387	-	162,741
4	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8	22,434	34,687	57,121	16,101	-	-	2,419	-	75,641
9	18,573	26,147	44,720	12,200	-	-	2,232	-	59,152
10	16,590	22,301	38,891	16,041	-	-	1,890	-	56,822
11	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
27	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	93,872
28	6,816	61,637	68,453	74,076	2,167	92,572	9,146	7,550	253,964
累計	594,769	775,816	1,370,585	580,073	191,810	136,565	142,327	228,655	2,650,015

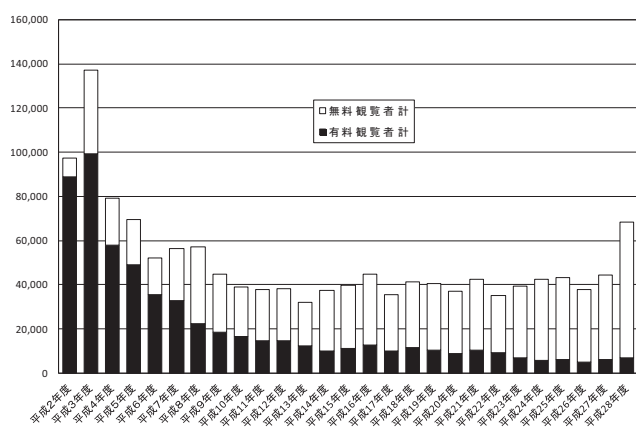
※特別陳列は自主事業のみの観覧者数。
※その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。25年度以降は出前授業の受講人数も加算。

●人権啓発等観覧者数

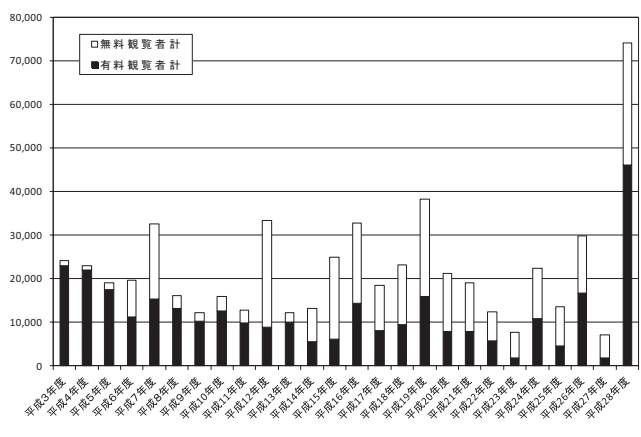
(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平成12. 8. 26～9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平成13. 8. 4～8. 12	8	1,290
〃 第2回	平成13. 12. 4～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平成14. 7. 27～8. 4	8	1,066
〃 第2回	平成14. 12. 3～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平成15. 8. 2～8. 10	8	1,414
〃 第2回	平成15. 12. 2～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平成16. 8. 7～8. 15	8	1,568
〃 第2回	平成16. 12. 7～12. 12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平成17. 8. 6～8. 14	8	1,594
〃 第2回	平成17. 12. 6～12. 11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平成18. 8. 5～8. 13	8	1,532
〃 第2回	平成18. 12. 5～12. 10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平成19. 12. 4～12. 9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平成20. 12. 2～12. 7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平成21. 12. 1～12. 6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平成22. 11. 30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平成23. 12. 6～12. 11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平成24. 12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平成25. 12. 4～12. 10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平成26. 12. 10～12. 16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平成27. 12. 9～12. 15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平成28. 12. 9～12. 15	6	244
合計		156	18,647

●常設展観覧者数



●企画展観覧者数



●その他(啓発を除く共催事業)観覧・参加者数

(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平成15. 7. 19～8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平成16. 7. 30～8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平成17. 8. 20～8. 28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平成18. 3. 25～3. 26	2	555
子どもの絵	平成18. 4. 29～5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平成18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平成19. 2. 2～2. 3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平成19. 2. 17～2. 18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平成19. 10. 27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光-守護町勝瑞から城下町徳島へ」(徳島城博物館)	平成19. 12. 4～20. 1. 27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平成20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成20. 8. 9～8. 10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平成20. 10. 18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平成20. 11. 15～11. 16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成21. 8. 8～8. 9	2	1,212
スタジオリ・レイアウト展(21年度)	平成22. 2. 20～3. 31	34	33,618
スタジオリ・レイアウト展(22年度)	平成22. 4. 1～4. 18	16	25,113
軌跡-継続と蓄積-	平成22. 10. 23～11. 23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平成23. 2. 5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平成23. 3. 21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平成23. 7. 20～8. 28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成23. 8. 6～8. 7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平成23. 10. 29～12. 4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平成24. 1. 28～3. 11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成24. 8. 4～8. 5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク①	平成24. 9. 30	1	5
鳥居ミュージアムトーク②	平成24. 11. 25	1	27
鳥居特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ-北方のまなざし-	平成25. 1. 26～3. 3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成25. 8. 3～8. 4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書-外国語・学問・文学-	平成25. 8. 30	1	50
鳥居ミュージアムトーク①	平成25. 9. 29	1	14
鳥居ミュージアムトーク②	平成25. 11. 24	1	14
共催事業第63回四国中世史研究会	平成25. 12. 22～12. 23	2	47
鳥居ミュージアムトーク③	平成26. 1. 19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-	平成26. 1. 25～3. 2	32	1,753
鳥居ミュージアムトーク①	平成26. 6. 15	1	9
鳥居ミュージアムトーク②	平成26. 9. 14	1	7
鳥居ミュージアムトーク③	平成27. 11. 23	1	18
鳥居ミュージアムトーク④	平成27. 1. 17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-	平成27. 1. 24～3. 1	32	2,827
鳥居ミュージアムトーク①	平成27. 6. 14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成27. 8. 9～8. 10	2	1,743
ufotable15周年展	平成27. 9. 26～10. 12	25	8,180
鳥居ミュージアムトーク②	平成27. 11. 22	1	11
鳥居ミュージアムトーク③	平成28. 1. 17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵-世界に広がる知の遺産-	平成28. 1. 23～2. 28	32	1,831
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見-国内外の視点から-	平成28. 2. 21	1	199
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平成28. 8. 6～8. 7	2	1,689
鳥居ミュージアムトーク①	平成28. 6. 12	1	15
鳥居ミュージアムトーク②	平成28. 9. 25	1	10
鳥居ミュージアムトーク③	平成28. 11. 13	1	24
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ-鳥居龍蔵、南アメリカを行く-	平成29. 1. 28～3. 5	32	2,905
鳥居企画展 記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査-鳥居龍蔵の思いを受けて-	平成29. 2. 5	1	51
徳島歴史文化フォーラム	平成29. 2. 19	1	126
特別陳列「古代の形 徳島の宋」関連若杉山遺跡現地見学会	平成29. 2. 26	1	75
合計		526	200,962

●館内各種展示観覧者数(観覧者数把握のみ)(単位：人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男-酒井孫蔵×現代アーティスト-大久保英治」展(「阿波の街道・福路路」のコーナー)	平成28. 7. 20～8. 28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平成28. 9. 1～平成29. 2. 2	128	19,364
合計		164	76,348

XI 施設の概要

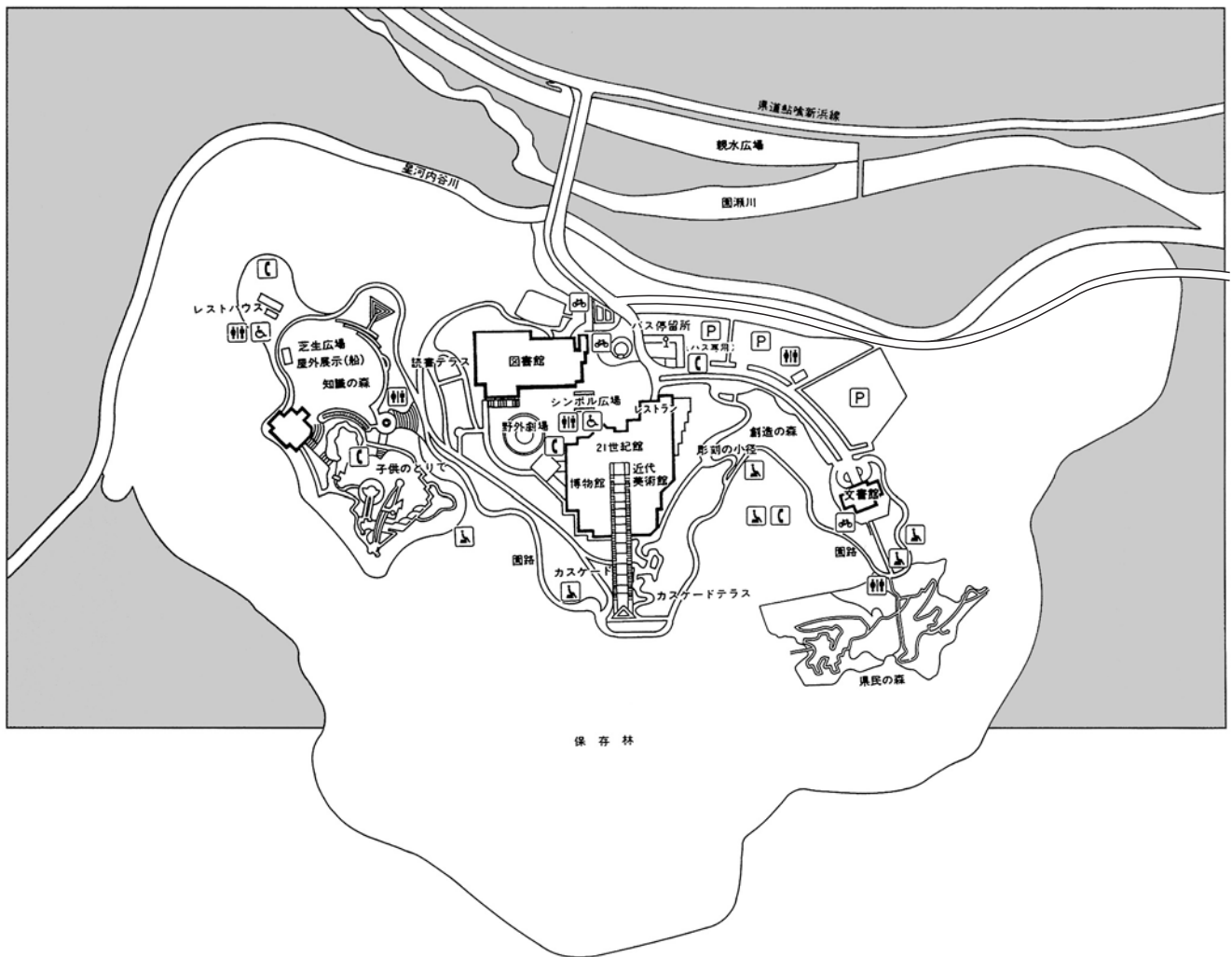
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和55年 1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年 2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年 3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年 3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年 1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年 8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年 3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年 3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年 7月	博物館展示工事着手
平成元年 4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2年 3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3年 2月	博物館資料収集委員会設置
平成 4年 3月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4年 9月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5年 3月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録〔昭和 35.6〕を変更）
平成 7年 4月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7年 7月 ～ 8年 3月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8年 4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8年12月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成12年10月 ～11月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

平成14年4月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成15年7月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成17年10月 ～11月	文化の森総合公園開園15周年記念企画展「ふるさと再発見—15の人・もの・場所—」を開催
平成22年4月 ～23年3月	文化の森総合公園開園20周年記念事業を実施。中核事業は、開園20周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成24年9月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満65歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者1名の常設展・企画展観覧料を免除
平成25年3月	博物館管理規則の一部改正により、12月28日の開館を実施
平成27年4月 ～28年3月	文化の森総合公園開園25周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわりの世界—門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施

2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3館棟）
●延床面積	22,382㎡（4館合計—積層部分を含めると23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
●設計	(株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
●施行	
建築	大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
電気	四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
空調	東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
管	朝日工業社・大成設備 共同企業体
エレベータ	(株)東芝
家具	富士ファニチア(株)
移動展示ケース	(株)三井
展示	(株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

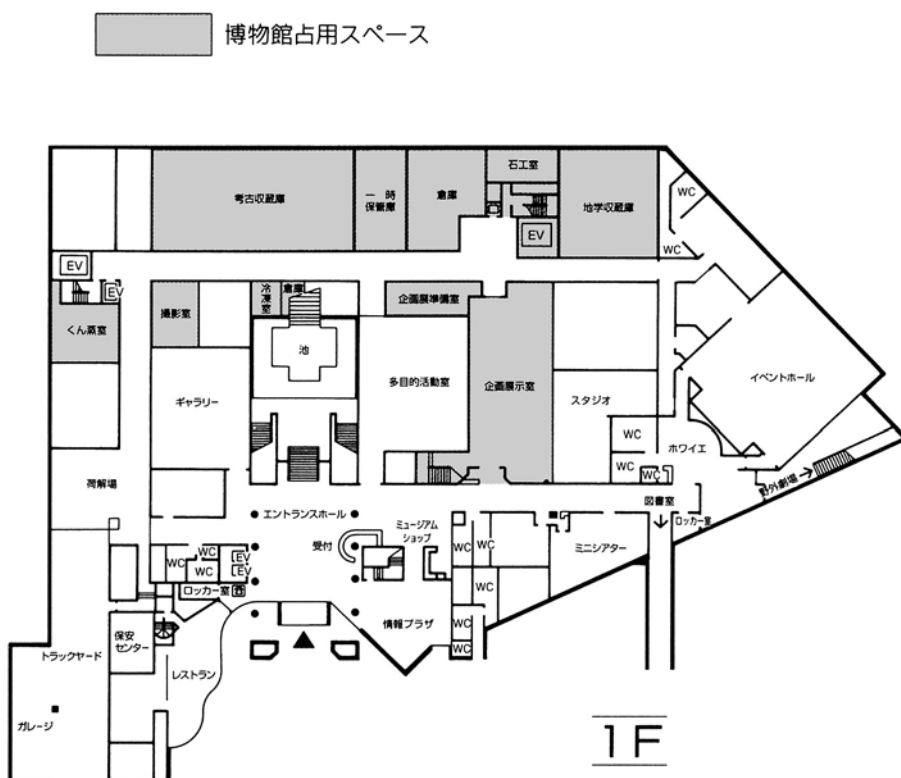
2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

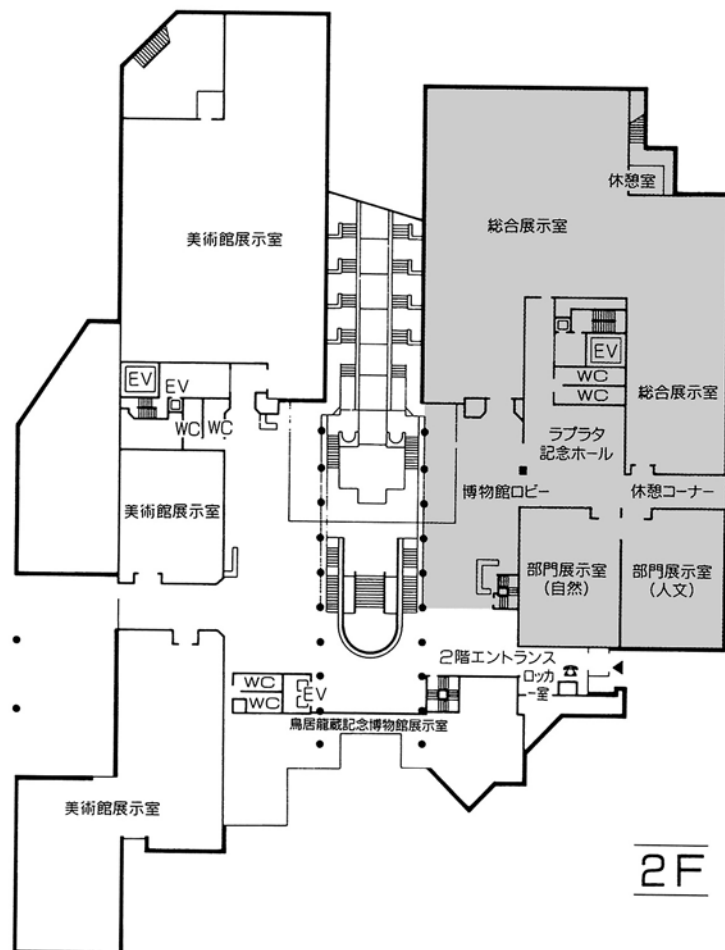
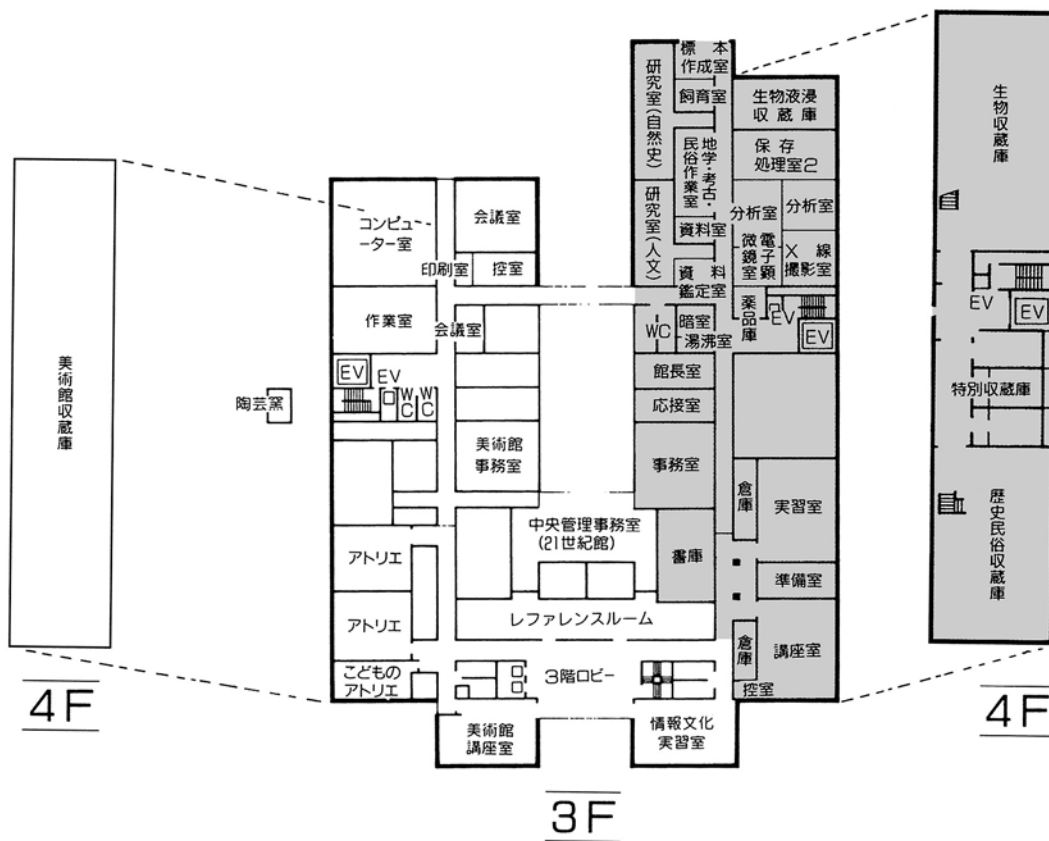
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。





XII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例 [抜粋]

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 平成28年3月18日 徳島県条例第33号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認め

るときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。
- 4 (省略)
- 5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1（第4条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体(20人以上をいう。以下同じ。)	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

別表第2（第4条関係）

区分	単位	金額
博物館講座室	午前	2,160円
	午後	3,490円

(他館の施設等は省略)

(備考)

- 1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時から午後9時までをいう。
- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表

の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。

- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

最近改正 平成25年3月29日 徳島県教育委員会規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を館長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、館長が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 館長は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとする

きは、直ちにその旨を文書で館長に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成24年3月30日 徳島県教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成29年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に自然課及び人文課を置く。

2 前項の課の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。
- (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務

(所長等の職務)

第32条 総合教育センター及び埋蔵文化財総合センターの所長、文書館及び二十一世紀館の館長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館

(総合教育センターその他の職は省略)

- 2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、教育委員会が指定する職員が、その職務を代行する。ただし、やむを得ない事由により教育委員会が教育機関の長の職務を代行する職員を指定することができないときは、当該機関に属する副所長、次長又は副館長（二人以上置かれているときは、当該教育機関の長が指定する次長又は副館長）が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
課長補佐	上司の命を受け、特に高度の知識又は経験を必要とする事務、技術又は専門的事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する専門的事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識または経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的な事務に従事する。
係長	上司の命を受け、当該教育機関の事務の事務に関し命ぜられた事項又は係の事務を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に関し命ぜられた事項を処理する。
主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は技術若しくは専門的事務に従事する。
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務又は技術に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

(附属機関)

名称	庶務を担当する課又は教育機関
徳島県立博物館協議会	博物館

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

(事務局の各審議会、他館の協議会等は省略)

徳島県立博物館年報 第26号（平成28年度）

平成29(2017)年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）

TEL (088)668-3636 FAX (088)668-7197

Eメール museum@mt.tokushima-ec.ed.jp

ホームページ <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>

印 刷：徳島県教育印刷株式会社
